

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第7集

埼玉県ふじみ野市

# 市内遺跡群 6

2011,10

ふじみ野市教育委員会

## はじめに

ふじみ野市は平成 17 年 10 月の合併により新たな歴史を歩みはじめました。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2 万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることが出来ます。それぞれに特色のある地域の歴史も、一つの大きな流れとして捉えると、改めてこの地域の繋がりがや関係の深さを感じます。そして、現在のふじみ野市も歴史的に大きな画期にあるといえます。

ふじみ野市は、都心から 30km 圏内という立地条件にあるため、昭和 30 年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きな変化をしてきました。そして今、合併により更なる変貌を遂げようとしています。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。発掘調査の成果は、近年の開発ラッシュに伴う店舗や住宅建設によるものが主体です。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

本書は、民間の開発事業者からの委託を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。将来にわたってこれらの資料を、地域の文化・歴史を学ぶ糧として広く皆様方に活用していただければ幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担と、ご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁・埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課・市関係各課・調査関係者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼と感謝を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会  
教育長 矢島 秀一

## 例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査38件と発掘調査9件の報告書である。
2. 2008年度に行なった試掘調査、個人住宅の本調査及び整理作業は、総経費13,002,657円に対し、国庫(6,500,000円)、県費(3,250,000円)の補助金の交付を受け、2008(平成20)年4月7日から2009(平成21)年3月31日まで実施したものである。

### 3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	高崎直成
担 当 課	生涯学習課文化財保護係		鍋島直久
教 育 長	松下勇司(平成20年4月1日～平成21年11月30日)	庶 務 担 当	松原靖子(～平成21年3月31日)
	矢島秀一(平成22年3月19日～)		國分英良(平成21年4月1日～)
生涯学習課長兼参事	田中節子(平成20年4月1日～平成21年3月31日)		柳澤健司(平成23年4月1日～)
	綾部誠(平成21年4月1日～)	発掘調査員補	越村 篤
文化財保護係長	坪田幹男(～平成23年3月31日)	嘱 託 員	藤牧守絵
	橋本鶴人(平成23年4月1日～)	臨時的任用職員	高橋京子

4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。

本書の執筆は高崎が行なった。まとめについては文末に記した。

遺物接合・復元：中田藤子 石器実測：大久保明子、鈴木千恵子

土器実測：石垣ゆき子、大久保明子、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子

遺構・遺物図トレース：小林登喜枝

図版作成：青山奈保美、大久保明子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子

遺構写真：高崎直成、越村篤 遺物写真：高崎直成

図版作成の一部を(有)アルケリーサーチ、石器実測の一部を(有)文化財COMに委託した。放射性炭素年代測定に関しては(株)加速器分析研究所、自然化学分析に関してはバリノ・サーヴェイ(株)に委託した。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

会田明、阿部常樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、上田寛、越前谷理、大久保淳、大柴英雄、岡田賢治、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁富、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井潔、酒井智晴、桜井信枝、佐藤啓子、佐藤良博、堀野賀一、鈴木清、高木文夫、田中信、丹治剛、角田史雄、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、一本絵理、平野寛之、藤波啓容、堀巻之、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治

埼玉県教育局生涯学習文化財課、大井郷土資料館、(有)文化財COM、(有)アルケリーサーチ、

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略) 明石トクセ、新井和枝、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、井上晴江、井上麻美子、岩城英子、白井孝、内田潔、大久保明子、大曾根キク子、大野英理子、長田弘毅、金子君子、川中ひろみ、菊川繁子、小林こずい、西城満朗子、坂本民子、佐久間ひろ子、佐竹佳佳、篠崎忠三、清水公子、杉本佳久、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、高橋智也、滝沢久嘉、張民愛、寺井美和子、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、宮崎達夫、山内康代、山田陽子、米田昇三、若林紀美代

〈整理作業参加者〉(敬称略) 青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜枝、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、高橋智也、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子

## 凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図 1:4 土器拓影図 1:4 石器実測図 1:4、2:3 銭 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

掘乱  地山（ローム）  焼土  粘土  焼粘土 

土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○

(4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

(6) 遺物図版における screen-tone の指示。

スス付着  タール状付着  塗彩部分  釉薬 

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。



## 市内遺跡群6 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	iii
目 次	iv
挿図目次	v
表 目 次	viii
写真図版目次	viii

第1章 遺跡と調査の概要	1
Ⅰ 調査に至る経過	1
Ⅱ ふじみ野市の立地と環境	3
Ⅲ 市内の遺跡	4
第2章 川崎遺跡の調査	10
Ⅰ 遺跡の立地と環境	10
Ⅱ 川崎遺跡第25地点	14
Ⅲ 川崎遺跡第26地点	19
Ⅳ 川崎遺跡第27地点	35
Ⅴ 川崎遺跡第28地点	37
Ⅵ 川崎遺跡第29地点	45
Ⅶ 川崎遺跡第30地点	54
第3章 ハケ遺跡の調査	68
Ⅰ 遺跡の立地と環境	68
Ⅱ ハケ遺跡C区第8地点	68
第4章 権現山遺跡の調査	72
Ⅰ 遺跡の立地と環境	72
Ⅱ 権現山遺跡第23地点	73
第5章 亀居遺跡の調査	76
Ⅰ 遺跡の立地と環境	76
Ⅱ 亀居遺跡第63地点	76
Ⅲ 亀居遺跡第64地点	86
第6章 松山遺跡の調査	87
Ⅰ 遺跡の立地と環境	87
Ⅱ 松山遺跡第44地点	90
Ⅲ 松山遺跡第45地点	91
Ⅳ 松山遺跡第46地点	104
第7章 東久保遺跡の調査	105
Ⅰ 遺跡の立地と環境	105
Ⅱ 東久保遺跡第66地点	105
第8章 東久保西遺跡の調査	110
Ⅰ 遺跡の立地と環境	110
Ⅱ 東久保西遺跡第19地点	110
第9章 東中学校西遺跡の調査	112
Ⅰ 遺跡の立地と環境	112
Ⅱ 東中学校西遺跡第32地点	112
Ⅲ 東中学校西遺跡第33地点	113

第10章 亀久保堀跡遺跡の調査	115
Ⅰ 遺跡の立地と環境	115
Ⅱ 亀久保堀跡遺跡第31地点	115
第11章 駒林遺跡の調査	119
Ⅰ 遺跡の立地と環境	119
Ⅱ 駒林遺跡第5地点	121
Ⅲ 駒林遺跡第6地点	121
Ⅳ 駒林遺跡第7地点	122
第12章 西ノ原遺跡の調査	125
Ⅰ 遺跡の立地と環境	125
Ⅱ 西ノ原遺跡第142地点	127
Ⅲ 西ノ原遺跡第143地点	127
第13章 神明後遺跡の調査	128
Ⅰ 遺跡の立地と環境	128
Ⅱ 神明後遺跡第33地点	128
Ⅲ 神明後遺跡第34地点	140
Ⅳ 神明後遺跡第35地点	140
Ⅴ 神明後遺跡第36地点	141
第14章 小田久保遺跡の調査	142
Ⅰ 遺跡の立地と環境	142
Ⅱ 小田久保遺跡第7地点	142
第15章 本村遺跡の調査	144
Ⅰ 遺跡の立地と環境	144
Ⅱ 本村遺跡第119地点	147
Ⅲ 本村遺跡第120地点	147
第16章 東台遺跡の調査	149
Ⅰ 遺跡の立地と環境	149
Ⅱ 東台遺跡第50地点	153
Ⅲ 東台遺跡第51地点	154
第17章 石塔畑遺跡の調査	184
Ⅰ 遺跡の立地と環境	184
Ⅱ 石塔畑遺跡第1地点	184
Ⅲ 石塔畑遺跡第2地点	184
Ⅳ 石塔畑遺跡第3地点	184
Ⅴ 石塔畑遺跡第4地点	186
Ⅵ 石塔畑遺跡第5地点	186
第18章 まとめ	187

附 編 自然化学分析	189
------------	-----

写真図版	194
------	-----

抄 録	239
-----	-----

# 挿 図 目 次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	4
第 2 図	周辺の遺跡 (1/50,000)	6
第 3 図	ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)	8
第 4 図	川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)	10
第 5 図	川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)	13
第 6 図	川崎遺跡第 25 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	14
第 7 図	川崎遺跡第 25 地点掘立柱建物跡・ピット (1/60)	15
第 8 図	川崎遺跡第 25 地点溝・地下室 (1/60)	16
第 9 図	川崎遺跡第 25 地点出土遺物 (1/1・1/4)	18
第 10 図	川崎遺跡第 26・28・29・30 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)	19
第 11 図	川崎遺跡第 26 地点 H 52 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)	22
第 12 図	川崎遺跡第 26 地点 H 52 号住居跡掘方 (1/60)、竈 (1/30)	23
第 13 図	川崎遺跡第 26 地点 H 53 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)	24
第 14 図	川崎遺跡第 26 地点 H 53 号住居跡竈 (1/30)	25
第 15 図	川崎遺跡第 26 地点 H 54 号住居跡・掘方 (1/60)	26
第 16 図	川崎遺跡第 26 地点 H 54 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈 (1/30)	27
第 17 図	川崎遺跡第 26 地点土坑・ピット (1/30・1/60)	28
第 18 図	川崎遺跡第 26 地点 H 52 号住居跡出土遺物① (1/4)	31
第 19 図	川崎遺跡第 26 地点 H 52 号住居跡出土遺物②・H 53 号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)	32
第 20 図	川崎遺跡第 26 地点 H 54 号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)	33
第 21 図	川崎遺跡第 26 地点土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4)	34
第 22 図	川崎遺跡第 27 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)	35
第 23 図	川崎遺跡第 27 地点溝 1・土坑 1 (1/60)	36
第 24 図	川崎遺跡第 28 地点 H 55・H56 号住居跡・掘方 (1/60)	38
第 25 図	川崎遺跡第 28 地点 H 55 号住居跡竈 (1/30)	39
第 26 図	川崎遺跡第 28 地点 H 57 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)	40
第 27 図	川崎遺跡第 28 地点 H 57 号住居跡竈 (1/30)	41
第 28 図	川崎遺跡第 28 地点土坑 1 (1/60)、土坑 2 (1/30)	42
第 29 図	川崎遺跡第 28 地点 H 55・H 56・H 57 号住居跡出土遺物 (1/4)	43
第 30 図	川崎遺跡第 28 地点土坑・遺構外出土遺物 (1/4)	44
第 31 図	川崎遺跡第 29 地点 H 58 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)	46
第 32 図	川崎遺跡第 29 地点 H 58 号住居跡竈 (1/30)	47
第 33 図	川崎遺跡第 29・30 地点 H 59 号住居跡 (1/60)	48
第 34 図	川崎遺跡第 29・30 地点 H 59 号住居跡竈 (1/30)	49
第 35 図	川崎遺跡第 29・30 地点 H 59 号住居跡掘方・遺物出土状況図 (1/60)	50
第 36 図	川崎遺跡第 29 地点溝 1・2 (1/60)	51
第 37 図	川崎遺跡第 29 地点 H 58・H 59 号住居跡・溝・遺構外出土遺物 (1/1・1/4)	53
第 38 図	川崎遺跡第 30 地点 H 60 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)	55
第 39 図	川崎遺跡第 30 地点 H 60 号住居跡竈 (1/30)	56
第 40 図	川崎遺跡第 30 地点 H 61 号住居跡 (1/60)	57
第 41 図	川崎遺跡第 30 地点 H 61 号住居跡掘方・遺物出土状況図 (1/60)	58
第 42 図	川崎遺跡第 30 地点 H 61 号住居跡竈 (1/30)	59
第 43 図	川崎遺跡第 30 地点 H 62 号住居跡・掘方 (1/60)	60
第 44 図	川崎遺跡第 30 地点溝・土坑・ピット (1/60)	61
第 45 図	川崎遺跡第 30 地点土坑 (1/60)	62

第 46 図	川崎遺跡第 30 地点井戸 (1/60)・	64
第 47 図	川崎遺跡第 30 地点 H 60・H 61・H 62 号住居跡出土遺物 (1/4)・	66
第 48 図	川崎遺跡第 30 地点土坑・溝・遺構外出土遺物 (1/4・2/3・1/1)・	67
第 49 図	ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	68
第 50 図	ハケ遺跡遺構分布図 (1/2,000)・	70
第 51 図	ハケ遺跡 C 区第 8 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60)、出土遺物 (1/4)・	71
第 52 図	権現山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	72
第 53 図	権現山遺跡遺構分布図 (1/2,000)・	74
第 54 図	権現山遺跡第 23 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)・	75
第 55 図	亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	76
第 56 図	亀居遺跡遺構分布図 (1/1,500)・	77
第 57 図	亀居遺跡第 63 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)・	79
第 58 図	亀居遺跡第 63 地点 16 号住居跡・不明遺構 (1/60)・	80
第 59 図	亀居遺跡第 63 地点トレンチ 1 溝 (1/60)・	81
第 60 図	亀居遺跡第 63 地点トレンチ 2 ビット (1/60)・	82
第 61 図	亀居遺跡第 63 地点トレンチ 3・4 ビット (1/60)・	83
第 62 図	亀居遺跡第 63 地点トレンチ 5 ビット (1/60)、不明遺構 1・土坑・ビット・溝・遺構外出土遺物 (1/4・1/2)・	84
第 63 図	亀居遺跡第 64 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)・	86
第 64 図	松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	87
第 65 図	松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)・	89
第 66 図	松山遺跡第 44 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)・	90
第 67 図	松山遺跡第 45 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)・	92
第 68 図	松山遺跡第 45 地点 H 34 号住居跡 (1/60)・	93
第 69 図	松山遺跡第 45 地点 H 34 号住居跡掘方 (1/60)・	94
第 70 図	松山遺跡第 45 地点 H 34 号住居跡竈 (1/30)・	95
第 71 図	松山遺跡第 45 地点 H 35 号住居跡・掘方 (1/60)・	96
第 72 図	松山遺跡第 45 地点 H 35 号住居跡遺物・炭化物出土状況図 (1/60)・	97
第 73 図	松山遺跡第 45 地点 1 号掘立柱建物跡 (1/60)・	98
第 74 図	松山遺跡第 45 地点 3 号掘立柱建物跡 (1/60)・	99
第 75 図	松山遺跡第 45 地点溝 1～6 (1/60)・	100
第 76 図	松山遺跡第 45 地点溝 7 (1/100)・	101
第 77 図	松山遺跡第 45 地点溝 8～10・ビット (1/60)・	102
第 78 図	松山遺跡第 45 地点 H 34・H 35 号住居跡・遺構外出土遺物 (1/2・1/4)・	104
第 79 図	松山遺跡第 46 地点遺構区域図 (1/300)・	104
第 80 図	東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	105
第 81 図	東久保遺跡第 66 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)・	107
第 82 図	東久保遺跡第 66 地点溝 1～3 (1/60)、出土遺物 (1/4)・	108
第 83 図	東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	110
第 84 図	東久保西遺跡第 19 地点調査区域図 (1/300)・	111
第 85 図	東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	112
第 86 図	東中学校西遺跡第 32・33 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60)・	114
第 87 図	亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・	115
第 88 図	亀久保堀跡遺跡遺構分布図 (1/2,500)・	116
第 89 図	亀久保堀跡遺跡第 31 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60)、堀跡 (1/120)・	118
第 90 図	駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)・	119
第 91 図	駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)・	121

第 92 図	駒林遺跡第 5 ～ 7 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/2) ・ ・ ・ ・ ・	123
第 93 図	駒林遺跡第 7 地点溝 1 ～ 3 (1/60)、出土遺物 (1/2) ・ ・ ・ ・ ・	124
第 94 図	西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ・ ・ ・ ・ ・	125
第 95 図	西ノ原遺跡第 142・143 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	127
第 96 図	神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ・ ・ ・ ・ ・	128
第 97 図	神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500) ・ ・ ・ ・ ・	130
第 98 図	神明後遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、トレンチ 1 溝 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	132
第 99 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 1 溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	133
第 100 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 1 井戸・溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	134
第 101 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 2 落とし穴・溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	135
第 102 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 2 溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	136
第 103 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 3 溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	137
第 104 図	神明後遺跡第 33 地点トレンチ 3・4 溝・土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	138
第 105 図	神明後遺跡第 33 地点井戸・土坑・溝・ビット・遺構外出土遺物 (1/1・1/2・2/3・1/4・1/6) ・ ・	139
第 106 図	神明後遺跡第 34 ～ 36 地点遺構配置図 (1/500・1/300)、土層図 (1/150)、ビット (1/60) ・ ・	141
第 107 図	小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ・ ・ ・ ・ ・	142
第 108 図	小田久保遺跡第 7 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150) ・ ・ ・ ・ ・	143
第 109 図	本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000) ・ ・ ・ ・ ・	144
第 110 図	本村遺跡遺構分布図 (1/3,000) ・ ・ ・ ・ ・	145
第 111 図	本村遺跡第 119・120 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、溝状遺構 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	148
第 112 図	東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ・ ・ ・ ・ ・	149
第 113 図	東台遺跡遺構分布図 (1/2,000) ・ ・ ・ ・ ・	150
第 114 図	東台遺跡第 50 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/80)、出土遺物 (1/4・1/2) ・ ・ ・	153
第 115 図	東台遺跡第 51 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150) ・ ・ ・ ・ ・	154
第 116 図	東台遺跡第 51 地点 177 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30) ・ ・ ・ ・ ・	155
第 117 図	東台遺跡第 51 地点 178・181 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	156
第 118 図	東台遺跡第 51 地点 178 号住居跡炉 (1/30)、ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	157
第 119 図	東台遺跡第 51 地点 179 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30) ・ ・ ・ ・ ・	159
第 120 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	160
第 121 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡遺物出土状況図 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	162
第 122 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡炉・遺物出土状況図 (1/30) ・ ・ ・ ・ ・	163
第 123 図	東台遺跡第 51 地点 182 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	165
第 124 図	東台遺跡第 51 地点土坑・ビット (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	166
第 125 図	東台遺跡第 51 地点 177 号住居跡出土遺物① (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	174
第 126 図	東台遺跡第 51 地点 177 号②・74 号・182 号住居跡出土遺物 (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	175
第 127 図	東台遺跡第 51 地点 178 号住居跡出土遺物① (1/4・2/3) ・ ・ ・ ・ ・	176
第 128 図	東台遺跡第 51 地点 178 号②・179 号住居跡出土遺物 (1/4・2/3) ・ ・ ・ ・ ・	177
第 129 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物① (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	178
第 130 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物② (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	179
第 131 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物③ (1/4) ・ ・ ・ ・ ・	180
第 132 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物④ (1/4・1/2) ・ ・ ・ ・ ・	181
第 133 図	東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物⑤ (1/4・2/3) ・ ・ ・ ・ ・	182
第 134 図	東台遺跡第 51 地点土坑・ビット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3) ・ ・ ・ ・ ・	183
第 135 図	石塔畑遺跡の地形と調査区 (1/4,000) ・ ・ ・ ・ ・	184
第 136 図	石塔畑遺跡第 1 ～ 4 地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150) ・ ・ ・ ・ ・	185
第 137 図	石塔畑遺跡第 5 地点調査区域図 (1/500)、土層図 (1/60) ・ ・ ・ ・ ・	186

## 表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表	1	第 32 表	松山道跡調査一覧表	88
第 2 表	2008 (平成 20) 年度埋蔵文化財調査一覧表	2	第 33 表	松山道跡古代住居跡一覧表	90
第 3 表	2008 (平成 20) 年度立会い調査一覧表	3	第 34 表	松山道跡第 45 地点遺構一覧表	103
第 4 表	周辺の道跡一覧表	7	第 35 表	松山道跡第 45 地点出土遺物観察表	103
第 5 表	ふじみ野市道跡一覧表	9	第 36 表	東久保道跡調査一覧表	106
第 6 表	縄文時代中期時間細分対比表	9	第 37 表	東久保道跡第 66 地点遺構一覧表	107
第 7 表	川崎道跡調査一覧表	11	第 38 表	東久保道跡第 66 地点出土遺物観察表	109
第 8 表	川崎道跡古代住居跡一覧表	12	第 39 表	東久保西道跡調査一覧表	111
第 9 表	川崎道跡第 25 地点遺構一覧表	17	第 40 表	東中学校西道跡調査一覧表	113
第 10 表	川崎道跡第 25 地点出土遺物観察表	17	第 41 表	亀久保堀跡道跡調査一覧表	117
第 11 表	川崎道跡第 26 地点遺構一覧表	21	第 42 表	亀久保堀跡道跡第 31 地点遺構一覧表	117
第 12 表	川崎道跡第 26 地点出土遺物観察表	29	第 43 表	駒林道跡調査一覧表	120
第 13 表	川崎道跡第 27 地点遺構一覧表	35	第 44 表	駒林道跡第 7 地点遺構一覧表	122
第 14 表	川崎道跡第 28 地点出土遺物観察表	39	第 45 表	駒林道跡第 6・7 地点出土遺物観察表	122
第 15 表	川崎道跡第 28 地点遺構一覧表	42	第 46 表	西ノ原道跡調査一覧表	126
第 16 表	川崎道跡第 29 地点遺構一覧表	45	第 47 表	神明後道跡調査一覧表	129
第 17 表	川崎道跡第 29 地点出土遺物観察表	52	第 48 表	神明後道跡住居跡一覧表	130
第 18 表	川崎道跡第 30 地点遺構一覧表	60	第 49 表	神明後道跡第 33 地点遺構一覧表	131
第 19 表	川崎道跡第 30 地点出土遺物観察表	65	第 50 表	神明後道跡第 33 地点出土遺物観察表	140
第 20 表	ハケ道跡調査一覧表	69	第 51 表	小田久保道跡調査一覧表	143
第 21 表	ハケ道跡縄文時代住居跡一覧表	69	第 52 表	本村道跡調査一覧表	146
第 22 表	ハケ道跡古代住居跡一覧表	69	第 53 表	東台道跡調査一覧表	151
第 23 表	ハケ道跡 C 区第 8 地点出土遺物観察表	71	第 54 表	東台道跡住居跡一覧表	152
第 24 表	権現山道跡調査一覧表	73	第 55 表	東台道跡第 50 地点出土遺物観察表	153
第 25 表	権現山道跡第 23 地点遺構一覧表	73	第 56 表	東台道跡第 51 地点 178 号住居跡ビット一覧表	158
第 26 表	権現山道跡第 23 地点出土遺物観察表	75	第 57 表	東台道跡第 51 地点 179 号住居跡ビット一覧表	158
第 27 表	亀居道跡調査一覧表	78	第 58 表	東台道跡第 51 地点 180 号住居跡ビット一覧表	164
第 28 表	亀居道跡住居跡一覧表	78	第 59 表	東台道跡第 51 地点 181 号住居跡ビット一覧表	164
第 29 表	亀居道跡第 63 地点遺構一覧表	81	第 60 表	東台道跡第 51 地点遺構一覧表	164
第 30 表	亀居道跡第 63 地点出土遺物観察表	85	第 61 表	東台道跡第 51 地点出土遺物観察表	168
第 31 表	亀居道跡第 64 地点出土遺物観察表	86			

## 写真図版目次

写真図版 1	川崎道跡第 25 地点	194	写真図版 25	東久保道跡第 66 地点、東久保西道跡第 19 地点、東中学校西道跡第 32・33 地点	218
写真図版 2	川崎道跡第 26 地点 (1)	195	写真図版 26	亀久保堀跡道跡第 31 地点、駒林道跡第 5～7 地点 (1)	219
写真図版 3	川崎道跡第 26 地点 (2)	196	写真図版 27	駒林道跡第 7 地点(2)、西ノ原道跡第 142・143 地点	220
写真図版 4	川崎道跡第 26 地点 (3)	197	写真図版 28	神明後道跡第 33 地点 (1)	221
写真図版 5	川崎道跡第 26 地点 (4)	198	写真図版 29	神明後道跡第 33 地点 (2)	222
写真図版 6	川崎道跡第 26 地点 (5)	199	写真図版 30	神明後道跡第 33 地点 (3)	223
写真図版 7	川崎道跡第 26 地点 (6)、27 地点	200	写真図版 31	神明後道跡第 33 地点 (4)	224
写真図版 8	川崎道跡第 28 地点 (1)	201	写真図版 32	神明後道跡第 34～36 地点	225
写真図版 9	川崎道跡第 28 地点 (2)	202	写真図版 33	小田久保道跡第 7 地点、本村道跡第 119・120 地点、東台道跡第 50 地点	226
写真図版 10	川崎道跡第 28 地点 (3)	203	写真図版 34	東台道跡第 51 地点 (1)	227
写真図版 11	川崎道跡第 29 地点 (1)	204	写真図版 35	東台道跡第 51 地点 (2)	228
写真図版 12	川崎道跡第 29 地点 (2)	205	写真図版 36	東台道跡第 51 地点 (3)	229
写真図版 13	川崎道跡第 29 地点 (3)	206	写真図版 37	東台道跡第 51 地点 (4)	230
写真図版 14	川崎道跡第 30 地点 (1)	207	写真図版 38	東台道跡第 51 地点 (5)	231
写真図版 15	川崎道跡第 30 地点 (2)	208	写真図版 39	東台道跡第 51 地点 (6)	232
写真図版 16	川崎道跡第 30 地点 (3)	209	写真図版 40	東台道跡第 51 地点 (7)	233
写真図版 17	川崎道跡第 30 地点 (4)	210	写真図版 41	東台道跡第 51 地点 (8)	234
写真図版 18	川崎道跡第 30 地点 (5)	211	写真図版 42	東台道跡第 51 地点 (9)	235
写真図版 19	ハケ道跡 C 区第 8 地点、権現山道跡第 23 地点、亀居道跡第 63 地点 (1)	212	写真図版 43	東台道跡第 51 地点 (10)	236
写真図版 20	亀居道跡第 63 地点 (2)、64 地点	213	写真図版 44	東台道跡第 51 地点 (11)	237
写真図版 21	松山道跡第 44 地点、45 地点 (1)	214	写真図版 45	石塔畑道跡	238
写真図版 22	松山道跡第 45 地点 (2)	215			
写真図版 23	松山道跡第 45 地点 (3)	216			
写真図版 24	松山道跡第 45 地点 (4)、46 地点	217			

## 第1章 遺跡と調査の概要

### I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市は、首都圏 30 km圏内の県南西部に位置する。2005(平成 17)年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.67 km<sup>2</sup>、人口は 2010(平成 22)年 2 月末現在 106,601 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。

昭和初期の太平洋戦争時には、福岡に通信施設や火工廠(造兵廠)が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も活発に行なわれた。現在は上福岡駅周辺の再開発とふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行なわれている。

ふじみ野市では平成 17 年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和 53 年度から合併まで)として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は、庁内関係各課と連絡調整を行ない、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課からの建築確認申請段階、都市整備課から

の開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」の提出を受けて事前協議を行なった。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ、現地踏査を実施し現地の状況を確認の上、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者に連絡をし、協議を行なった。

協議後、文化財保護法第 99 条第 5 項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施してきている。また専その個人の用に供する住宅(個人住宅)の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2008 年度は、国庫・県費補助対象の調査を 25 件、市単独費対象の調査 13 件を合わせ 38 件の試掘及び発掘調査を実施した。試掘調査の結果本調査を行なうことになったのは、個人住宅建設に伴う本調査が 8 件、公共事業に伴う本調査が 1 件、民間開発に伴う本調査は 3 件である。開発面積は 18,016 m<sup>2</sup>で、そのうち実質調査面積は 5,167 m<sup>2</sup>である。

過去 3 年間の調査件数と調査面積を第 1 表にあげてみる。また、2008 年度に行なった調査は第 2 表のとおりである。2008 年の 10 月以降、開発申請は急減しており、経済情勢を如実に示している。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表 過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

年度	件数・内訳 試掘件数 開発面積m <sup>2</sup>	個人住宅 本調査件数 開発面積m <sup>2</sup>	原因者負担 本調査件数 開発面積m <sup>2</sup>	調査原因の内訳
2006(平成 18)年度	54 件	8 件	9 件	個人住宅 23、共同住宅 7、集合住宅・店舗 1、分譲住宅 5、店舗 4、園舎改築 1、建物解体 1、宅地造成 8、学生寮 1、保育所 1、小学校 1、コンテナボックス設置 1
	59,934	1,340	26,988	
2007(平成 19)年度	33 件	4 件	9 件	個人住宅 11、共同住宅 6、分譲住宅 4、共同住宅及び分譲住宅 1、消防分団車庫 1、変電所 1、公民館分館 1 小学校 2、寺院・東裏 2、駐車場 1、学習塾 1 店舗兼事務所 1、道路築造 1
	69,902	1,580	55,564	
2008(平成 20)年度	38 件	8 件	4 件	個人住宅 24、共同住宅 1、分譲住宅 5、分譲及び店舗 1、付 44-L 1、道路築造 2、寄宿舍 2、プール 1、公園整備 1
	18,016	3,208	2,592	

第2表 2008(平成20)年度埋蔵文化財調査一覧表

	道路・地点名	申請地住所	調査面積 (㎡)	開発面積 (㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	川崎 25	川崎字地味 203番1 の一部 203番3の一部	55	1,033	個人住宅建設	4/14	4/15～17	奈良時代の掘立柱建物跡1、溝。 近代以降の地下近1、本調査
2	川崎 26	川崎字地味 230番5	228	228	個人住宅建設	4/21	4/22～5/17	奈良・平安時代型穴住居跡4、土坑、ビット。 近代以降の井戸1、本調査
3	川崎 27	川崎 1-7-1	112	350	分譲住宅建設	5/15～21		時期不明の溝1、土坑1、工事立会
4	川崎 28	川崎字地味 230-7	160	434	個人住宅建設	7/4,8,9	7/10～8/8	奈良・平安時代型穴住居跡2、土坑、ビット。 本調査
5	川崎 29	川崎字地味 230番1	108	203	個人住宅建設	7/9,10,11	7/14～8/22	奈良・平安時代型穴住居跡2、溝3、本調査
6	川崎 30	川崎字地味 230番6	200	200	個人住宅建設	7/17	7/18～9/5	奈良・平安時代型穴住居跡4、井戸3、土坑、溝5、 本調査
7	ハケC区8	福岡3丁目2069-9	11	99	個人住宅建設	3/17		住居跡確認、工事立会
8	権蔵山23	滝1丁目6番7	12	1,576	古墳整備	10/23～29		土坑、集石、工事立会
9	亀居 63	亀久保2丁目3番5	312	998	モデルルーム	9/17～ 10/3,14,15		縄文時代型穴住居跡1、土坑、ビット。 近世以降の溝1、工事立会
10	亀居 64	細々岡2丁目28番10	56	907	分譲住宅建設	9/1,2		遺構・遺物無し、慎重工事
11	松山 44	築地3丁目2-10,2-14	35	132	個人住宅建設	6/9～11		遺構・遺物無し、慎重工事
12	松山 45	築地3丁目4-7の一部 外6筆	390	390	道路(上下水道含 む)築造	9/4～30	10/1～23	奈良・平安時代型穴住居跡2、掘立柱建物跡2、 型穴式遺構1、時期不明の溝10、土坑、ビット、 本調査
13	松山 46	築地3丁目1-33の一 部、1-35の一部	28	309	個人住宅建設	2/17		遺構・遺物無し、慎重工事
14	東久保 66	ふじみ野2丁目19番 4,19番5	261	862	分譲住宅建設	5/22～6/11		溝3、慎重工事
15	東久保 西 19	ふじみ野2丁目11- 3,11-4	186	824	個人住宅建設	7/2,3		遺構・遺物無し、慎重工事
16	東中学校西 32	ふじみ野3丁目10番12	302	1,231	分譲及び店舗建設	6/13～25		遺構・遺物無し、慎重工事
17	東中学校西 33	ふじみ野4丁目3-8の一 部	37	215	個人住宅建設	10/3		遺構・遺物無し、慎重工事
18	亀久保 跡 31	ふじみ野2丁目15-4	240	661	個人住宅建設	2/6～10	2/12,13	古代～中世の副葬1、本調査
19	駒林 5	大字駒林字新田前 256(仮換地指定 30街区2)	509	509	分譲住宅建設	4/9～16	5/30～6/28	縄文時代集石3、中世の地下式坑1、型穴式 遺構25、溝4、欄干、ビット、本調査
20	駒林 6	大字駒林字新田前 248-2(仮換地1街区 27号1)	40	257	個人住宅建設	8/27		遺構無し、工事立会
21	駒林 7	駒林土地区画整理事業 地内28街区5画地	54	152	個人住宅建設	2/3	2/4,5	時期不明の堀、溝2、本調査
22	西ノ原 142	うれし野1丁目6-2	63	296	寄宿舎(24戸)	4/4～7		遺構・遺物無し、慎重工事
23	西ノ原 143	うれし野2丁目17-3	47	287	寄宿舎(25戸)	3/23		遺構・遺物無し、慎重工事
24	神明後 33a	苗間 240-2	209	298	個人住宅建設	4/25～5/16		時期不明の溝とし穴1、中世以降の溝6、井戸2、 土坑、ビット、工事立会
25	神明後 33b	苗間 240-2		357	分譲住宅建設			
26	神明後 34	苗間字神明後 283- 1,284-1の一部	357	1,693	分譲住宅建設	4/30～5/15	5/16～28	縄文時代住居跡1、溝とし穴1、集石3、ビット、 本調査
27	神明後 35	苗間字神明後 293番6,20	26	247	個人住宅建設	8/1		遺構・遺物無し、慎重工事
28	神明後 36	苗間字神明後 293-3	37	165	個人住宅建設	9/2		ビット1、遺物無し、慎重工事
29	小田久保 7	大井字西原 1023-9,8	108	333	個人住宅建設	5/19～21		遺構遺物無し、慎重工事
30	本村 119	市沢3丁目4-24の一部	245	559	鉄骨同住宅建設	5/27～6/4	6/4～19	中世の地下式坑2、土坑16、ビット58、本調査
31	本村 120	市沢2丁目2番2	15	141	個人住宅建設	12/18		遺構遺物無し、慎重工事
32	東台 50	大井字東台 764-1の一部	208	646	小学校プール建設	7/14～22		遺構遺物無し、慎重工事
33	東台 51	大井字東台 648-2	297	297	個人住宅建設	3/10～17	3/18～5/7	縄文時代住居跡6、土坑、ビット、本調査
34	石塔 堀 1	大井字東台 769番9	58	200	個人住宅建設	11/17～20		遺構・遺物無し、慎重工事
35	石塔 堀 2	大井字東台 769番11,22	42	235	個人住宅建設	11/18～21		遺構・遺物無し、慎重工事
36	石塔 堀 3	大井字東台 769番13,14	46	204	個人住宅建設	11/19～25		遺構・遺物無し、慎重工事
37	石塔 堀 4	大井字東台 769番17	48	200	個人住宅建設	11/19～25		遺構・遺物無し、慎重工事
38	石塔 堀 堀 辺	大井字東台 763-4,6	22	289	個人住宅建設	1/13,14		遺構・遺物無し、慎重工事
	合計		5,164	18,016				

第3表 2008(平成20)年度立会い調査一覧表

	道路名	申請地住所	開発面積 (㎡)	原 因	立会い日	備 考
1	鶴ヶ岡	池久保字三角 1703-7	325	木造中層建工場建設	7/22	現地表面下40cmで地山p-H樹確認。建物基礎は地下掘削がなく、工事立会
2	鶴ヶ岡	池久保大野原 1643番3	201	個人住宅建設	10/16	現地表面下150cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会い
3	北野	北野 1-3110-2	217	集合住宅建設	5/15	地表面下30cmまで遺構遺物無し、慎重工事
4	北野	大原2丁目2076番29	101	分譲住宅建設	6/17	現地表面下70cmで地山p-H樹確認。遺構遺物無し、慎重工事
5	北野	北野2丁目1818-1,5,22,28	105	個人住宅建設	6/20	現地表面下110cmで地山p-H樹確認。保護樹有、慎重工事
6	滝	滝 3-23,3-141	369	個人住宅建設	6/6	現地表面下30cmは褐色土の客土、その下60～70cmは灰色の砂状客土し、慎重工事
7	長宮	中丸1丁目5-17	87	個人住宅建設	8/4	盛土50cm、さらに30cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
8	長宮	西原2丁目5-30	120	個人住宅建設	7/23	現地表面下90cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
9	長宮	西原2丁目5-23	120	個人住宅建設	11/5	現地表面下80cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会い
10	亀居	鶴ヶ岡2丁目28-14,15	298	個人住宅建設	7/24	現地表面下55cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
11	江川東	東久保1丁目172番6	107	個人住宅建設	7/24	40～90cmの客土。保護樹有、工事立会
12	東久保	ふじみ野2-3-17	100	個人住宅建設	7/28	現地表面下80cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
13	東久保	ふじみ野1丁目5-5	427	個人住宅建設	7/29	現地表面下50cmで地山p-H樹確認。15cm客土、保護樹有、工事立会
14	駒林	駒林字新田前 259-4～7,260-1	284	区画整理事業に伴う 換地の造成	12/25	50cm以上盛土有、工事立会
15	神明後	苗間字神明後272-2,271-1の一部	152	仮住宅木造2階建て 建設	7/8,22	現地表面下70cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
16	神明後	苗間281番12,16	100	個人住宅建設	8/6	現地表面下90cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
17	神明後	苗間236-1	148	個人住宅建設	8/8	盛土30cm、さらに30cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
18	神明後	苗間374-19	97	個人住宅建設	10/30	現地表面下90cmで地山p-H樹確認。保護樹有、工事立会
19	神明後	苗間271-1	1,518	個人住宅建設	1/23	現地表面下90～130cmで地山p-H樹確認。50～60cm客土、保護樹有、工事立会
20	本村	大井2丁目8番4	320	個人住宅建設	5/19	地表下70～130cmでp-H樹確認。保護樹有、工事立会
	合計		5,195			

## II ふじみ野市の立地と環境

ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道(国道254号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田圃風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地に接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地

(大井台)がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧き源をもつ。湧き源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、雨水からの流出によるものの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦に見えるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。





域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6 mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第Ⅶ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では穴穴、落し穴が散在するのみである。

【弥生・古墳時代】荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環壕集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5 kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。

またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦

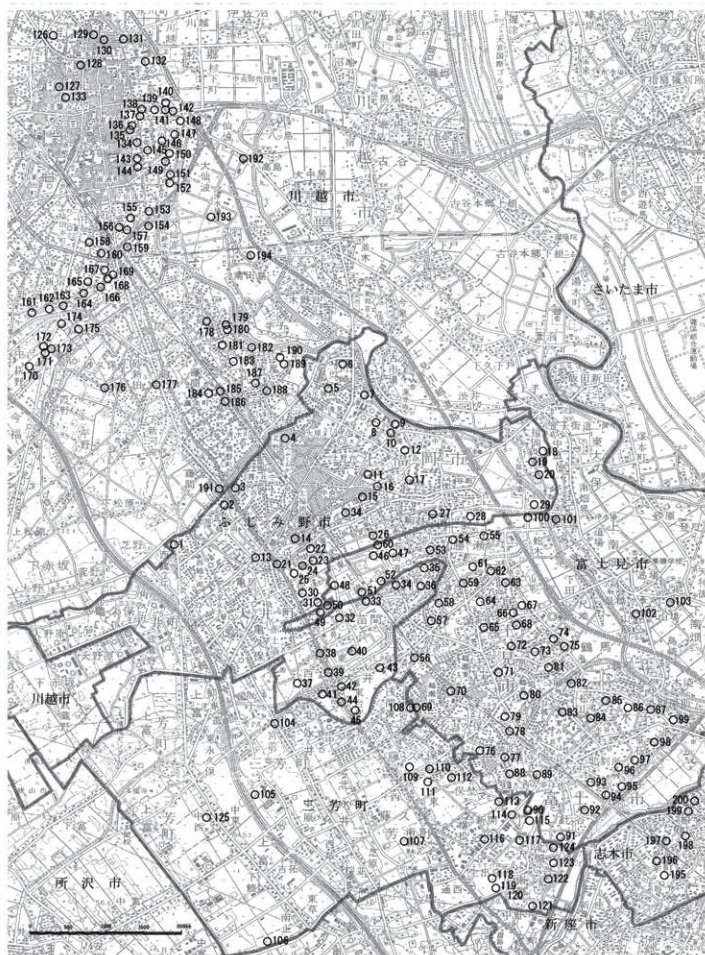
塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葦石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄輝寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ぼせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。【近世】近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄輝寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である造兵廠東京工廠福岡工場（通称火工廠）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水橋などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



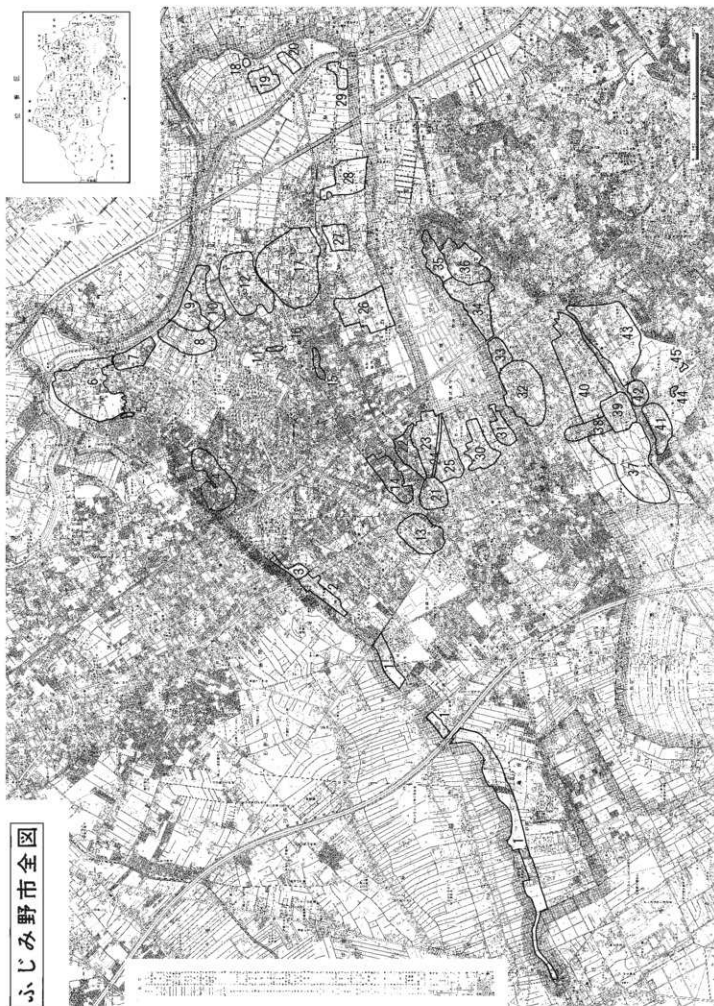
第2図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第4表 周辺の道跡一覧表

番・市町村	道跡名	時代	旧石	縄文	弥生・古墳	奈良・平安	中世以降
ふじみ野市							
1	関ヶ原西道跡	○	○				
2	関ヶ原東道跡	○	○				
3	西道跡	○	○				
4	北野道跡	○	○				
5	川崎橋六郎道跡	○	○				
6	川崎道跡	○	○				
7	八ヶ岳道跡	○	○				
8	上野岡川道跡	○	○				
9	竜崎山道跡・ 龍崎山古墳群	○	○				
10	滝道跡	○	○				
11	西原道跡	○	○				
12	長谷道跡	○	○				
13	亀田道跡	○	○				
14	関ヶ原道跡	○	○				
15	富士見台横穴	○	○				
16	龍道跡	○	○				
17	松山道跡	○	○				
18	天神道跡	○	○				
19	龍山道跡	○	○				
20	川谷道跡	○	○				
21	江川南道跡	○	○				
22	江川東道跡	○	○				
23	東久保道跡	○	○				
24	龍久保道跡	○	○				
25	東久保西道跡	○	○				
26	鶴田道跡・鶴田小中遺跡	○	○				
27	龍田新山道跡	○	○				
28	養老道跡	○	○				
29	伊佐島道跡	○	○				
30	東中学校西道跡	○	○				
31	東久保東道跡	○	○				
32	西ノ原道跡	○	○				
33	中沢道跡	○	○				
34	神明道跡	○	○				
35	高岡東久保道跡	○	○				
36	作摩寺道跡	○	○				
37	小田久保道跡	○	○				
38	大井宿道跡	○	○				
39	大井氏墓道跡 大井江道跡	○	○				
40	本村道跡	○	○				
41	西台道跡	○	○				
42	大井江上道跡	○	○				
43	東台道跡	○	○				
44	大井宿道跡・木戸道跡	○	○				
45	石橋道	○	○				
富士見市							
46	福崎久保道跡	○	○				
47	市取道跡	○	○				
48	南武蔵野道跡	○	○				
49	西ノ原道跡	○	○				
50	オトウ・池・東久保道跡	○	○				
51	中沢道跡	○	○				
52	外山道跡	○	○				
53	福崎道跡	○	○				
54	龍田南ノ道跡	○	○				
55	宮原道跡	○	○				
56	上久保道跡	○	○				
57	西渡ノ道跡	○	○				
58	西ノ道跡	○	○				
59	東渡ノ道跡	○	○				
60	福崎久保北道跡	○	○				
61	龍崎道跡	○	○				
62	龍崎山道跡	○	○				
63	大谷道跡	○	○				
64	赤沢道跡	○	○				
65	赤沢道跡	○	○				
66	山宮道跡	○	○				
67	山宮谷道跡	○	○				

番・市町村	道跡名	時代	旧石	縄文	弥生・古墳	奈良・平安	中世以降
68	平塚道跡	○	○				
69	浅間道跡	○	○				
70	横平道跡	○	○				
71	谷津道跡	○	○				
72	宮崎道跡	○	○				
73	黒川道跡	○	○				
74	新井道跡	○	○				
75	宮崎道跡(多田道跡)	○	○				
76	本目道跡	○	○				
77	御子道跡	○	○				
78	八ヶ岳上道跡	○	○				
79	新山道跡	○	○				
80	御坂道跡	○	○				
81	鶴山道跡	○	○				
82	山崎道跡	○	○				
83	打越道跡	○	○				
84	松ノ道跡	○	○				
85	東川前道跡	○	○				
86	水子川道跡	○	○				
87	東前道跡	○	○				
88	関谷道跡	○	○				
89	松ノ木道跡	○	○				
90	新開道跡	○	○				
91	南道跡	○	○				
92	北道跡	○	○				
93	養老道跡	○	○				
94	別所道跡	○	○				
95	正瀬道跡	○	○				
96	正瀬道跡	○	○				
97	東台道跡	○	○				
98	神明道跡	○	○				
99	観音道跡	○	○				
100	伊佐島道跡	○	○				
101	上内手道跡	○	○				
102	山崎道跡	○	○				
103	龍田山道跡	○	○				
三芳町							
104	宮前道跡	○	○				
105	中東道跡	○	○				
106	南止道跡	○	○				
107	南新道跡	○	○				
108	浅間道跡	○	○				
109	龍久保東道跡	○	○				
110	龍久保東第二道跡	○	○				
111	龍久保東第二道跡	○	○				
112	佐野道跡	○	○				
113	三方宮道跡	○	○				
114	新開道跡	○	○				
115	北宮第二道跡	○	○				
116	新開第二道跡	○	○				
117	北宮道跡	○	○				
118	生田窪道跡	○	○				
119	生田窪道跡	○	○				
120	生田窪道跡	○	○				
121	古井ノ山道跡	○	○				
122	本村道跡	○	○				
123	本村北道跡	○	○				
124	北宮道跡	○	○				
125	三宮間北宮道跡	○	○				
川崎市							
126	神明道跡	○	○				
127	東北町1丁目道跡	○	○				
128	元町2丁目道跡	○	○				
129	東町寺道跡	○	○				
130	宮下町2丁目道跡	○	○				
131	赤川神社道跡	○	○				
132	川越道跡	○	○				
133	神明道跡	○	○				

番・市町村	道跡名	時代	旧石	縄文	弥生・古墳	奈良・平安	中世以降
134	中沢道跡	○	○				
135	小松道跡ノ内道跡	○	○				
136	龍崎寺古墳	○	○				
137	多田古墳	○	○				
138	善光院内道跡	○	○				
139	小松道2丁目道跡	○	○				
140	小松道2丁目A道跡	○	○				
141	小松道2丁目B道跡	○	○				
142	小松道2丁目C道跡	○	○				
143	仙波古代集落道跡	○	○				
144	御正院敷	○	○				
145	井天西道跡	○	○				
146	三宅稲荷神社古墳	○	○				
147	小松道4丁目道跡	○	○				
148	小松道4丁目道跡	○	○				
149	井天南道跡	○	○				
150	井天東道跡	○	○				
151	龍ノ内道跡	○	○				
152	仙波氏道跡	○	○				
153	水田神社古墳	○	○				
154	愛宕神社古墳	○	○				
155	仙波小南道跡	○	○				
156	仙波小南道跡	○	○				
157	浅間神社古墳	○	○				
158	東義道跡	○	○				
159	浅間神社南道跡	○	○				
160	新宮2丁目道跡	○	○				
161	土赤道跡	○	○				
162	新宮小南道跡	○	○				
163	中沢山道跡	○	○				
164	新宮4丁目道跡	○	○				
165	新宮3丁目道跡	○	○				
166	坪町山下の横穴	○	○				
167	東野神社西道跡	○	○				
168	坪町の一横穴	○	○				
169	坪町一横穴	○	○				
170	中沢山道跡	○	○				
171	辻た塚古墳	○	○				
172	中沢山道跡	○	○				
173	中沢山道跡	○	○				
174	八雲神社古墳	○	○				
175	八雲東道跡	○	○				
176	砂久保陣場	○	○				
177	古田神社古墳	○	○				
178	逢谷道跡	○	○				
179	寺尾道跡	○	○				
180	寺尾道跡	○	○				
181	河野道跡	○	○				
182	河野道跡	○	○				
183	東道跡	○	○				
184	藤原町西道跡	○	○				
185	藤原町道跡	○	○				
186	藤原町道跡	○	○				
187	中道跡	○	○				
188	多田道跡	○	○				
189	後醍醐寺道跡	○	○				
190	寺尾道跡	○	○				
191	八雲神社道跡	○	○				
192	八雲道跡	○	○				
193	大仙道跡	○	○				
194	南山道跡	○	○				
基本市							
195	西原大塚道跡	○	○				
196	塚ノ山古墳	○	○				
197	新道跡	○	○				
198	中道跡	○	○				
199	龍山道跡	○	○				
200	龍山道跡	○	○				



第5表 ふじ野市遺跡一覧表

道 跡 名	主 な 時 代	遺跡番号
1 鶴ヶ岡外道跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2 鶴ヶ岡道跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3 西 道 跡	縄文中期の集落跡	25-001
4 北 野 道 跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5 川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6 川 崎 道 跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7 ハ ケ 道 跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8 上 福 岡 貝 塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9 権 現 山 道 跡 群 (古 墳 跡)	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10 滝 道 跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11 西 原 道 跡	縄文の散布地	25-025
12 長 宮 道 跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13 亀 尾 道 跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14 鶴ヶ舞道跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15 富士見台 横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16 福 道 跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17 松 山 道 跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18 天神廻道跡	古墳中期の散布地	25-018
19 城 山 道 跡	中・近世の館跡	25-019
20 川 袋 道 跡	奈良・平安の散布地	25-020
21 江 川 南 道 跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22 江 川 東 道 跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23 東 久 保 道 跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24 東久保館跡道跡	中世の館跡	30-006

道 跡 名	主 な 時 代	遺跡番号
25 東久保西道跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26 駒 林 道 跡	近世の館跡・中世の墳墓	25-013
27 福岡新田道跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28 鷺 森 道 跡	縄文前期の集落跡	25-017
29 伊 佐 島 道 跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30 東中学校西道跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31 東久保南道跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32 西ノ原道跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33 中 沢 前 道 跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34 神 明 後 道 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35 苗間東久保道跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36 淨 淨 寺 道 跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37 小田久保道跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38 大 井 宿 道 跡	近世～近代の宿間跡	30-010
39 大井氏館跡道跡・ 大井戸道跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40 本 村 道 跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41 西 台 道 跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42 大井戸上道跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43 東 台 道 跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄道跡	30-024
44 大井宿本戸跡	近世～近代の宿間跡	30-048
45 石 塔 堀	中世の散布地	30-027

第6表 縄文時代中期時期細対比表

本書 2011 ①	安孫子昭二 1988 鈴木・山本 1988 ②	植木 弘 ③ 1994	黒尾和久 ④ 1995	谷 井 他 ⑤ 1982	考古学協会 ⑥ 1981	
猪沢・阿玉台1b古	猪沢・阿玉台1b古	猪沢・阿玉台1b	中 期 前 半 中 葉 後 半 勝 坂 a b c 1 2 3 4 1 2 3 1 2 E	1a中 1a新 1b 2a古 2a新 2b 3a 3b古 3b新	阿玉台1b前IVb 阿玉台1b前Va Vb VI VII VIII IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	Ⅱ期 阿玉台出現期 Ⅲ期 (勝坂最古段階) Ⅳ期 (勝坂盛時段階) Ⅴ期 (勝坂終末) 加曾利EⅠ古 加曾利EⅠ新 加曾利EⅡ 加曾利EⅢ 加曾利EⅣ
勝坂Ⅰ古・新道古・阿玉台1b新 勝坂Ⅰ新・新道新・阿玉台1b古 勝坂Ⅱ古・勝内古・阿玉台1b新 勝坂Ⅱ新・勝内新 勝坂Ⅲ古・井尻・阿玉台1b古 勝坂Ⅲ新・阿玉台1b新	勝坂第Ⅰ様式 Ⅱ様式 Ⅲ様式 Ⅳ様式 Ⅴ様式 Ⅵ様式	勝坂Ⅰ様式 Ⅱ様式 Ⅲ様式 Ⅳ様式 Ⅴ様式 Ⅵ様式		1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	
加曾利EⅠ古	加曾利EⅠ様式	加曾利EⅠ直前		1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	
加曾利EⅠ新	古相 中相 新相	加曾利EⅡ様式		1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	
加曾利EⅡ	古相 中相 新相	加曾利EⅢ様式		1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	
加曾利EⅢ		加曾利EⅣ様式		1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	
加曾利EⅣ				1a 1b 1c 2a 2b 2c古 2c新 3a 3b 3c E4	IXa IXb X XI XIIa XIIb XIII XIV	

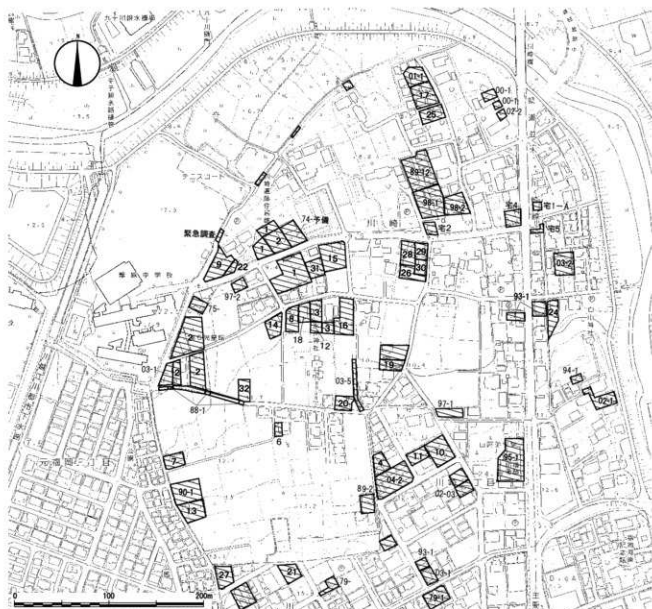
## 第2章 川崎遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側基部に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917年（大正6年）台地の先端部で貝層が確認され1928年（昭和3年）の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以來36ヶ所で調査が行われ、21ヶ所で遺構が確認されている。主たる時代と遺構は縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。



第4図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第7表 川崎遺跡調査一覧表

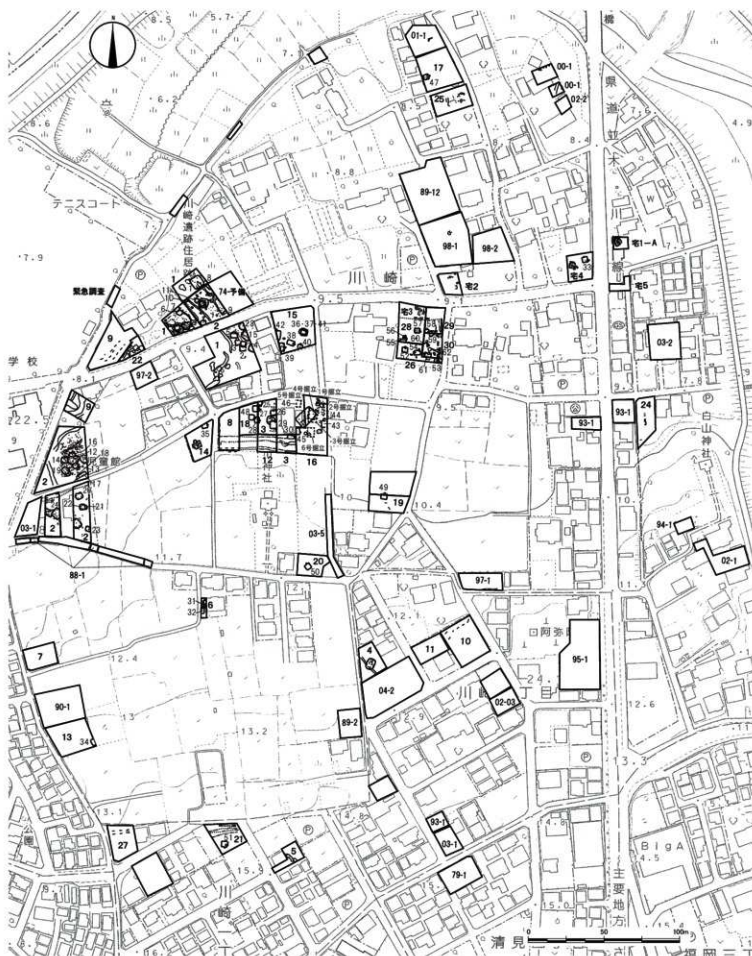
地点	所在地	調査期間 (年次)	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
子爵発掘調査	川崎 160	(1974.3.23 ~ 4.4)	84	事前調査	中穴3、土坑2、ピット群、縄文土器、石器	上福岡市遺跡調査報告書
1次	川崎 162 ~ 176	(1974.7.20 ~ 9.19)	1,800	事前調査	住居跡11棟(土間3、古墳前1、隅付7)、溝3、竈2、土坑5、地下式坑6、灰土1	川崎遺跡 第2次調査概観
歴史発掘調査	大字川崎宮内 168-3	(1975.3.30 ~ 5.10)	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土器部・灰土部・灰土部・灰土部	上福岡市遺跡調査報告書
宅地跡1次(大地区)	大字川崎宮内跡 122	(1975.6.8 ~ 29)	50	個人住宅	縄文早期住居跡1、縄文土器、石器、溝	上福岡市遺跡調査報告書
2次	川崎 137 ~ 174	(1975.9.4 ~ 12.5)	3,055	事前調査	縄文住居跡9、古墳住居跡6、奈良平安住居跡10、中世遺構他	川崎遺跡 第2次調査概観
3次	川崎 149.6	(1977.11.1 ~ 12.3)	300	住宅建設	縄文住居跡2(78)、奈良平安住居跡6(12.4 ~ 6.9)、灰土敷布、土坑3、溝	川崎遺跡 第3次・長谷川遺跡
宅地跡2次(他地区)	川崎 198	(1978.5.15 ~ 25)	170	宅地造成	土坑3、ピット	増城文化財の調査(1)
宅地跡3次(他地区)	川崎 230	(1978.5.23 ~ 31)	130	宅地造成	溝1跡、地下式坑1、溝1	増城文化財の調査(1)
4次	川崎 2-5-2	(1979.4.19 ~ 5.11)	304	宅地造成	縄文前期住居跡1、溝1、黒瓦式土器、貝類	増城文化財の調査(IV)
5次	川崎 1-1-4	(1979.9.26 ~ 10.10)	152	宅地造成	溝状遺構	増城文化財の調査(Ⅱ)
1979年度試験(清見)	清見 4-3-11	(1979.11.12 ~ 19)	260	宅地造成	溝1	増城文化財の調査(Ⅱ)
6次	川崎 102-5	(1979.12.3 ~ 8)	30	アイパの家	縄文前期住居跡2、縄文土器片、平安住居跡2	増城文化財の調査(Ⅱ)
7次	川崎 124-3	(1981.11.27 ~ 30)	316	個人住宅	遺構無し、平安土器片	増城文化財の調査(Ⅱ)
8次	大字川崎宮内跡 148-1	(1984.1.17 ~ 26)	400	住宅建設	溝1	増城文化財の調査(Ⅱ)
宅地跡4次	川崎宅地跡 219	(1984.9.25 ~ 10.9)	301	住宅建設	縄文住居跡1、平安住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
9次	川崎宮内跡 172-12	(1986.9.11 ~ 20)	495	個人住宅	溝1、縄文・奈良、平安土器敷布	増城文化財の調査(Ⅱ)
10次	川崎 224-1	(1987.11.24 ~ 30)	603	個人住宅	溝1	増城文化財の調査(Ⅱ)
11次	川崎 2-6-2	(1988.5.10 ~ 17)	289	住宅建設	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1988年度試験	市道 402 分譲	(1988.9.19 ~ 21)	40	水不足調査	住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
1989年度試験(1)	川崎宅地跡 196-1	(1989.4.19 ~ 18)	1,045	住宅建設	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1989年度試験(2)	川崎宮内跡 98-2	(1989.10.3 ~ 6)	264	住宅建設	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
12次	川崎宮内跡 149-4.5	(1990.4.20 ~ 27)	311	住宅建設	溝2	増城文化財の調査(Ⅱ)
13次	川崎宮内跡 122	(1990.5.1 ~ 17)	480	住宅建設	奈良住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
1990年度試験(1)	大字川崎宮内跡 122	(1990.5.18 ~ 23)	530	新築確認調査	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
14次	大字川崎宮内跡 145	(1990.10.1 ~ 31)	499	住宅建設	縄文前期住居跡1、貝類、平安住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
15次	川崎宮内跡 160-1	(1991.10.23 ~ 11.20)	499	個人住宅	平安住居跡7、土坑1	増城文化財の調査(Ⅱ)
1992年度試験(1)	大字川崎宮内跡 9-5	(1992.2.18 ~ 19)	168	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1993年度試験(1)	川崎 2-10-11	(1993.8.24)	131	個人住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1993年度試験(2)	川崎 1-1-1の一部	(1993.9.10 ~ 13)	422	個人住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1994年度試験(1)	川崎村258番地1番	(1994.11.17 ~ 24)	230	建築設備調査	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1995年度試験(1)	川崎 2-7-2.3	(1995.10.13 ~ 16)	1,126	道路工事	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
16次	川崎宅地跡 150-2.3	(1995.12.11 ~ 1996.3.8)	828	新築現場及び材料採取調査	縄文文化財(石器類)大形住居跡1、同期別382-2、土坑2、平安住居跡4、奈良柱建物跡6、中世奈良式溝2	7年度教育発表
17次	川崎宅地跡 204の一部	(1996.7.15 ~ 23)	779	個人住宅	平安住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
18次	川崎宅地跡 148-3	(1996.11.18 ~ 25)	198	個人住宅	平安住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
1997年度試験(1)	川崎山崎 2-1	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝1(時期不明)	増城文化財の調査(Ⅱ)
1997年度試験(2)	川崎宮内跡 165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
1997年度試験(3)	川崎宅地跡 199-1.2.5	(1998.2.12 ~ 16)	780	個人住宅	遺構・遺物無し	9年度教育発表
1998年度試験(1)	川崎宅地跡 197-1	(1998.10.27 ~ 11.6)	996	宅地造成	縄文前期土坑1ほか	増城文化財の調査(Ⅱ)
市道 402 分譲2次	川崎宮内跡 宮内跡	(2000.2.21 ~ 25)	496	道路調査	縄文前期住居跡1	11年度教育発表
2000年度試験(1)	川崎大字宅地跡 209の一部	(2000.6.19 ~ 22)	123	個人住宅	江戸後期一部	増城文化財の調査(Ⅱ)
前期調査調査	川崎宅地跡 209	(2001.6.12 ~ 25)	100	市街	溝1	増城文化財の調査(Ⅱ)
19次	川崎宮内跡 157の一部	(2001.9.18 ~ 10.4)	289	個人住宅	平安時代住居跡1	増城文化財の調査(Ⅱ)
2001年度試験(1)	川崎宅地跡 204-1	(2001.10.29.30)	825	宅地造成	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
2002年度試験(1)	川崎 249-1の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
2002年度試験(2)	川崎 210-1.2の一部	(2002.10.28.29)	351	共同住宅	溝1【土坑保存】	増城文化財の調査(Ⅱ)
2002年度試験(3)	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	遺構・遺物無し	14年度教育発表
2002年度試験(4)	川崎 2-12-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	14年度教育発表
2002年度試験(5)	川崎宮内跡 155 先	(2003.3.26)	164	道路調査	遺構・遺物無し	14年度教育発表
2003年度試験(1)	川崎 137-1の一部	(2003.8.6.7)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
2003年度試験(2)	川崎宅地跡 226-14	(2003.12.8.19)	381	個人住宅	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
宅地跡跡5次	川崎宅地跡 222-3 先	(2004.2.16 ~ 18)	88	倉庫	古墳前期住居跡1【調査実施】	15年度教育発表
2004年度試験(1)	川崎宮内跡 157-1の一部	(2004.6.14.15)	421	個人住宅	平安時代代官住居跡の方々の一部	増城文化財の調査(Ⅱ)
2004年度試験(2)	川崎 2-5-1	(2004.11.1 ~ 4)	881	宅地造成	遺構・遺物無し	増城文化財の調査(Ⅱ)
20次	川崎宮内跡 153-5	(2005.11.28 ~ 12.2 (11.22 ~ 27)	257	個人住宅	古墳住居跡1	市内遺跡群 1
21	川崎 1-6-10	(2006.4.14 ~ 20)	298	個人住宅	奈良住居跡1、溝	市内遺跡群 3
22	川崎 171-1.174-10	(2007.4.16 ~ 23)	104	消防分署跡	中穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内遺跡群 4
23	川崎宮内跡 102-4.6	(2007.6.4)	240	個人住宅	工事跡と土坑のため工事中止	市内遺跡群 4
24	川崎宅地跡 225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 4
25	川崎宅地跡 203番1の一部 203番3の一部	(2008.4.15 ~ 17)	1,033	個人住宅	奈良時代代官柱建物跡1、溝、近代以降の地下室1	市内遺跡群 6
26	川崎宅地跡 230番5	(2008.4.21) 2008.4.22 ~ 5.17	228	個人住宅	奈良・平安時代代官柱建物跡4、土坑、ピット、近代以降の井戸1	市内遺跡群 6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15 ~ 5.21)	350	分譲地	時期不明の土坑1	市内遺跡群 6
28	川崎宅地跡 230-7	(2008.7.4 ~ 7.9) 2008.7.10 ~ 8.8	434	個人住宅	奈良・平安時代代官柱建物跡2、土坑、ピット	市内遺跡群 6
29	川崎宅地跡 230番1	(2008.7.9 ~ 7.11) 2008.7.14 ~ 8.22	203	個人住宅	奈良・平安時代代官柱建物跡2、溝3	市内遺跡群 6
30	川崎宅地跡 230番6	(2008.7.17) 2008.7.18 ~ 9.5	200	個人住宅	奈良・平安時代代官柱建物跡4、井戸3、土坑、溝5	市内遺跡群 6
31	川崎宮内跡 161番5の一部 161番6	(2009.10.28) 2009.10.29 ~ 11.27	304	個人住宅	縄文時代中期住居跡2、奈良・平安時代代官柱建物跡2、ピット12	未報告
32	川崎宮内跡 140の一部	(2011.2.24 ~ 25) 2011.3.2 ~ 25	396	個人住宅	奈良・平安時代代官柱建物跡3、土坑2、建物部分本表	未報告



第8表 川崎遺跡古代住居跡一覧表

(単位: cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査者	平面形 ( ) 法庫定	規模	型 タイプ	道路幅	カマド 位置	西向き	主軸方位	時期	備考	文献
1	1974	第1次LN72	完備	隅丸方形	760 × 730 × 40	9*	地味中	60 × 50	○	N-60 E	3C 後半	市指定文化財	川崎遺跡第1次調査
2	1974	第1次LN05	完備	方形	390 × 320 × K	○			○	N-5 E	9C 前半		
3	1974	第1次LN06	完備	歩んだ方形	320 × 320 × K	K	東		○	N-13 W	9C 4 前期		
4	1974	第1次LN07	完備	方形	320 × 320 × K	K	東	80 × 90	○	N-83 W	9C 中盤		
5	1974	第1次LN24	完備	長方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5 E	10C 1 前期		
6	1974	第1次LN25	完備	方形	320 × 300 × K	北	東	40 × 40	○	N-42 E	9C 1 前期		
7	1974	第1次LN28	西側4面	(長方形)	× 300	K	東	50 × 60	○	N-60 W	9C 3 前期		
8	1974	第1次LN71	棟板7割未満	(方形)	× 600								
9	1975	第2次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次調査
10	1975	第2次LN92	部分	(長方形)							10C 1 前期		
11	1975	第2次LN72	完備	隅丸方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80		N-18 E	9C 前半	ビッド多数土器	
12	1975	第2次LN07	完備	方形	720 × 720	K	北		○	N-32 E	6C 後半		
13	1975	第2次LN04	完備	方形	390 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64 E	6C 前半	貯蔵穴有り	
14	1975	第2次LN05	完備	長方形	450 × 370	K	北	100 × 80	○	N-1 E	10C 2 前期		
15	1975	第2次LN19	H 住に95%のみ			K	東				9C 4 前期	支障が2箇所	
16	1975	第2次LN14	完備	長方形	370 × 260	K	北	90 × 80	○	N-4 E	9C 3 前期		
17	1975	第2次LN12	南側4面	長方形	700 ×						6C	結露跡	
18	1975	第2次LN33	17 住と大きく重複し全体不明										
19	1975	第2次LN06	完備	隅丸方形	410 × 420	K	北東		○	N-45 E	6C 後半	良好	
20	1975	第2次LN22	完備	長方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29 W			
21	1975	第2次LN53	完備	長方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-87 E	10C 2 前期	22 住を切る	
22	1975	第2次LN54	部分	方形	330 × 320	9*	地味中				五瀬		
23	1975	第2次LN20	3/5 (長方形)	× 350	K	北			○	N-23 E	9C 2 前期	蔵工用跡	
24	1975	第2次LN21	ほぼ完備	正方形	580	K	北西	50 × 70	○	N-43 W	後古		
25	1977	第3次1号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	途中で廃絶					川崎遺跡第3次
26	1977	第3次2号住居	完備	長方形	350 × 330	K	北	× 70			9C 1 前期	鉄製品多い	
27	1977	第3次4号住居	(完備)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○		9C 3 前期		〃、埋文調査 19
28	1977	第3次5号住居	(完備)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○		9C 3 前期		〃、埋文調査 19
29	1977	第3次6号住居	4/5	正方形	440 ×	K	北	155 × 90	○		9C 4 前期	焼失家屋	
30	1977	第3次9号住居	1/2 (方形)		415 ×				○		9C 2 前期		埋文文化財の調査 11
31	1979	第6次1号住居			340 ×				○		9C 2 前期		埋文文化財の調査 11
32	1979	第6次2号住居	1/3		340 ×	K	北→東	140 × 80	○		9C 1 前期	鉄製品多い	
33	1984	平成跡第4次3号	完備	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○		8C 3 前期		埋文文化財の調査 13
34	1990	第13次1号住居	1/2 ~ 1/3		390 ×	K	東				7C 後半		埋文文化財の調査 13
35	1990	第14次2号住居	南1/2		340 ×	K	東				9C 1 前期		
36	1991	第15次1号住居			395 × 285	K	北東				9C ~ 10C		埋文文化財の調査 14
37	1991	第15次2号住居		正方形	380 × 380	K	東				9C 中盤		
38	1991	第15次3号住居	完備	長方形	265 × 430	K	南東				9C 初頭		
39	1991	第15次4号住居	1/2	正方形	580 ×	K	東				8C 末 ~ 9C 初頭		
40	1991	第15次5号住居	3/4		280 ×	K	北				9C 前半 ~ 中		
41	1991	第15次6号住居		正方形	425 × 270	K	北		○		8C 後半		3530 住上重複
42	1991	第15次7号住居	1/2	正方形	570 ×	K	北		○		9C 前半	埴輪陶器、焼失家屋	
43	1994	第16次1号住居	1/2		450 ×						9C 前半 ~ 後半		未報告
44	1994	第16次2号住居	北内側のみ								9C 前半 ~ 後半		
45	1994	第16次5号住居	2/3		440 ×	K	東				9C 前半 ~ 後半		
46	1994	第16次6号住居	カマドのみ			K	東						
1994	第16次1号敷立	2/3	長方形										
1994	第16次2号敷立	西側柱のみ	長方形	南北2間							9C 前半 ~ 後半	42 住と隣接	
1994	第16次3号敷立	完備	長方形	南北3間 東西2間									
1994	第16次4号敷立	完備	長方形	南北3間 東西2間									
1994	第16次5号敷立	1/2	長方形	南北2間									
1994	第16次6号敷立	完備		南北3間 東西2間									
47	1996	第17次1号住居	完備	長方形	400 × 400	K	東		○		9C 前半	遺書土器	埋文文化財の調査 19
48	1996	第18次2号住居	完備	長方形	300 × 300	K	東		○		9C 前半		埋文文化財の調査 19
49	2001	第19次1号住居	1/2		360 ×	K	東		○		9C 前半		埋文文化財の調査 24
50	2005	第20次1号住居	完備	長方形	320 × 350	K	北西		○	N-45 W	7C 前半 ~ 中		市内道跡第 1
51	2006	第21次1号住居	完備	方形	410 × 365 × 10	K	東	145 × 125	○	N-106 E	9C 後半		市内道跡第 3
2008	第25地点1号敷立	長方形	南北2間 東西2間										市内道跡第 6
52	2008	第26地点 H28 号住居	完備	方形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 83	○	N-16 E	9C 後半		
53	2008	第26地点 H29 号住居	北側のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 ×	○	N-16 E	9C 後半		
54	2008	第26地点 H30 号住居	完備	長方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4 E	8C 後半		
55	2008	第28地点 H31a 号住居	北側のみ	(方形)	(300) × (233) × 15	K	北	88 × 84	○	N-19 E	8C 中 ~ 後半		
56	2008	第28地点 H31b 号住居	北側のみ	(方形)	1494 × 325 × 2				○	N-18 E			
57	2008	第28地点 H32 号住居	完備	長方形	357 × 295 × 24	K	東	108 × 80	○	N-105 E	8C 中 ~ 後半		
58	2008	第28地点 H33 号住居	北側のみ	(方形)	(214) × (205) × 16	K	東	(65) × (65)	○	N-98 E	8C 後半 ~ 9C 初頭		
59	2008	第29地点 H34 号住居	完備	方形	(378) × 372 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16 E	9C 後半	遺書土器	
60	2008	第30地点 H35 号住居	完備	長方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 88	○	N-104 E	9C 前半		
61	2008	第30地点 H37 号住居	完備	方形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16 E	9C 後半	埴輪陶器	
62	2008	第30地点 H38 号住居	1/2 (方形)		375 × (105) × 17				○	N-5 E	9C 後半	遺書土器	



第5図 川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

## II 川崎遺跡第25地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年3月12日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」)がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の北端に近い台地上に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月14日に幅約2mのトレンチを2本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで40~50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2008年4月15日から同年4月17日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を人力で表土除去後調査を行なった。調査の結果、平安時代の掘立柱建物跡、溝跡1条、近世の地下室を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ①掘立柱建物跡

【位置】調査区の北東側に位置する。遺跡全体の分布では北側に位置する。

【形状】2間×2間の長方形で、主軸方位はN-11°-Eである。P1(土坑1)からP8(土坑8)の7基で構成されるが、土坑5も土坑4と対称の中心軸上にあり、その場合は2間×3間となる。規模は柱穴中心間の距離で桁行4.3m、梁行3.2mを測る。各柱穴は隅丸方形、覆土はローム粒を多量に含む暗褐色土で、特にP1, 2, 3は柱痕と版築された層が認められ、柱穴の中心部も一段低くなる。

P3の柱痕から灰軸陶器皿が出土した。

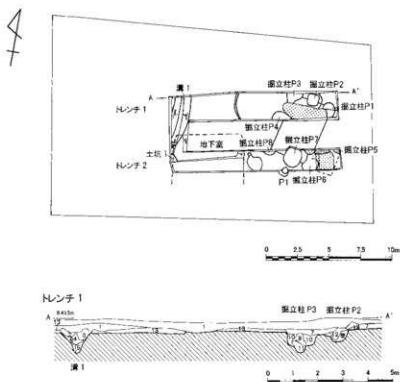
出土遺物から時期は平安時代。

## ②溝

調査区西側に南北方向の溝を検出した。断面形態は「V」字形を呈する。検出した溝の長さは4m、上端幅は1.28m、下端幅は0.2~0.45m、確認面からの深さ0.9mである。磁器碗、瓦、火鉢破片が出土した。出土遺物から、時期は近世。

## ③地下室

調査区南西に地下室状の遺構を検出した。



## 1. 遺物層(層位別)

1' オリーブ褐色土 非常に締り強い、ローム粒(2~3mm)少量。

灰(1cm大)少量。焼土粒(2~3mm)少量。

2 暗褐色土 締り強い、ローム粒(2~3mm)少量。

3 暗褐色土 締り強い、ローム粒(2~3mm)少量。

4 暗褐色土 締り有、赤さび多量。灰少量。

5 暗褐色土 締り有、ローム粒(5mm)多量。

6 暗褐色土 締り強い、ローム粒(2~3mm)極多量。

7 暗褐色土 非常に締り強い、灰(5mm)・ローム粒(5mm)多量。

8 褐色土 非常に締り強い、粘性有、ローム塊(1~3cm)少量。

灰(5mm)多く。

9 褐色土 非常に締り強い、粘性有、灰極多量。

10 褐色土 非常に締り強い、粘性有、ローム塊(1~3cm)多量。

灰少量。

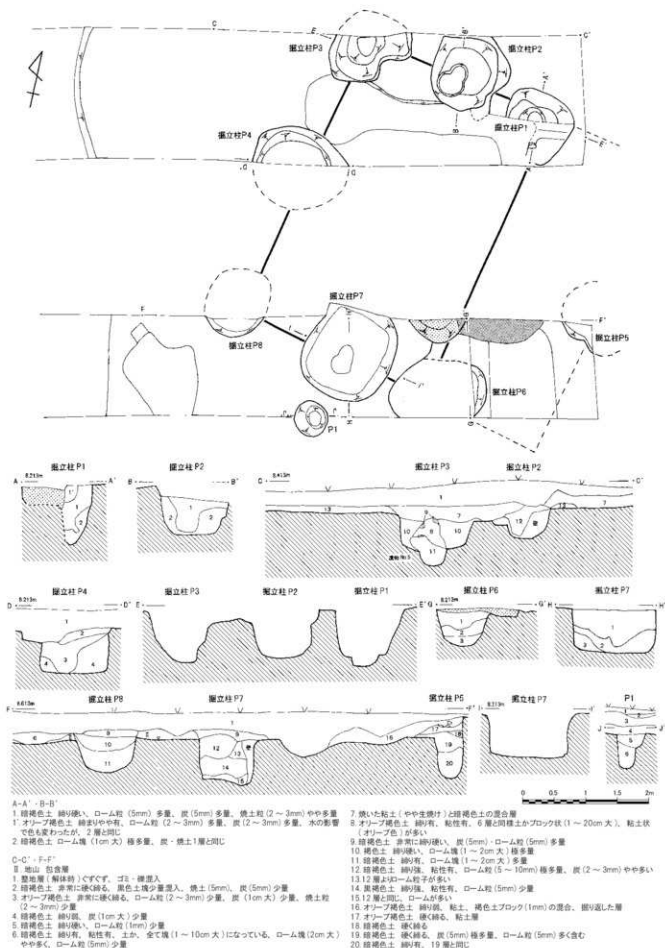
11 暗褐色土 締り有、灰(2~5mm)・ローム粒(5mm)多量。

12 暗褐色土 締り強い、ローム粒(5mm)多量。灰(5mm)多量。

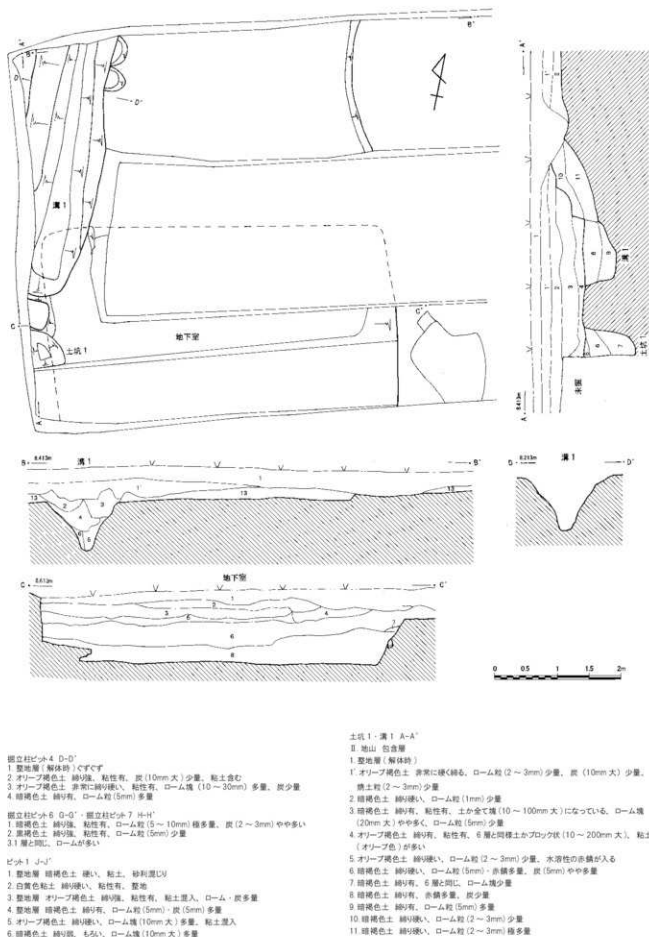
焼土粒(2~3mm)中や多く。

13 包合層 暗褐色土。縄文前期の遺物出土。灰・焼土含む。

第6図 川崎遺跡第25地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



第7図 川崎遺跡第25地点掘立柱建物跡・ピット (1/60)



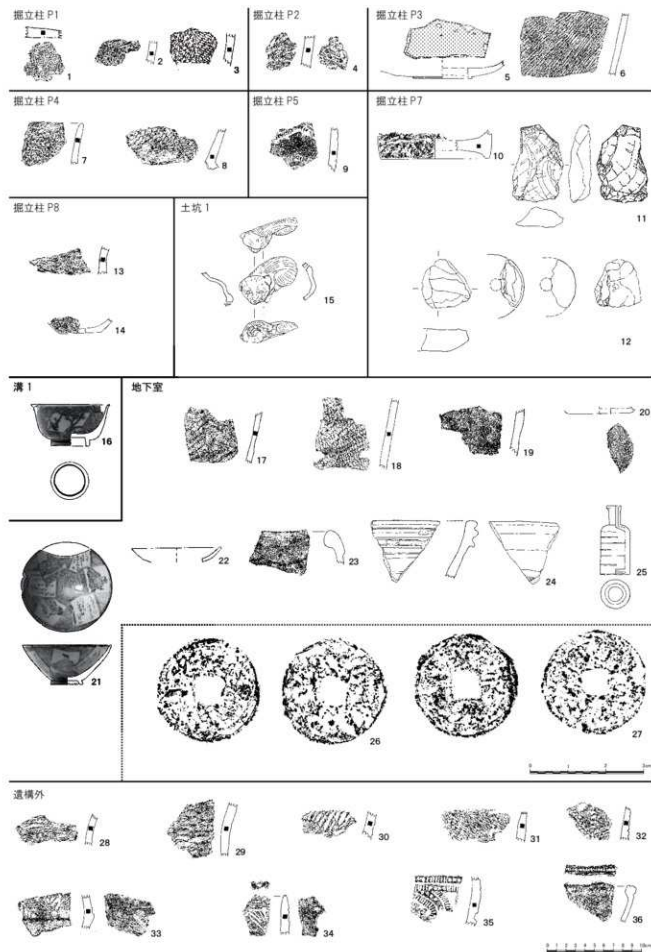
第8図 川崎遺跡第25地点溝・地下室(1/60)

第9表 川崎遺跡第25地点遺構一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考	No	平面形態	確認面	深さ	備考
掘立柱P1	隅丸方形下段門形	108×105 36×(18)	70×70 23×15	74 90	土壌1	掘立柱P8	(楕円形)	(47)×(45)	(68)×(108)	57 土壌8
掘立柱P2	隅丸方形下段壺頸	115×101 55×45	74×73 50×38	76 79	土壌2	粘土板間	(楕円形)	(135)×(40)		
掘立柱P3	方形下段(楕円)	(125)×70 56×(44)	116×(68) 32×30	55 82	土壌3、 緑釉土	溝1	4m以上の直線、断面「V」字形	115～128	15～45	91 磁器類、瓦、火鉢出土。地下より土
掘立柱P4	(楕円形)	(145)×(60)	(102)×(37)	70	土壌4	土壌1	(楕円形)	(47)×(45)	(30)×(18)	119 土壌9、陶磁器出土。地下より土
掘立柱P5		(42)×(42)	(40)×(35)	67	土壌5	地下室		560×(300)		65 土壌1、溝1より土
掘立柱P6	(楕円形)	153×(82)	×(52)	51	土壌6	P1	門形	52×52	28×18	54
掘立柱P7	隅丸方形硬化面壺頸	145×134 45×34	122×108	76	土壌7					

第10表 川崎遺跡第25地点出土遺物観察表 (単位:cm)

図版 番号	図版 番号	遺構名	種別・器種	口径・長さ 底径・幅	高さ・厚	技法/文様/その他	石材/想定 生産地	推定年代・時期	残存/備考
1	1号掘立柱P1	縄文土器/鉢	—	—	—	以頸背直/縄文含む/注No.1D-1	縄文前期前中・ 羽衣縄文系	縄文前期前中・ 羽衣縄文系	底部破片
2	1号掘立柱P1	縄文土器/鉢	—	—	—	上帯し、下帯Rの無縁羽衣縄文/胎土に縄文含む/ 注No.1D-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
3	1号掘立柱P1	縄文土器/鉢	—	—	—	上帯LR、下帯RLの結束した羽衣縄文/胎土に縄文含む/ 注No.1D-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
4	1号掘立柱P2	縄文土器/鉢	—	—	—	胎土に縄文含む/注No.2D	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
5	1号掘立柱P3	灰釉陶器/皿	—	(6.2)	—	輪轆成形/内面灰釉、見込みにトナリ跡/灰黄褐色/ 注No.3D-2	9C第2期	9C第2期	底部/No.14
6	1号掘立柱P3	須恵器/甕	—	—	—	外面叩き目/灰釉/海面付針含む/注No.3D-1	南比企	奈良・平安	胴部破片
7	1号掘立柱P4	縄文土器/鉢	—	—	—	RL縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/注No.4D	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	口縁部破片
8	1号掘立柱P4	縄文土器/鉢	—	—	—	RL縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/注No.4D	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
9	1号掘立柱P5	縄文土器/鉢	—	—	—	産地系形文を左から右に施文する/ 胎土に縄文含む/注No.5D	縄文前期・ 黒浜(有尾系)	縄文前期・ 黒浜(有尾系)	胴部破片
10	1号掘立柱P7	縄文土器/鉢	—	(11.3)	—	下付底/羽衣縄文/胎土に縄文含む/注No.7D-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	底部
11	1号掘立柱P7	石器/打製石片	8.15	5.38	2.40	重量 108.6g/注No.7D-1	3477±61	縄文時代	完形
12	1号掘立柱P7	土製品/土器	—	—	—	先端部は磨製する。磨治が用い/注No.7D-1	奈良・平安	奈良・平安	先端部破片
13	1号掘立柱P8	縄文土器/鉢	—	—	—	無縁のR縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/ 注No.8D	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
14	1号掘立柱P8	土師器/甕	—	(4.2)	—	胴部及び底部へラ削り/赤褐色/角間石含む/ 注No.8D	奈良・平安	奈良・平安	底部
15	土坑1	磁器/大型水筒	—	—	—	型合せ成形、背中と鼻に焼成前穿孔/ 口と耳に色々の模彩色/注No.9D	19C～	19C～	約1/2
16	溝1	磁器/茶碗	8.4	4.0	4.3	輪轆成形/割取給付。松竹梅の図/注No.1M	瀬戸・美濃	1890年代～	口縁一部欠
17	地下室1	縄文土器/鉢	—	—	—	羽衣縄文/胎土に縄文含む/注No.地下室	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片/ 外面摩滅
18	地下室1	縄文土器/鉢	—	—	—	LR縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/ 注No.地下室	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
19	地下室1	縄文土器/鉢	—	—	—	無文/注No.地下室	縄文前期	縄文前期	胴部破片
20	地下室1	須恵器/環	—	(7.4)	—	輪轆成形。底部に糸状後/灰黄褐色/砂粒(～ 1mm)少量。海面付針含む/注No.地下室	南比企	奈良・平安	底部
21	地下室1	磁器/茶碗	9.5	3.4	4.2	輪轆成形/割取給付。百人一首/注No.地下室	瀬戸・美濃	1890年代～	口縁一部欠
22	地下室1	磁器/皿	(9.5)	—	—	—	近世～	近世～	口縁部破片
23	地下室1	瓦質土器/火鉢	—	—	—	輪轆成形/注No.地下室	近世～	近世～	口縁部破片
24	地下室1	灰釉陶器/燈籠	—	—	—	輪轆成形/注No.地下室	19C～	19C～	口縁部破片
25	地下室1	ガラス製品/医療 用薬瓶	1.5	3.1	7.3	吹成成形(新製)/コルク粉用/無色・透明、気 泡有/側面に目盛り線の彫刻/注No.地下室	1900～1910年代	完形	
26	地下室1	銭貨/	外径 2.21	厚 0.64	0.15	重量 2.67g/注No.地下室	中・近世	中・近世	完形
27	地下室1	銭貨・銅貨	外径 2.23	厚 0.74	0.17	重量 2.93g 純造/「文久永寶」、四文銭/ 注No.地下室	1863～1865	1863～1865	完形
28	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	胎土に縄文含む/注No.1トレ-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片/ 外面摩滅
29	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	縄文/胎土に縄文含む/注No.1トレ-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片/ 外面摩滅
30	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	無縁LR縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/ 注No.1トレ-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
31	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	LR縄文を横位に施文/胎土に縄文含む/注 No.1トレ-1	縄文前期・黒浜	縄文前期・黒浜	胴部破片
32	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	半截竹管による透気押引き文を施文/胎土に縄文含む/ 注No.1トレ-1	縄文前期・ 黒浜(有尾系)	縄文前期・ 黒浜(有尾系)	胴部破片
33	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	座席による幾何学区画と太線を施文。竹管により 交互に円形刺突文/内面は条線を磨消す/ 胎土に縄文含む/注No.1トレ-1	縄文早期・ 縄文中期	縄文早期・ 縄文中期	胴部破片
34	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	沈積による幾何学区画と竹管による円形刺突文/ 胎土に縄文含む/注No.1トレ-1	縄文早期・ 縄文中期	縄文早期・ 縄文中期	口縁部破片
35	トレンチ1 遺構外	縄文土器/鉢	—	—	—	扁平な隆帯土に管状工具の部みと竹管による円 形刺突文/胎土に縄文含む/注No.1トレ-2	縄文時代	縄文時代	胴部破片
36	トレンチ1 遺構外	縄文土器/浅鉢	—	—	—	口縁部と口縁部内の一列の角押文を施文/白色粒 子、砂粒多量含む/注No.1トレ-2	縄文中期・磨板 (2層内)	縄文中期・磨板 (2層内)	口縁部破片



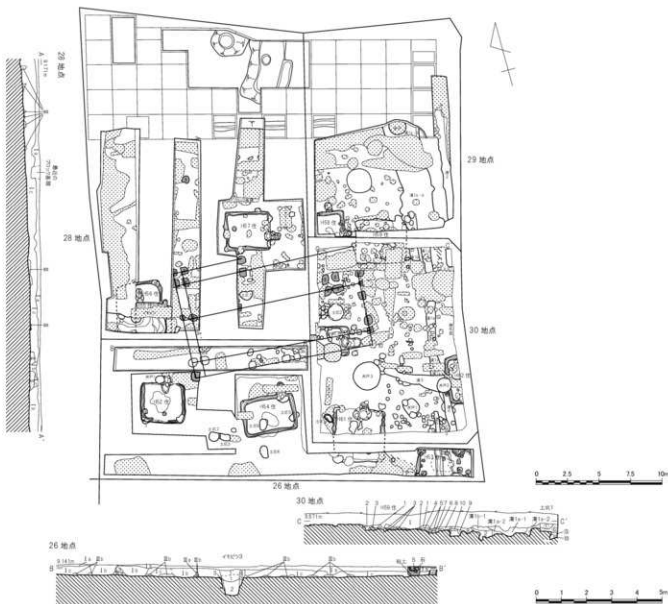
## III 川崎遺跡第26地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年3月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の北端に近い台地上に立地し、隣接地では古代の住居跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月21日に幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2008年4月22日から同年5月17日まで、



A-A'

Ⅰa 暗褐色土 表土・盛土・砕石、10mm以下ロームブロック、黒灰色土ブロック含む、粘土層、粘り強い

Ⅰb 暗褐色土 表土 40mm以下ロームブロック多く含む、粘り強い

Ⅰc 暗褐色土 表土・耕作土、20mm以下ロームブロック、ローム粒少し含む、粘り強い

Ⅱ 黒褐色土 包含層、3mm以下ローム粒、10mm厚灰色粘土ブロック、2～10mm粘土少し含む、土器片含む(土器口縁部)、粘り強い

B-B'

Ⅰa 黒褐色土 粘り強い、粘性有、盛土層、40mm厚のローム主体層を含む

Ⅰb 暗褐色土 粘り強い、粘性有、耕作土、最大10cm、およそ50mm以下ロームブロックをやや多く含む、イモビツの層土はⅠb層に似る

Ⅰc 暗褐色土 粘り強い、粘性有、耕作土、粘り強い、3mm以下ローム粒少し、3mm以下粘土わずかに含む、礎石に付される、ミゾ状のプランの土はⅠc層に似る

Ⅱa 地山暗褐色土 3mm以下ローム粒、粘土わずかに含む

Ⅱb 暗褐色土 粘り強い、粘性有、30mm以下ロームブロック、ローム粒多く含む

Ⅱ' 暗褐色土 粘り強い、粘性有、30mm以下ロームブロック、ローム粒多く含む、Ⅱbより多め、1層土が水・粘土の影響で硬くなっただけの可能性あり

Ⅲ 暗褐色土 粘り強い、粘性有、40mm以下ロームブロック、ローム粒多く含む、1層より多め

Ⅳ 暗褐色土 粘り強い、粘性有、20mm以下ロームブロック、ローム粒やや多く含む

Ⅴ 3層が変質してボロボロしている

Ⅵ 暗褐色土 粘り強い、粘性有、15cm以下灰色粘土ブロック多く含む、3mm以下ローム粒少し含む、礎石

Ⅶ 暗褐色土 粘り強い、粘性有、10mm以下ロームブロック・粘土・灰色粘土少し含む、15mm炭化物わずかに含む、四方壁面は焼けて赤色している

第10図 川崎遺跡第26・28・29・30地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、奈良・平安時代の住居跡4軒、近世以降の溝状遺構、土坑を検出し、写真撮影・全測図作成・平板および遺り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

### ① H 52 号住居跡 (旧 H28 号住居跡)

【位置】調査区の西側に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。井戸1に竈西側の一部を壊されている。4.5 m 東側に H54 号住居跡、4 m 北側に H55 号住居跡、H56 号住居跡がある。

【形状】主軸方位は N-16°-E、北壁中央に竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸方位の南北 3.16 m、東西 3.49 m、確認面からの深さ 0.33 m である。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られている。両側の袖部に粘土が残る。竈の左右両壁が焼けて赤化する。奥壁は焼けていない。袖からの奥行き 0.82 m、幅 0.95 m。竈内部の幅 0.36 m。深さ 0.35 m。竈の手前に窪みがある。

【ピット】西壁と住居中央南側に小ピットがある。

【周溝】竈のある北壁と南壁中央を除き、壁際に浅い溝が巡る。幅 18 ~ 22 cm、深さ 3 ~ 6 cm。

【床・壁】住居跡中央の床面は硬化する。貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、中央を残して掘られ、凹凸が著しい。竈手前部分が広範囲に掘られる。

【出土遺物】住居全体から出土しているが、竈の手前と東壁際に集中箇所がある。須恵器環・皿、土師器甕・台付甕、砥石等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から 9 世紀中葉と推定される。

### ② H 53 号住居跡 (旧 H 29 号住居跡)

【位置】調査区の東端に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。溝や近世以降の掘乱で床面の半分が壊されている。また、住居跡の東側と南側は調査区域外で範囲の確認はできなかった。2.6 m 西側に H61 号住居跡、3.5 m 北側に H62 号住居跡がある。

【形状】主軸方位は N-16°-E、北壁東側に竈を備える。平面形態は方形長方形を呈する。規模は主軸方位の南北は 2.05 m 以上、東西 4.31 m 以上、確認面からの深さ 0.24 m である。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られているが、北側はブロック塀の下に入り規模・形態不明。袖の粘土は崩れ、竈右側に流出する。燃焼部底面は良く焼け赤化する。幅は 0.78 m を測る。近世以降の掘乱が著しい。

【ピット】全て後世の掘乱。

【周溝】北壁と西壁際に浅い溝が巡る。幅 18 ~ 25 cm、深さ 8 ~ 12 cm。

【床・壁】住居跡中央の床面は硬化する。貼床の土層はローム主体、暗褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、凹凸がある。

【焼土】住居中央やや東寄り、36 × 29 cm の円形範囲で床面が焼け、赤化している。

【出土遺物】住居全体から出土している。須恵器環・皿・碗、土師器甕・台付甕、鉄釘等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から 9 世紀後半と推定される。

### ③ H 54 号住居跡 (旧 H 30 号住居跡)

【位置】調査区の中央に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。イモビツに竈の一部と西壁の一部を壊されている。4.5 m 西側に H52 号住居跡、3 m 東側に H61 号住居がある。

【形状】主軸方位は N-4°-E、北壁東側に竈を備える。平面形態は長方形、規模は主軸方位の南北 2.96 m、東西 4.24 m、確認面からの深さ 0.20 m である。覆土はローム粒を多量に含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られている。右側の袖部に僅かに粘土が残る。両壁の一部が焼けて赤化する。袖からの奥行き 0.98 m、幅 0.71 m。竈内部の幅 0.51 m。深さ 0.27 m。

中央部分は近世以降のイモビツで壊されるが、竈の主軸延長線上に幅 0.38 m、深さ 0.11 m の浅い溝が延びる。煙道と思われる。

燃焼部の中央に支脚が上面を手前に横倒しの状態で出土した。支脚の上には長胴甕 (図版 20, № 56) が破片となって出土している。

竈の手前に窪みがある。また、竈右手前の床は薄く粘土が広がり、硬化している。

【周溝】竈を除き全面の壁際に浅い溝が巡る。幅 15 ~ 33 cm、深さ 8 ~ 15 cm。

【床・壁】住居跡南側中央の床面が硬化する。貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、全体に浅く平坦に掘られている。

【出土遺物】住居全体から出土しているが、東側の竈

の手前がやや多い。須恵器環・蓋・碗、土師器環・甕等が出土した。須恵器環の底部には墨書が認められる。(図版 56. № 46.47)

【時期】出土土器の特徴から8世紀後半と推定される。

#### ④井戸

H28号住居跡の竈西側を壊して構築される。深さ2.35 mまで掘り、ピンボールで底面を確認したところ0.8 m下で礫層らしき面を確認した。

#### ⑤土坑

土坑1はイモビツや礎石によって壊され、近世以前と思われる。

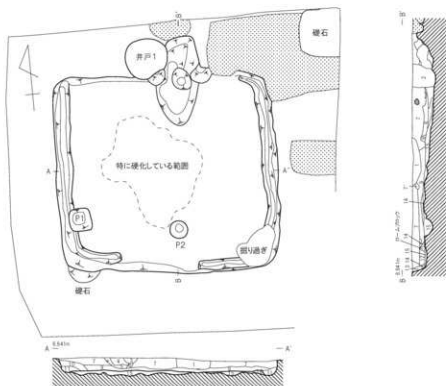
土坑2は動物骨が出土した。

土坑5・6はH30住居跡の床下より検出し、住居より古い。

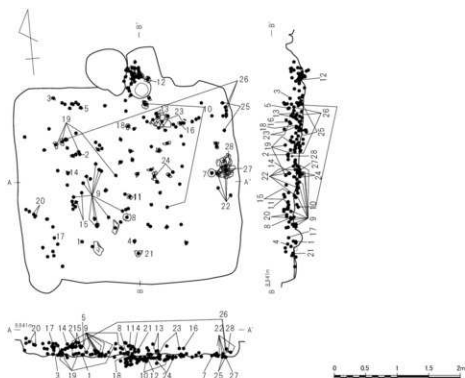
なお、土坑4、6、30地点の土坑4は掘立柱跡の可能性もある。

第11表 川崎遺跡第26地点遺構一覧表 (単位cm)

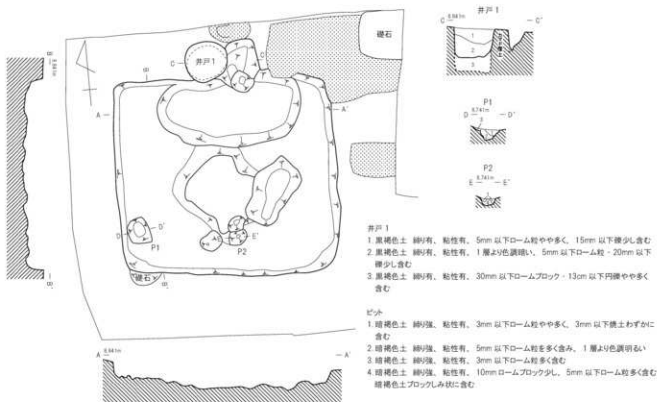
No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
H52 住P1	隅丸方形	35 × 32	20 × 20	20	
H52 住P2	円形	28 × 28	13 × 12	16	
井戸1	円形	66 × 64	(63) × (63)	(23)	未完掘。ビー玉出土
土坑1	円形	98 × (65)	72 × (60)	16	イモビツ。礎石より旧
土坑2	隅丸長方形	78 × 68	63 × 51	14	動物骨出土
土坑3	長方形	77 × 50	62 × 37	18	
土坑4	隅丸長方形	99 × 63	55 × 37	48	
土坑5	楕円形	88 × 48	60 × 35	36	H54号住居跡より旧
土坑6	楕円形	90 × 62	52 × 42	54	H54号住居跡より旧
P1	円形	28 × 25	15 × 15	22	中世以前
P2	(円形)	32 × (22)	6 × 5	20	イモビツより旧
P3	隅丸方形	35 × 35	20 × 18	25	動物骨出土
P4	円形	50 × 42	25 × 19	57	
P5	円形	26 × 26	12 × 8	34	土坑1より新
P6		28 ×	×		
P7	楕円形	24 × 18	6 × 6	62	
P8	楕円形	23 × 20	7 × 5	40	
P9	円形	20 × 19	6 × 6	36	
P10	方形	20 × 13	15 × 5	30	
P11	円形	42 × 41	18 × 8	82	P12より新
P12	(円形)	30 × (18)	18 × (8)	42	P11より旧
P13	不整形	35 × 30	16 × 7	57	
P14	隅丸方形	25 × 25	11 × 9	64	
P15	楕円形	25 × 21	10 × 5	30	
P16	方形	35 × 35	15 × 7	60	
P17	長方形	37 × 25	22 × 12	54	
P18	不整形	28 × 25	10 × 10	34	
P19	(円形)	85 × (35)	25 × (8)	58	掘立柱建物?
P20	不整形	76 × 60	18 × 12	55	
溝5	52m以上の直線、断面「U」字形	51 ~ 60	20 ~ 35	40	H53号住居跡より新



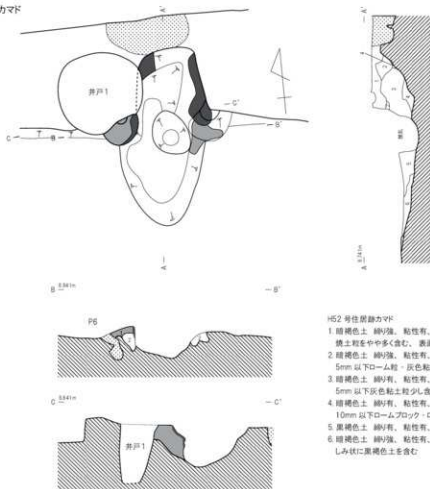
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、10mm以下ロームブロック・ローム粒・灰色粘土少し含む。  
タール状物質含む、稗瓦
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、硬質の黒褐色土ブロックを多く、10mm以下ロームブロック・ローム粒わずかに含む、稗瓦
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し、1mm程度の炭化物・焼土わずかに含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土と3mm以下炭化物や戸く、20mm以下ロームブロックわずか、ローム粒少し、10mm以下黒色土ブロック少し含む
5. 赤褐色土 締り強、粘性有、焼土主体でしみに状に暗褐色土と黒褐色土を少し含む
6. 黒色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベースに炭化物由炭の黒色土を多く含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、平均10mm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒均一にやや多く含む、北部分に最大100mmの灰色粘土ブロック少し含む
- 7' 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土・ローム粒多く含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し、5mm程度の焼土わずかに含む
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒均一にやや多く含む（7層より少ない）
10. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒均一にやや多く、2mm以下焼土わずかに含む（9層よりロームの粒径小さい）
11. 暗褐色土 締り強、粘性有、周溝の覆土、2mm以下ローム粒やや多く含む、色調明るい
12. 黒褐色土 締り強い、粘性有、2mm以下ローム粒少し（やや多め）、2mm以下焼土わずかに含む
13. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒を多く含む、色調明るい
14. 暗褐色土 締り強、粘性有、粘床土上の土、2mm以下ローム粒をやや多く、炭化物わずかに含む
15. 暗褐色土 締り強い、粘性有、粘床の土、ロームブロック主体、すきまを黒褐色土がうめる、土器破片含む



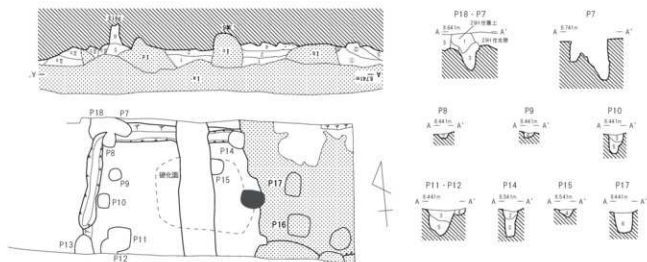
第11図 川崎遺跡第26地点H52号住居跡・遺物出土状況図（1/60）



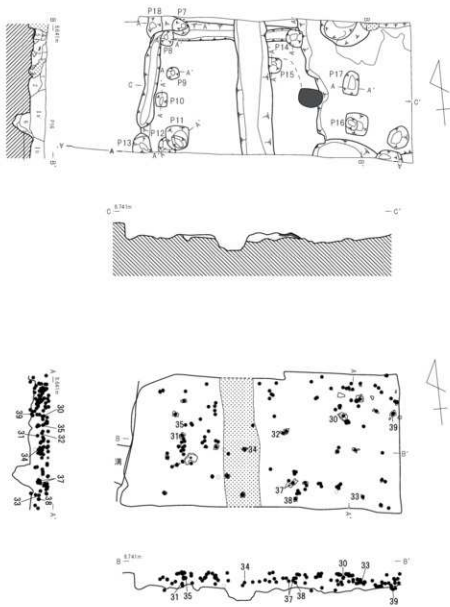
カマド



第12図 川崎遺跡第26地点 H52号住居跡掘方 (1/60)、竈 (1/30)

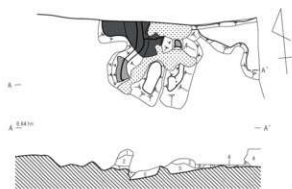


## 掘方

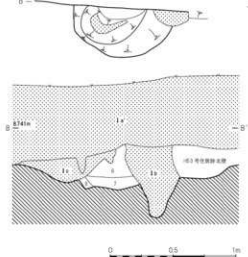


第13図 川崎遺跡第26地点H53号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)

カマド



掘方



H53 号住居跡 A-A'

- ① 黒褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む、H53 在 1 層に比べ灰色味がある
- ② 暗褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下焼土・ローム・灰色粘土やや多く含む、赤灰色味がある
- 1a 暗褐色土 細砂質、粘性有、5～10mm ロームブロック・2mm 以下ローム粒少し、2mm 以下焼土わずかに含む、表土、1 グリッド 1・2 層に對比、礫・ロームブロック含む
- 1b 黒褐色土 細砂質、粘性有、5～10mm ロームブロック、5mm 以下ローム粒・焼土少し含む
- 1c 黒褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土少し、10mm 大ロームブロック少し、下部にローム粒やや多く含む
- 1d 黒褐色土 細砂質、粘性有、5～40mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒、5mm 以下焼土少し、下部にローム粒やや多く含む
- 2a 黒褐色土 細砂質、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む
- 2b 黒褐色土 細砂質、粘性有、暗褐色土、ソアロームを多く含む(顕明)
1. 黒褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 細砂質、粘性有、5mm 大ロームブロック・焼土少し、3mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
3. 暗褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土を多く含む、2mm 以下炭化物少し含む、2 層より、赤褐色味がある、3mm 以下灰色粘土少し含む
4. 暗褐色土ベース 細砂質、粘性有、15mm 以下ロームブロック主体、2mm 以下ローム粒・焼土をやや多く含む(暗褐色土が貫入する、底床土)
5. 暗褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、10mm 程のロームブロック少し含む
6. 黒褐色土 細砂質、粘性有、10mm 以下ロームブロック・粒少し、やや多く、5mm 以下焼土少し含む

カマド・掘方

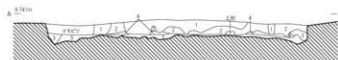
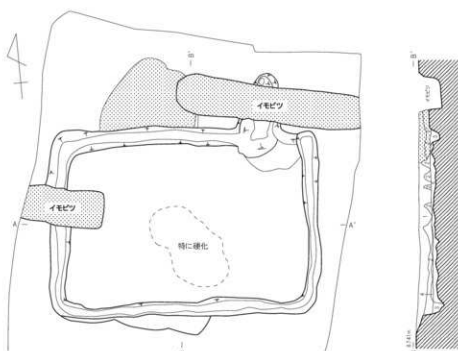
- 1a 暗褐色土 細砂質、粘性有、5～10mm ロームブロック・2mm 以下ローム粒少し、2mm 以下焼土わずかに含む、表土、1 グリッド 1・2 層に對比、礫・ロームブロック含む
- 1b 暗褐色土ベース 細砂質、粘性やや弱、40mm 以下ロームブロック・粒主体
- 1c 暗褐色土 細砂質、粘性有、被熱、硬化したロームブロック (5～20mm) やや多く、しみ状に黒褐色土含む、5 層近辺に 3mm 以下ローム粒・焼土 (最大 15mm) 多く含む
1. 灰色粘土 細砂質、粘性有、5mm 以下焼土・ローム粒やや多く含む
2. 褐色土 細砂質、粘性有、5～10mm 焼土やや多く含む
3. 褐色土 細砂質、粘性有、被熱したロームブロック・粒を多く含む、5～10mm 灰色粘土やや多く含む
4. 黒褐色土 細砂質、粘性有、上面は硬化している、5～10mm 焼土・ローム粒をやや多く含む、底床土
5. 暗褐色土 細砂質、粘性有、20mm 以下ロームブロック主体、すきまを暗褐色土が埋める、5mm 程の焼土を少し含む
6. 赤褐色土 細砂質、粘性有、赤味を帯びる褐色土主体、5～10mm 焼土多く含む、しみ状の黒褐色土少し含む
7. 暗褐色土 細砂質、粘性やや弱、被熱したロームブロック (20mm 以下) 多く、5～10mm 焼土やや多く、10mm の灰色粘土少し含む
8. 暗褐色土 細砂質、粘性有、被熱したロームブロック (5～20mm) やや多く、3mm 焼土少し含む

H53 号住居跡カマド B-B'

- 1a' 黒褐色土 細砂質、粘性有、10mm 以下ロームブロック・粒やや多く、5mm 以下焼土少し含む
- 1b 暗褐色土 細砂質、粘性有、耕作土、最大 10cm、およそ 50mm 以下ロームブロックやや多く含む
1. 赤褐色土 細砂質、粘性有、30mm の焼土ブロック少し、3mm 以下焼土多く、3～15mm 灰色粘土少し含む、粘土層以上の褐色土ベース
2. 褐色土 細砂質、粘性有、しみ状の灰色粘土含む、5mm 以下焼土・ローム粒やや多く (南半部の焼土の粒径 3mm 以下と小さめ)、下部に 10mm 以下ロームブロック集中
3. 暗褐色土 細砂質、粘性有、10mm 以下ロームブロック多く、3mm 以下焼土少し含む
4. 灰色粘土 細砂質、粘性有、しみ状の焼土・3mm 以下焼土粒多く含む、しみ状の黒褐色土少し、3mm 炭化物わずかに含む
5. 赤褐色土 細砂質、粘性有、赤味を帯びる褐色土主体、5～10mm 焼土多く含む、しみ状の黒褐色土少し含む
6. 黒褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
7. 暗褐色土 細砂質、粘性有、15mm 以下ロームブロック少し含む、5mm 以下ローム粒主体

ピット

1. 黒褐色土 細砂質、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、10mm 程のロームブロック少し含む (周溝層土も同じ)
3. 黒褐色土 細砂質、粘性有、10mm 以下ロームブロック・粒少し、5mm 以下焼土少し含む (P11 はロームブロック 5～50mm と大きい) (P18 の焼土は 5～10mm)
4. 暗褐色土 細砂質、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、20mm 以下ロームブロック少し含む、10mm 程の焼土少し含む (底床土の土)
5. 黒褐色土 細砂質、粘性有、2 層の土に似るが、細砂質、5mm 以下ローム粒やや多く含む
6. 暗褐色土 細砂質、粘性有、20mm 以下ロームブロック多く含む



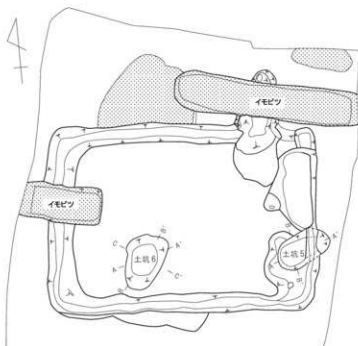
## H54 号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。5mm 以下ローム粒少し、3mm 以下焼土少し含む。
2. 層より灰色味がかる近代の陶磁器類を少し含む。複層を築けている。

1' 黒褐色土 締り強、粘性有。5mm 以下ローム粒多く含む。ベースの土はやや灰色味つよい。H54 住北西の復元の覆土

2. 黒褐色土 締り強、粘性有。15～5mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下焼土少し含む H54 住の主体となる覆土
3. 黒褐色土 締り強、粘性有。30～10mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒多く含む。周溝の覆土。ベースは 2 層と同じく灰色味強い黒褐色土
4. 黒褐色土 締り強、粘性有。ローム土・ローム粒多く含む。層より色調明るい
5. 黒褐色土ベース 締り硬い、粘性有。ロームブロック多く含む。2mm 以下ローム粒も多く、焼土・炭化物少し含む

## 掘方

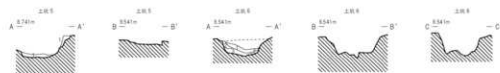


## 土坑 5

1. 黒褐色土 締り有、粘性有。5mm 以下焼土やや多く、3mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下炭化物少し含む

## 土坑 6

1. 黒褐色土 締り有、粘性有。5～40mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下炭化物・焼土わずかに含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有。2mm 以下ローム粒多く含む、しみ状に黒褐色土少し、1mm 以下炭化物少し含む
3. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有。30mm 以下ロームブロック・ローム粒主体



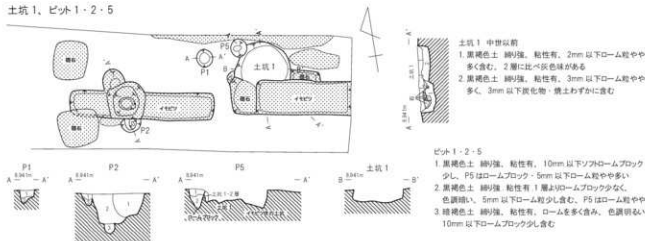
0 0.5 1 1.5 2m

第15図 川崎遺跡第26地点 H54 号住居跡・掘方 (1/60)

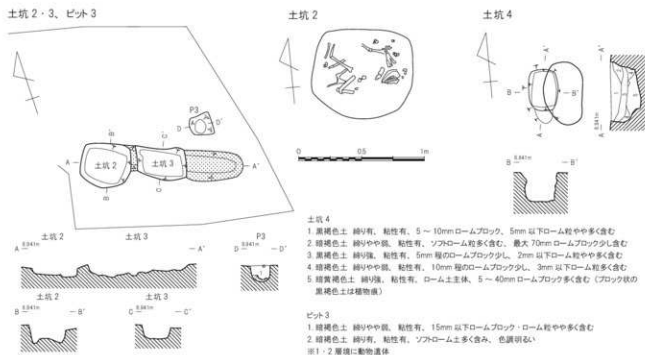




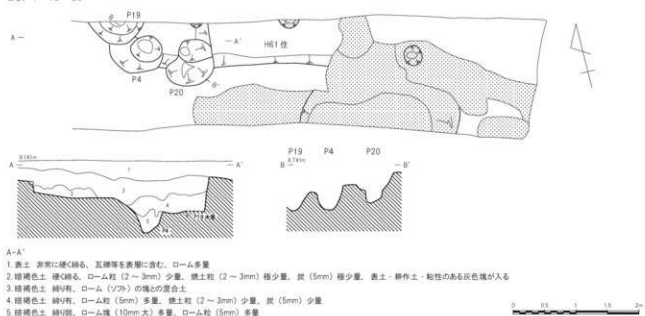
## 土坑1、ピット1・2・5



## 土坑2・3、ピット3



## ピット4・19・20

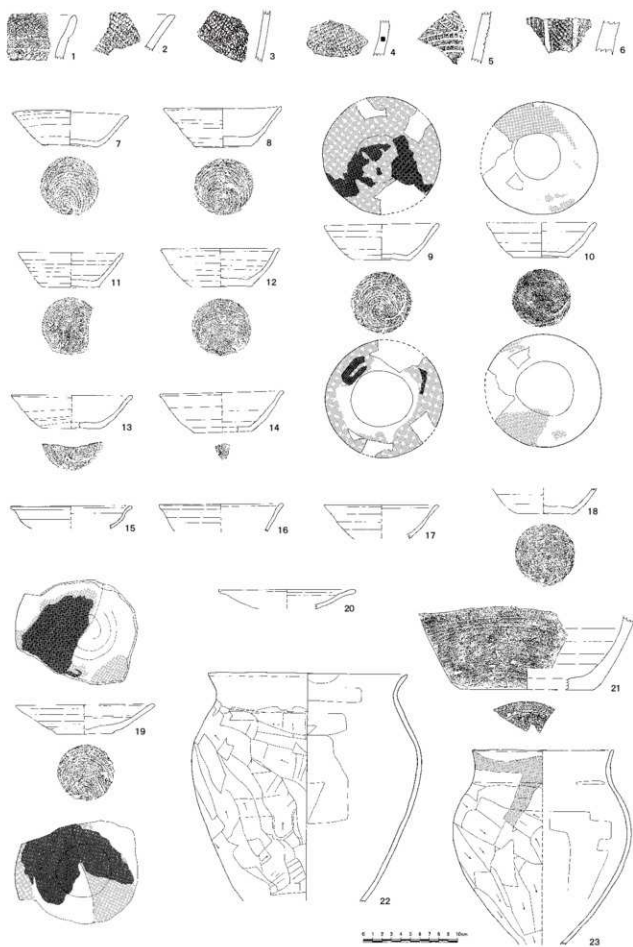


第17図 川崎遺跡第26地点土坑・ピット（1/30・1/60）

第12表 川崎遺跡第26地点出土土遺物観察表 (単位cm)

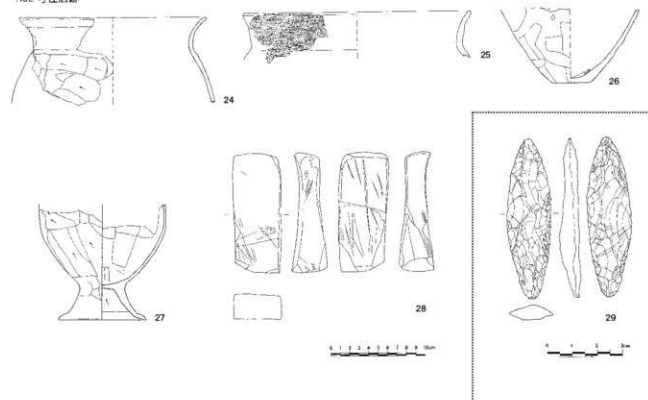
図版 番号	遺物 番号	遺物名	種類・部類	口徑・ 長さ	底径・ 幅	部高・ 厚	技法・文様・その他	推定生産地	推定年代・時期	現存/備考
18 回	1	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	LR 縄文を横山に施文後、横山の沈凹と底文文を施文し、沈凹上に刺突文を施文する/注% 73 (旧 H28 住居)	縄文中期～五期 9 付	縄文前期	口縁部片
	2	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	RL 縄文を横山に施文/注% 47 (旧 H28 住居)	縄文前期後半	縄文前期	口縁部片
	3	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	RL 縄文を横山に施文/注% 40 (旧 H28 住居)	縄文前期後半	縄文前期	口縁部片
	4	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	の段 3 本の LR 縄文/注% 32 (旧 H28 住居)	縄文前期～中・後期	縄文前期	口縁部片
	5	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	横山の底文を施文/注% 37 (旧 H28 住居)	縄文前期～中・後期	縄文前期	口縁部片
	6	H52 住居址跡	縄文土器	—	—	—	横山の底文を施文/注% 37 (旧 H28 住居)	加勢利王 墓	縄文前期	口縁部片
	7	H52 住居址跡	須恵器・灰	12.3	6.1	3.8	横山に施文/注% 14 (旧 H28 住居)	東金子	9C 中葉	完形
	8	H52 住居址跡	須恵器・灰	12.6	6.0	4.2	横山に施文/注% 69 (旧 H28 住居)	東金子	9C 中葉	完形
	9	H52 住居址跡	須恵器・灰	12.2	6.0	3.7	横山に施文/注% 51～53, 55, 61, 74～76, 98, 100, 108, C 区 1・2 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	3/4 以上残存
	10	H52 住居址跡	須恵器・灰	11.6	6.0	3.7	横山に施文/注% 22, 163, H1, カクラン 1 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	3/4 以上残存
	11	H52 住居址跡	須恵器・灰	(11.1)	6.0	3.7	横山に施文/注% 66 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	1/4 以上残存
	12	H52 住居址跡	須恵器・灰	(12.5)	6.4	4.0	横山に施文/注% 113 (旧 H28 住居)	東金子	9C 中葉	1/4 以上残存
	13	H52 住居址跡	須恵器・灰	(12.8)	6.1	3.5	横山に施文/注% 20, 21 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	1/2 以上残存
	14	H52 住居址跡	須恵器・灰	(13.0)	(6.2)	4.3	横山に施文/注% 50 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	1/4 以下残存
	15	H52 住居址跡	須恵器・灰	(12.8)	—	—	横山に施文/注% 58, 59 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	口縁部片
	16	H52 住居址跡	須恵器・灰	(13.2)	—	—	横山に施文/注% 17 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	口縁部片
	17	H52 住居址跡	須恵器・灰	(12.0)	—	—	横山に施文/注% 86, H8 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	口縁部片
	18	H52 住居址跡	須恵器・灰	—	5.8	—	横山に施文/注% 34 (旧 H28 住居)	東金子	9C 中葉	底部破片
19 回	19	H52 住居址跡	須恵器・灰	(14.7)	5.9	3.1	横山に施文/注% 84, 85 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	1/2 以上残存
	20	H52 住居址跡	須恵器・灰	(14.4)	—	—	横山に施文/注% 84, 85 (旧 H28 住居)	南比奈	9C 中葉	口縁部片
	21	H52 住居址跡	須恵器・灰	(14.0)	—	—	横山に施文/注% 33 (旧 H28 住居)	南比奈	9C	底部破片
	22	H52 住居址跡	土師器・灰	21.0	—	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	23	H52 住居址跡	土師器・灰	15.0	—	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	24	H52 住居址跡	土師器・灰	(19.8)	—	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	25	H52 住居址跡	土師器・灰	(24.0)	—	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	26	H52 住居址跡	土師器・灰	—	4.0	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	27	H52 住居址跡	土師器・台付器	—	9.2	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	28	H52 住居址跡	石製・灰	12.5	5.1	3.1	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	29	H52 住居址跡	石製・灰	6.35	1.80	0.83	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	30	H53 住居址跡	須恵器・灰	(14.0)	6.4	5.8	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	31	H53 住居址跡	須恵器・灰	(13.0)	5.6	4.0	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	32	H53 住居址跡	須恵器・灰	(11.5)	(5.0)	4.0	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	33	H53 住居址跡	須恵器・灰	(11.0)	(5.0)	2.6	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	34	H53 住居址跡	須恵器・灰	(12.0)	(5.0)	3.2	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	35	H53 住居址跡	須恵器・灰	(14.0)	—	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損
	36	H53 住居址跡	須恵器・灰	—	(6.0)	—	土師器上。口縁部破片で、横山に施文/注% 11～13, 15, 110, A 区 1, B 区 2 (旧 H28 住居)	9C	9C	底部欠損

刊版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・部種	口幅・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚	技法/文様/その他技法/文様/その他	推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
19 回	37	H53号住居跡	土師器・甕	(14.0)	—	—	粘土土垣上。口縁部横線で、胴部→胴部外面縦方向のへう割り/ 褐色/砂粒(～1mm)多量含む/注%51, 52(旧H29号住居)	南比企	9C 後半	口縁部片
	38	H53号住居跡	土師器・甕	—	—	—	粘土土垣上。口縁部横線で、胴部→胴部外面縦方向のへう割り/ 褐色/砂粒(～1mm)多量含む/内外面一部腐付着/ 注%50(旧H29号住居)		9C	口縁部片
	39	H53号住居跡	土師器・甕	—	4.4	—	粘土土垣上。内面縦方向の横で、外面縦方向のへう割り/明赤 褐色/砂粒(～0.5mm)多量含む/外面一部腐付着/ 注%106(旧H29号住居)		9C	底部片
	40	H53号住居跡	土師器・付付費	—	6.7	—	粘土土垣上。胴部横線で、胴部外面縦方向のへう割り。胴部内 面縦方向の横で/明赤褐色/砂粒(～1mm)含む/ 注%11(旧H29号住居)		9C	胴部
	41	H53号住居跡	鉄製品・釘	5.8	—	—	注%11(旧H29号住居)			
	42	H53号住居跡	陶文土器・	—	—	—	注%14(旧H29号住居)		縄文時代	
	43	H53号住居跡	陶文土器・深鉢	—	—	—	神式工具による沈箱と刺突による文様/注%11(旧H29号住居)		縄文後期・弥生寺	口縁部片
	44	H54号住居跡	須恵器・蓋	16.6	—	つぶみ 径21	横線成形。天井部半切後、回転成形。つまみ取り付け/灰黄 色/砂粒(～1.0mm)少量含む/注%11(旧H30号住居)	南比企	8C 後半	完形
	45	H54号住居跡	須恵器・環	12.8	7.2	3.8	横線成形。右回転半切後未調整/褐色/砂粒(～5mm)多量 含む/注%21(旧H30号住居)	東金子	8C 後半	完形
	46	H54号住居跡	須恵器・環	(12.0)	(7.0)	3.5	横線成形。右回転半切後未調整/灰褐色/砂粒(～5mm)多量 含む/注%33, 74, カクラン(旧H30号住居)	南比企	8C 後半	1/4以下残存/底 裏面に遺書有
20 回	47	H54号住居跡	須恵器・環	—	—	—	横線成形。右回転半切後未調整/灰白色/砂粒(～0.5mm)少量含む/ 注%11(旧H30号住居)		8C 後半	底部破片/底裏面 に遺書有
	48	H54号住居跡	須恵器・環	(12.0)	(7.0)	3.3	横線成形。右回転半切後未調整/にぶい黄褐色/砂粒(～0.5mm) 少量含む/内外面一部腐付着/注%56(旧H30号住居)	南比企	8C 後半	1/4以下残存/底 裏面に遺書有
	49	H54号住居跡	須恵器・環	(13.0)	—	—	横線成形/灰色/砂粒(～1.0mm)少量含む/ 注%14(旧H30号住居)	南比企?	8C	口縁部片
	50	H54号住居跡	須恵器・環	(13.0)	—	—	横線成形/灰黄色/砂粒(～1.0mm)少量含む/ 注%69, C区1, D区1(旧H30号住居)	南比企	8C	口縁部片
	51	H54号住居跡	須恵器・環	(13.0)	—	—	横線成形/灰黄色/砂粒(～1.0mm)多量含む/ 注%43, C区1(旧H30号住居)	南比企	8C	口縁部片
	52	H54号住居跡	須恵器・甕	—	7.0	—	横線成形。底部回転半切後高み取り付け/灰黄色/砂粒(～0.5 mm)少量含む/注%カクラン(旧H30号住居)		8C	底部破片
	53	H54号住居跡	土師器・環	(12.4)	(8.0)	3.2	外面下位から底部縦線の浅割り/褐色/砂粒(～0.5mm)少量 含む/注%23, 29, 32(旧H30号住居)	相模型	8C 中葉	1/4以下残存
	54	H54号住居跡	土師器・環	(13.8)	—	3.2	外面下位から底部縦線の浅割り/褐色/砂粒(～0.5mm)少量 含む/注%20(旧H30号住居)	相模型	8C 中葉	1/4以下残存
	55	H54号住居跡	土師器・甕	(19.0)	—	—	粘土土垣上。口縁部横線で、にぶい褐色/砂粒(～1mm)多量 含む/注%30, 46, B区1(旧H30号住居)		8C	口縁部片
	56	H54号住居跡	土師器・甕	20.6	—	—	粘土土垣上。口縁部横線で、胴部外面縦方向のへう割り。胴部 内面横線で/明赤褐色/砂粒(～1mm)多量含む/胴下半部に 腐付着/注%カマドP1, 3～5.8～12.15, H1(旧H30号住居)		9C	底部欠損
21 回	57	H54号住居跡	陶器・天目茶碗	(13.0)	—	—	横線成形/鉄釉/細暗褐色/砂粒(～1.0mm)少量含む/注% カクラン11(旧H30号住居)	瀬戸・美濃	18C	口縁部片
	58	H54号住居跡	磁器・皿	(11.0)	(7.0)	1.8	横線成形/空腔貼付け。コバルト釉/注%カクラン11(旧H30 号住居)		1880年代～	1/4以下残存
	59	H54号住居跡	磁器・紅皿	(11.0)	(7.0)	1.8	横線成形/染付け。高台から裏面無釉/ 注%カクラン21(旧H30号住居)	瀬戸・美濃	1810年代～	1/4以下残存
	60	H54号住居跡	磁器・急須	—	—	—	横線成形。赤染した穿孔孔。注1周りに付け/コバルト釉貼付け。 高台から裏面無釉/注%11(旧H30号住居)		1870年代～	注1破片
	61	H54号住居跡	瓦	4.7	4.9	1.6	瓦断片を円形に打ち抜いて成形/注%カクラン11(旧H30号住居)	近世		
	62	H54号住居跡	土製品・人形	2.7	2.5	—	型成形(前後付け)/モチーフ:女性/注%B区1(旧H30号住居)		18C 前半	頭部破片
	63	H54号住居跡	土製品・支脚	(17.2)	8.0	—	断面縦方向のへう割り/注%カマド21(旧H30号住居)	奈良・平安	下部欠損	
	64	土坑3	土製品・五輪	—	—	1.8	電柱基部の一部分/雲母片多量/注%3D2	近世		
	65	土坑3	陶器・鉢	(16.0)	—	—	横線成形/灰釉/灰黄色/注%3D2	瀬戸・美濃	18C 後～19C	口縁部片
	66	土坑3	鉄製品・鎌	—	3.7	—	注%3D2	近世		刃部破片
21 回	67	P4	須恵器・環	(13.0)	—	—	横線成形/淡黄色/砂粒(～1mm)少量含む/注%P4	南比企	9C 後～10C	口縁部片
	68	遺構外	土器・炊道具	—	—	—	粘土土垣上。内面横線。横合部に赤褐色。断面に径2.1cm の焼成面穿孔/褐色/外面は黒色塗料/内面と穿孔部に腐付 着/注%1ト1トH1		19C	胴部片
	69	遺構外	磁器・茶碗	(11.0)	4.4	4.8	横線成形/空腔貼付け。コバルト釉/注%1ト1トH1		1880年代～	1/2以下残存
	70	遺構外	須恵器・皿	—	(6.8)	—	横線成形。回転半切後未調整/にぶい黄褐色/砂粒(～1mm)。 断面径計多量含む/注%3ト1トH4	南比企	9C～10C	底部片
	71	遺構外	須恵器・甕	—	—	—	粘土土垣上。外面半切後/灰白色/砂粒(～3mm)多量含む/ 注%3ト1トH2	南比企	奈良・平安	胴部片/内面滑らか。転写面が
	72	遺構外	陶器・天目茶碗	—	4.3	—	横線成形。高台は回転成形による削り出し/鉄釉/黒褐色/ 注%3ト1トH2		17C 後半	底部片
	73	遺構外	陶器・甕	—	—	—	粘土土垣上/鉄釉/明赤褐色/注%3ト1トH2	近世		口縁部片
	74	遺構外	鉄製品・刀子	—	3.2	—	注%3ト1トH2			
	75	遺構外	鉄製品・刀子	—	1.0	—	注%3ト1トH2			

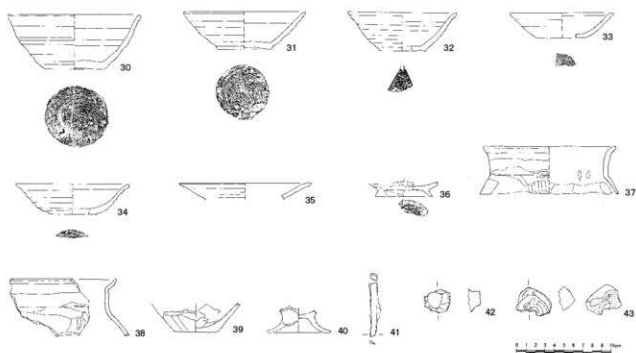


第18図 川崎遺跡第26地点H52号住居跡出土遺物① (1/4)

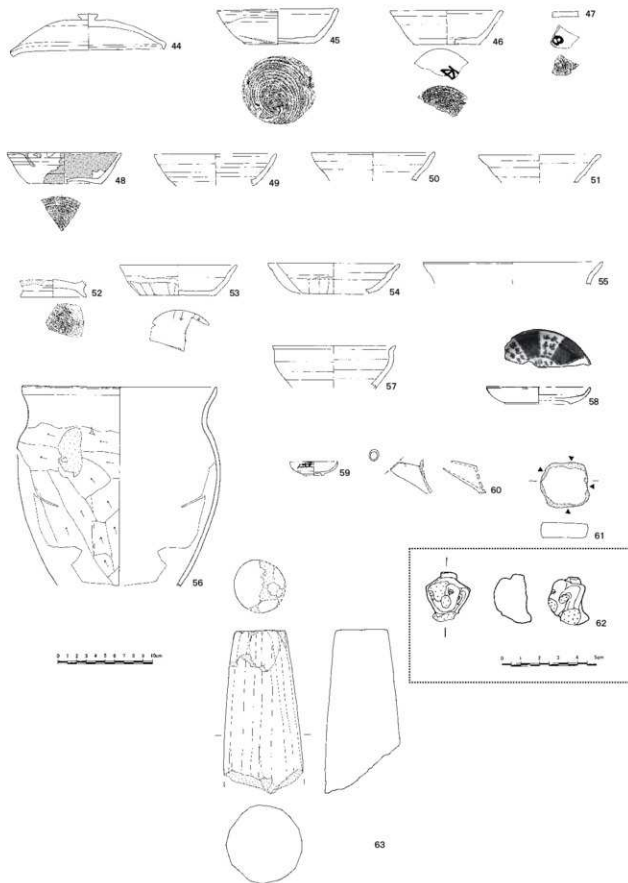
## H52号住居跡



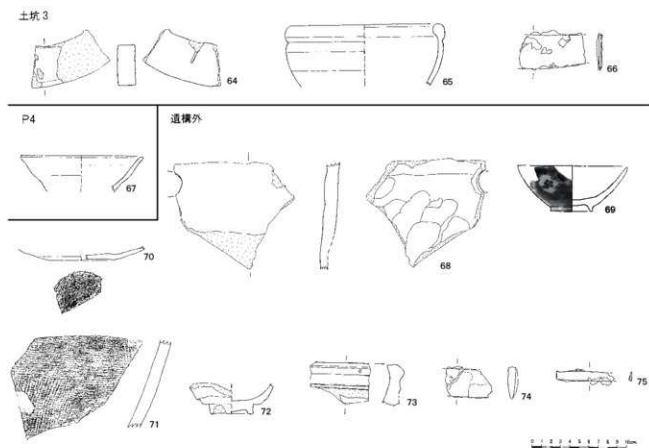
## H53号住居跡



第19図 川崎遺跡第26地点H52号住居跡出土遺物②・H53号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)



第20図 川崎遺跡第26地点H54号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)



第21図 川崎遺跡第26地点土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4)

## IV 川崎遺跡第 27 地点

## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 25 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南端、一段高い台地上に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 5 月 15 日から同月 21 日まで行なった。調査区に幅約 2 m のトレンチを 3 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、溝を検出した。遺構の性格を確認するため検出部分のみ調査した。溝を検出した北側は斜面となっており、確認面まで 90 cm を測る。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図・遺構面図作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

## (2) 遺構と遺物

【溝】調査区の北側は段切りされ、本調査区はコンクリートブロックで囲ったうえ斜面を盛土している。

その北端で東西方向の溝を 1 条検出した。断面形態は箱築研形を呈する。検出した溝の長さは 11.2 m で東西ともトレンチ確認面よりも外へ延びる。締りの強い暗褐色土と黒褐色土が交互に堆積し、最下層にはロームブロック主体の層がある。本地点の 50 m 東側の第 21 地点においても東西方向の「V」字形の溝を検出している。21 地点の北側にも本地点とは一連の段切りが認められ、段切りと溝の関連が伺われる。

溝の東側第 1 トレンチで土坑と重複関係にあり、土坑 1 より新しい。

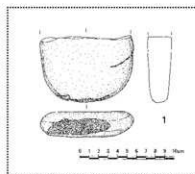
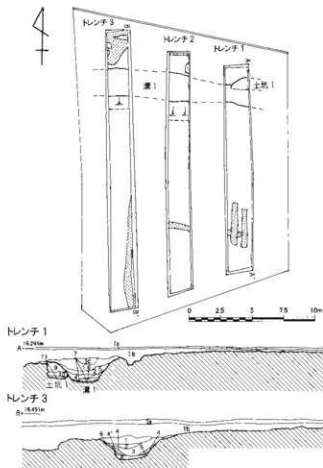
縄文土器 1 片と鈎石 1 点を検出した。鈎石は長 9.9 × 幅 7.0 × 厚 2.7 cm の砂岩製。その他に遺物はないが、土質から判断すると時期は古代以降と思われる。

【土坑 1】調査区北東、トレンチ 1 内で検出。溝 1 により南側を削られ、北側はトレンチ外へ伸びるが、未調査であるため、全体の形態は不明。検出部分の平面は弧を描き、底面は平坦、壁は垂直に立ち上がる。締りの強い暗褐色土と黒褐色土で、間にソフトロームを挟む。

出土遺物はないが、土質から判断すると縄文時代と思われる。

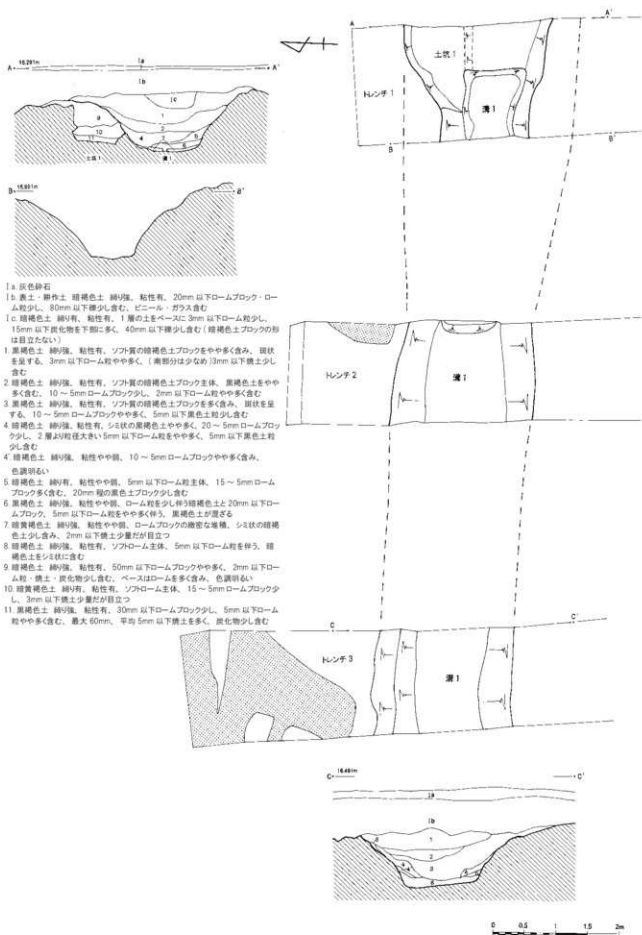
第 13 表 川崎遺跡第 27 地点遺構一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝 1	11.2 m 以上の直線。 断面箱築研	200 ~ 225	50 ~ 120	90	覆土下層ローム主体。 土坑 1 より新
土坑 1	(楕円形)	(335) × (65)	(132) × (85)	63	溝 1 より古



第 22 図 川崎遺跡第 27 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)





第23図 川崎遺跡第27地点溝1・土坑1 (1/60)

## V 川崎遺跡第28地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年6月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の北端に近い平坦面に立地し、隣接地では古代の住居跡等を検出している。申請地の北側の一部は個人住宅建設に伴い1978年5月に調査済みで、井戸2基・溝1条・地下坑1基を検出した。だが、申請地の南側は未調査のため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年7月4～9日に行なった。幅約2mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2008年7月10日から同年8月8日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、奈良・平安時代の住居跡3軒、近世以降の溝状遺構、土坑を検出し、写真撮影・全測図作成・平板および遺り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H 55 号住居跡 (旧 H 31 a 号住居跡)

【位置】調査区の南西に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。56号住居跡と重複し、同住居跡を壊して構築する。イモビツによって一部壊され、南側もブロック塀の下に入り規模・形態不明。6.5m北東側にH57号住居跡、4m南側にH52号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-19°-E、北壁東端に竈を備える。平面形態は方形か長方形、規模は主軸方位の南北が2.33m以上、東西3.90m、確認面からの深さ0.15mである。覆土はローム粒を含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外へ僅かに張り出して掘られている。右側の袖部に粘土が僅かに残る。奥行き0.88m、幅0.84m。深さ0.12m。

【床・壁】住居跡西側の遺存状況は良好だが、東側は掘乱を受ける。貼床の土層はローム主体、暗褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。

【出土遺物】4点出土したのみである。須恵器環、土

師器表等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から8世紀中～後半代と推定される。

## ② H 56 号住居跡 (旧 H 31 b 号住居跡)

【位置】調査区の南西に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。H55号住居と重複し、同住居跡に壊される。イモビツによって一部壊され、南側もブロック塀の下に入り規模・形態不明。6.5m北東側にH57号住居跡、4m南側にH52号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-18°-E、平面形態は方形か長方形、規模は南北4.04m以上、東西3.25m、確認面と床面はほぼ同レベルである。

【周溝】北壁と東壁壁際に浅い溝が巡る。西壁際は土層断面で確認できた。幅12～24cm、深さ2～7cm。

【床・壁】住居跡中央の床面は硬化する。貼床の土層はローム主体、暗褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘方は、中央を残し、周囲が深くなる。

【出土遺物】西壁際に土師器が出土したのみである。須恵器環、土師器表等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から8世紀中～後半代と推定される。

## ③ H 57 号住居跡 (旧 H 32 号住居跡)

【位置】調査区の中央東側に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。6.5m南西側にH55号住居跡とH56号住居跡、11.5m南側にH54号住居跡、3.5m東側にH58号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-105°-E、東壁南寄りに竈を備える。平面形態は長方形、規模は主軸方位の東西3.57m、東西2.95m、確認面からの深さ0.24mである。覆土はローム粒を含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られている。右側の袖部に粘土が残る。袖からの奥行き1.15m、幅1.05m。竈内部の幅0.50m。深さ0.41m。

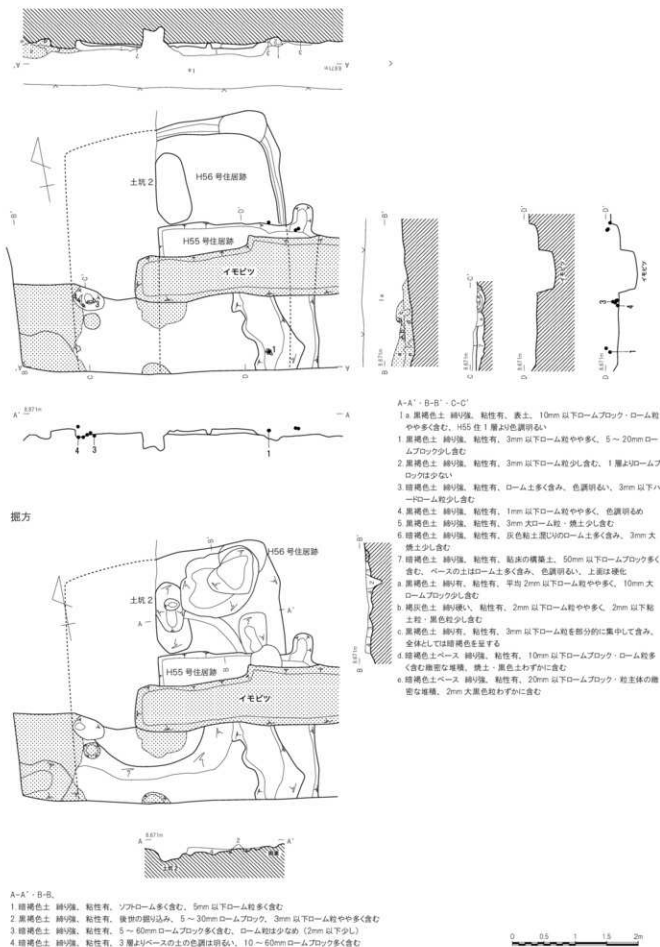
竈の手前に窪みがある。

【周溝】竈がある東壁を除き壁際に溝が巡る。幅12～25cm、深さ5～10cm。

【床・壁】貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘方は、中央が若干高いものの、全体に浅く平坦に掘られている。

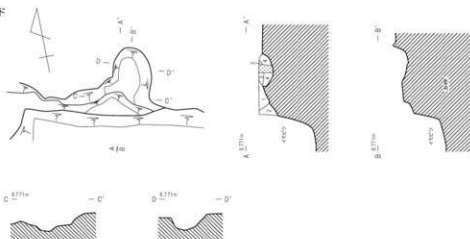
【出土遺物】住居全体から少量出土している。須恵器環・蓋・表等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から8世紀中～後半代と推定される。



第24図 川崎遺跡第28地点H55・H56号住居跡・掘方(1/60)

カマド



1. 黒褐色土 締り強、粘性有。5mm以下ローム粒やや多く、5mm以下土粒少し含む。シタ状の黒色土やや多く含む  
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有。3mm以下ローム粒少し、70mm大のロームブロック含む  
 3. 黄褐色土 締り強、粘性有。ロームブロック主体  
 4. 暗褐色土 締り強、粘性有。5mm以下ローム粒主体。10～15mm大黒色土ブロック少し含む

0 0.5 1m

第25図 川崎遺跡第28地点 H55号住居跡 (1/30)

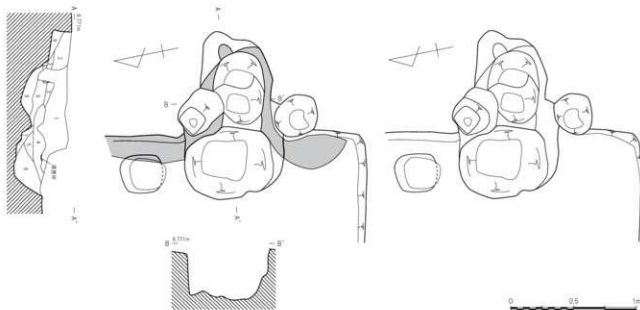
第14表 川崎遺跡第28地点出土遺物観察表 (単位cm)

図録 番号	図録 番号	遺構名	種類・部材	口径・ 底径・ 幅	高さ・ 厚	技法/文様/その他	石材/鑑定 産地	年代・ 時期	残存/備考	
29 図	1	H55号住居跡	須置部・坪	(12.5)	(8.0)	3.9	横堀成形。右側糸切後外部部(枕部)に灰土/砂粒(～0.5mm)少量含む/注No.1(旧H31a号住)	産地不明	8C後半	1/4以下残存
	2	H55号住居跡	須置部・坪	—	(7.0)	—	横堀成形。右側糸切後未調整/砂粒(～0.5mm)少量含む/浅黄褐色/注No.1(旧H31a号住)	南比企?	9C	底部
	3	H55号住居跡	土部・溝	(23.0)	—	—	粘土組織上。口縁部横堀で、にぶい黄褐色土/砂粒・角閃石(～0.5mm)少量含む/注No.7(旧H31a号住)	—	9C	口縁部片
	4	H55号住居跡	土部・溝	(22.0)	—	—	粘土組織上。口縁部横堀で、にぶい赤褐色土/砂粒・角閃石(～0.5mm)少量含む/外面部付着/注No.3(旧H31a号住)	—	9C	口縁部片
	5	H55号住居跡	瓦質土部	—	—	—	粘土組織上。外面部を締め、黄褐色土/砂粒・角閃石(～0.5mm)少量含む/注No.1(旧H31a号住)	—	—	製部破片
	6	H57号住居跡	縄文土部・ 路	—	—	—	土を軸として、縄文土部を軸に付した付加縄文土/敷土に食物繊維を含む/注No.1(旧H32号住)	縄文前期	製部破片/No.7と同 一個体の可能性有	—
	7	H57号住居跡	縄文土部・ 路	—	—	—	縄文前期土を平行に敷する/砂粒(～1mm)少量含む/注No.1(旧H32号住)	縄文前期・黒 土(有根系)	製部破片/No.6と同 一個体の可能性有	—
	8	H57号住居跡	須置部・溝	(16.0)	—	—	横堀成形。口縁部は屈曲する/黄褐色土/砂粒(～1mm)少量含む/注No.7(旧H32号住)	南比企	8C後半	口縁部片
	9	H57号住居跡	須置部・坪	13.4	8.0	3.2	横堀成形。右側糸切後未調整/灰黄色土/砂粒(～0.5mm)少量含む/注No.6(旧H32号住)	南比企	8C後半	3/4以上残存
	10	H57号住居跡	須置部・坪	(15.7)	(10.2)	3.8	横堀成形。右側糸切後未調整/灰黄色土/砂粒(～0.5mm)少量含む/注No.6(旧H32号住)	南比企	8C後半	1/4以下残存
	11	H57号住居跡	須置部・坪	—	(7.2)	—	横堀成形。右側糸切後未調整/灰黄色土/砂粒(～0.5mm)少量含む。外面部針金含む/注No.2(旧H32号住)	南比企	8C後半	底部
	12	H57号住居跡	須置部・坪	—	(7.0)	—	横堀成形。右側糸切後未調整/灰土/砂粒(～0.5mm)少量含む/注No.1(旧H32号住)	東金子	8C後半	底部
	13	H57号住居跡	須置部・溝	—	—	—	粘土組織上。外面部を締め、自然土/灰土/砂粒(～3mm)少量含む/注No.1(旧H33号住)	南比企	奈良・平安	口縁部破片
	14	H57号住居跡	須置部・溝	—	—	—	粘土組織上。外面部を締め、自然土/灰土/砂粒(～3mm)少量含む/注No.1(旧H32号住)	東金子	奈良・平安	製部片
	15	H57号住居跡	須置部・溝	—	14.4	—	粘土組織上。横堀調整/灰土/砂粒(～3mm)少量含む/注No.8、D区1(旧H33号住)	南比企	奈良・平安	底部
30 図	16	土坑2	須置部・坪	12.2	7.5	3.6	横堀成形。右側糸切後未調整/灰土/砂粒(～3mm)少量含む/注No.20付	南比企	8C後半	完形
	17	土坑2	土部・ かわらけ	—	(6.0)	—	横堀成形。右側糸切後未調整/にぶい褐色土/砂粒(～0.5mm)少量含む/注No.20付	—	15・16C	底部
	18	土坑2	須置部・溝	—	14.6	—	粘土組織上。外面部を締め、黄褐色土/砂粒(～3mm)少量含む/注No.1(旧H33号住)	南比企	奈良・平安	底部
	19	土坑2	土部・溝	(21.0)	—	—	粘土組織上。口縁部横堀で、製部外面部針金付。製部内面横堀の溝で、明赤褐色土/砂粒(～1mm)多量。製石含む/注No.2、3、5、7、13、16、18、26、32、34、35、37、38、42、43	—	9C	口縁部片
	20	土坑2	土部・溝	(20.0)	—	—	粘土組織上。口縁部横堀で、製部内面横堀の溝で、明赤褐色土/砂粒(～1mm)多量。製石含む/口縁部・製部・外面部付着/注No.12	—	8C	口縁部片
	21	遺構外	陶器・灰皿	(10.0)	(4.4)	2.5	横堀成形。右側糸切後、外面部付着/灰土・砂粒(～3mm)少量含む/口縁部・製部・外面部付着/注No.11	瀬戸・美濃	18C第3～ 19C第3	完形
	22	遺構外	陶器・灰皿	10.0	4.3	2.2	横堀成形。底面部横堀で、製部内面横堀の溝で、明赤褐色土/砂粒(～1mm)多量。製石含む/口縁部・製部・外面部付着/注No.11	瀬戸・美濃	18C第3～ 19C第3	1/2以下残存
	23	遺構外	陶器・灰皿	(10.2)	4.2	2.2	横堀成形。底面部横堀で、製部内面横堀の溝で、明赤褐色土/砂粒(～1mm)多量。製石含む/口縁部・製部・外面部付着/注No.11	瀬戸・美濃	18C第3～ 19C第3	1/2以上残存
	24	遺構外	土部・ かわらけ・ 灰皿	3.8	3.8	1.4	球状粘土を板状粘土に挟んで、平らに押つぶす。板からはみ出した部分で、面を削って平土/灰黄色土/注No.11	—	—	完形
	25	遺構外	石部・灰	—	—	—	重量 37.02g/断面の一部が残る。裏面は銅線/注No.11	瀬戸・美濃	近世～	破片
	26	遺構外	石部・灰	(8.2)	3.2	1.2	重量 64.10g/断面は1面。内側面。裏面はタガネが刺さる/注No.13	—	近世	一部欠



カマド

掘方



## A-A'・B-B'

- 1 a 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒少し含む  
 1 b 黒褐色土 締り強。粘性有。5 ~ 15mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒やや多く含む  
 1 c 黒褐色土 締り強。粘性有。20mm 以下ロームブロック多く含む  
 1 d 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm 以下ローム粒少しやや多く。焼土わずかに含む。灰色味がある  
 1 e 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm 以下ローム粒多く。10mm 大ロームブロック少し含む。灰色味がある  
 1 f 黒褐色土 5mm 以下ローム粒少し含む  
 1 g 黒褐色土 平均 20mm 以下ロームブロック多く含む  
 1 黒褐色土 締り強。粘性有。上層より色調暗く黒色味つよい。2mm 以下ローム粒少しやや多く。3mm 以下焼土わずかに含む。5 ~ 20mm 大ロームブロック少し含む  
 2 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm 以下ローム粒やや多く含む。灰色味がある  
 3 黒褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒多く含む。灰色味がある  
 4 黒褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒やや多く含む。灰色味がある  
 5 灰色土 締り強。粘性有。15mm 程度のロームブロック含む  
 6 暗褐色土 締り強い。粘性有。ローム土多く含む。酸化して硬化している  
 7 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm 以下ローム粒多く。焼土わずかに含む  
 8 暗黄褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒主体  
 8' 黒褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒多く含む  
 9 黒褐色土 締り強。粘性有。5 ~ 20mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒やや多く含む。潤滑の覆土  
 10 褐色土 締り強。粘性有。灰色粘土含み。色調明るい。3mm 以下ローム粒多く。黒褐色土少し含む  
 11 黄褐色土・黒褐色土 締り強い。粘性有。ローム主体。貫入するように黒褐色土が混ざり。黒褐色土には 5mm 以下ローム粒やや多く含む。粘土塊混入

## D-C' (東壁部に、締り強い土が広く堆積していた)

- 1 褐色土 締り強。粘性有。灰色粘土主体。酸化著しく。褐色味あり。15mm ロームブロック・2mm 以下焼土・5mm 大黒土粒わずかに含む  
 2 暗褐色土 締り強。粘性有。灰色粘土主体。酸化土 (1層より色調暗い褐色) 多く含む酸化した植物灰のような黒色土多く。2mm 以下焼土。5mm 以下ローム粒やや多く含む  
 3 褐色土 締り強。粘性有。灰色粘土主体。3mm 以下ローム粒多く含む。5 ~ 10mm 黒褐色土少し含む  
 4 褐色土 締り強。粘性有。粘土置いのローム土主体。5mm 大黒褐色土やや多く含む。粘土の土に似る  
 5 褐色土 締り強。粘性有。粘土置いのローム土主体。5 ~ 10mm ローム土少し含む  
 6 黒灰色土 締り強。粘性有。粘土置いの黒褐色土。5 ~ 10mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒やや多く含む  
 7 地山ロームに近いが、酸化した暗一黒褐色土粒やや多く含む

## P1 E-E'

- 1 黒褐色土 締り強。粘性有。5 ~ 10mm ロームブロックやや多く含む  
 2 黒褐色土 締り強。粘性有。20mm 以下ロームブロック粒主体

## カマド A-A'

- 1 黒灰色土 締り強。粘性有。5 ~ 10mm ロームブロックやや多く。5mm 以下焼土少し含む。酸化土が多く。ボロボロしている  
 2 褐色土 締り強。粘性有。3mm 以下ローム粒多く。5 ~ 20mm ロームブロック少し含む  
 3 灰色土 締り強。粘性有。シルト質灰色粘土主体。5mm 以下ローム粒・焼土少し含む  
 4 褐色土 締り強。粘性有。シルト質灰色粘土主体。5mm 以下ローム粒・焼土多く含む  
 5 黒灰色土 締り強。粘性有。5mm 以下ローム粒やや多く含む  
 6 褐色土 締り強い。粘性有。5 ~ 50mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒多く含む  
 7 黒褐色土 締り強。粘性有。20 ~ 60mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒多く含む  
 8 褐色土 締り強。粘性有。5mm 以下ローム粒やや多く含む  
 9 褐色土 締り強。粘性有。5 ~ 40mm ロームブロック多く含む

※1 ~ 9層。粘土置込み

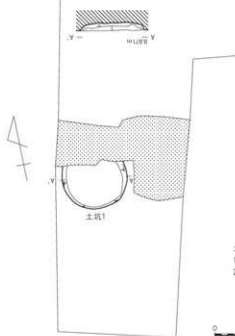
## ③土坑

土坑2はH 56号住居内にあり、住居に伴う貯蔵穴の可能性もある。須恵器環・甕、土師器甕等が出土した。

第15表 川崎遺跡第28地点遺構一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	円形	104 × (70)	86 × (65)	22	
土坑2	楕円形	111 × 55	45 × 24	29	56号住居の貯蔵穴か？土師器出土

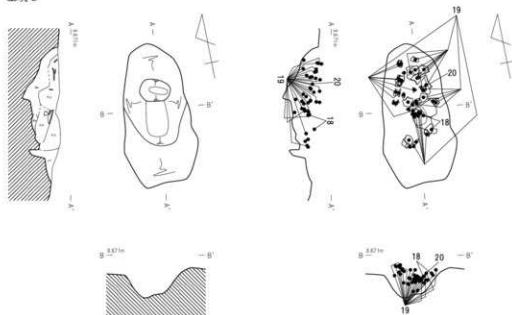
土坑1



土坑1

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し、焼土わずかに含む、2層より色調明るい
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～10mmロームブロック、3mm以下ローム粒少し含む

土坑2

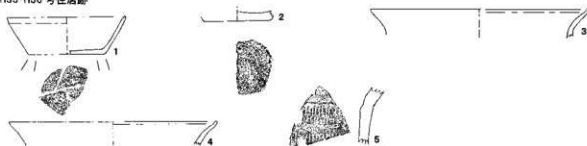


土坑2

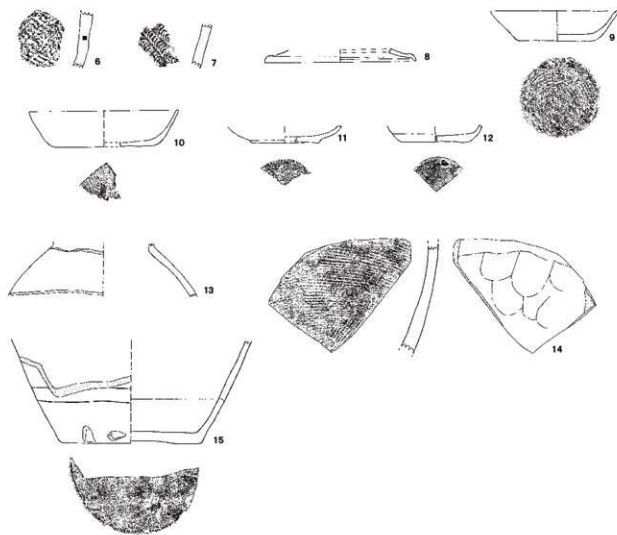
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く、2mm以下粘土少し、根掘乱
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土やや多く、しみ状の灰色粘土含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下灰色粘土粒多く、2mm以下焼土・ローム粒やや多く含む
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、10mm以下ロームブロック・ローム土多く含む

第28図 川崎遺跡第28地点土坑1 (1/60)、土坑2 (1/30)

H55・H56 号住居跡



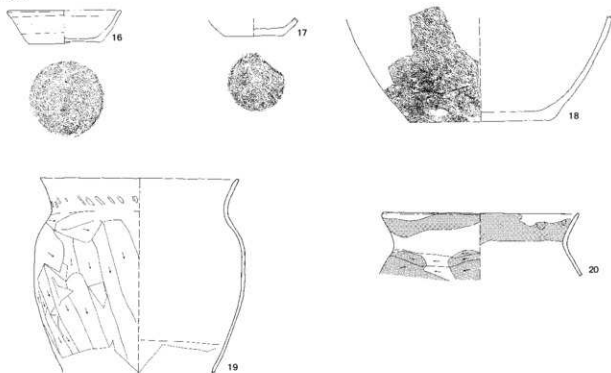
H57 号住居跡



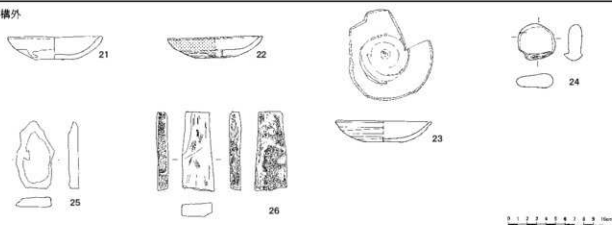
第29図 川崎遺跡第28地点 H55・H56・H57号住居跡出土遺物 (1/4)



## 土坑 2



## 遺構外



第30図 川崎遺跡第28地点土坑・遺構外出土遺物 (1/4)

## VI 川崎遺跡第29地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年6月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の北端に近い平坦面に立地し、隣接地では古代の住居跡等を検出している。申請地の北側の一部は個人住宅建設に伴い1978年5月に調査済みで、溝1条を検出した。だが、申請地の南側は未調査のため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年7月9～11日に行なった。調査区南側を重機により表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2008年7月14日から同年8月22日まで行なった。調査の結果、奈良・平安時代の住居跡2軒、溝3条、土坑、ピットを検出し、写真撮影・全測図作成・平板および遣り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H 58 号住居跡 (旧 H 33 号住居跡)

【位置】調査区の南西隅に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。住居跡の西側と南側はブロック塀の下に入り規模不明。3.5m西側に H57 号住居跡、0.8m東側に H59 号住居跡、7.0m南側に H60 号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-98°-E、東壁南側に竈を備える。平面形態は方形か長方形を呈する。規模は主軸方位の東西は2.14m以上、南北2.05m以上、確認面からの深さ0.16mである。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られているが、奥壁から煙道部は掘乱で壊される。袖の粘土は僅かに残る。幅は0.65mを測る。近世以降の掘乱が著しい。

【周溝】北壁と東壁際に浅い溝が巡る。幅22～26cm、深さ8～11cm。

【床・壁】竈手前部分の床面は硬化する。貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘方は、周囲が深くなる。

【出土遺物】竈内から多量に出土した。須恵器環、土師器甕・台付甕等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から9世紀前半と推定される。

## ② H 59 号住居跡 (旧 H 34 号住居跡)

【位置】調査区の南側に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。溝1に竈の一部や近世以降の掘乱で床面が壊されている。0.8m西側に H58 号住居跡、5.2m南側に H60 号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-16°-E、北壁東端に竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸方位の南北3.78m、東西3.72m、確認面からの深さ0.12mである。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られている。左側の袖部に粘土が残る。左壁が一部焼けて赤化する。奥壁は焼けていない。袖からの奥行き0.71m、幅0.90m。竈内部の幅0.50m、深さ0.39m。竈内に粘土と焼土が堆積する。竈の手前に窪みがある。

【床・壁】貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。

壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、凹凸が著しい。

【出土遺物】竈内に集中箇所がある。須恵器環、土師器甕等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から9世紀前半と推定される。

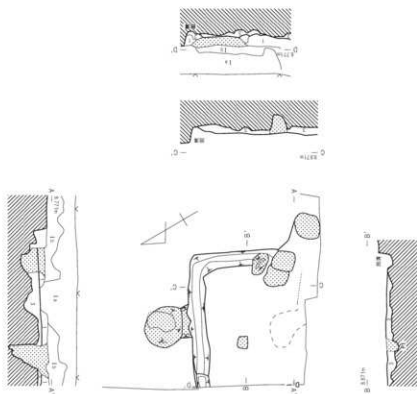
## ③ 溝

南北方向の溝が走る。溝1は出土物から近世以降。

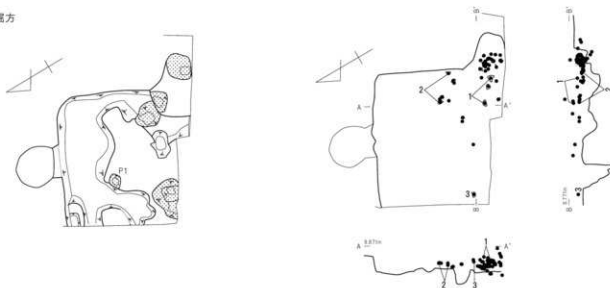
溝2は出土物から平安時代。

第16表 川崎遺跡第29地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1a	南北方向16.5m以上の直線、断面「U」字形	55～145	22～95	15～34	東側に掘り込みあり
溝1b	南北方向6.2m以上の直線、断面「U」字形	62～84	25～38	26～44	溝1aより旧
溝2	南北方向9m以上の直線、断面「U」字形	50～70	15～40	15～30	南側が深い、断面「U」字形、須恵器出土、平安時代



## 掘方



1 a 暗褐色土 締り強。粘性有。塩ビ含む。表土

1 b 暗褐色土 締り強。粘性有。平均 3mm 以下ローム粒少し。焼土わずかに含む。表土

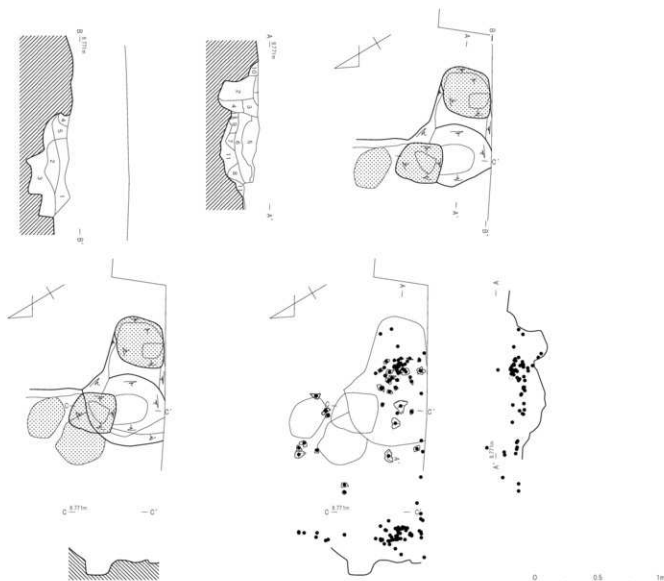
1 黒褐色土 締り強。粘性有。平均 2mm 以下ローム粒均一に少し含む。5 ~ 10mm ロームブロックわずかに含む

2 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒多く含み色調明るい。ロームブロックやや多く含む

3 黒褐色土ベース 表面硬い。粘沫質土。ロームブロック主体

0 0.5 1 1.5 2m

第 31 図 川崎遺跡第 29 地点 H58 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)

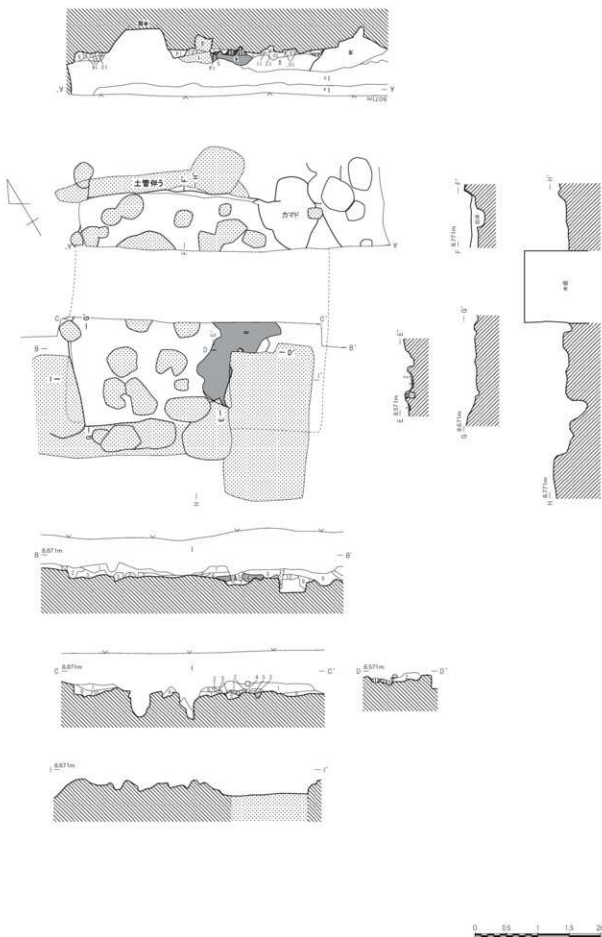


## A-A'

1. 暗褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。5～20mmロームブロック。3mm以下ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強。粘性有。10mm大ロームブロック。2mm以下ローム粒少し。土器破片。3mm大炭化物わずかに含む
4. 黒褐色土 締り有。粘性やや弱。20mm大ロームブロック少し。5mm以下ローム粒やや多く含む
5. 暗褐色土 締り強。粘性有。粘土分を含み。色調明るめ。2～10mm焼土やや多く。5mm以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り強。粘性有。5mm以下ローム粒多く。5mm以下焼土少し。30mm大灰色粘土少し含む
7. 黒褐色土 締り強。粘性有。平均2mm以下ローム粒やや多く含む。色調暗い
8. 黒褐色土 締り強い。粘性有。しみ状の褐灰色土を含み色調暗い。5mm以下ハートローム粒少し含む
9. 黒褐色土ベース 締り強。粘性有。20mm以下ロームブロック。ローム粒主体
10. 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム粒を多く含む黄色みがかる。1～5mmハートローム粒やや多く含む
11. 黒褐色土ベース 締り強。粘性有。ロームブロック(大型)多く含む

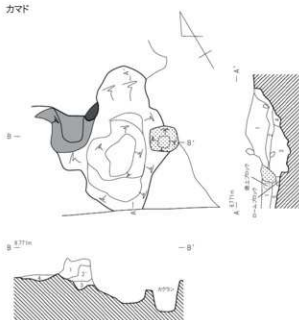
## B-B'

1. 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒少し。5mm以下焼土。40mm大ロームブロックわずかに含む
2. 暗褐色土 締り強。粘性有。粘土量じりの黒褐色土。色調明るめ。5～10mmロームブロック。2mm以下ローム粒やや多く。3mm以下焼土少し含む
3. 黒褐色土ベース 締り有。粘性有。30mm以下ロームブロック主体
4. 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒。5mm以下焼土やや多く含む
5. 褐色土 締り強。粘性有。灰色粘土主体。2～10mmソフトローム少し含む



第33図 川崎遺跡第29・30地点H59号住居跡 (1/60)

カマド



カマド A-A'

1. 黒褐色土 埴り強、粘性有、しみ状に灰色粘土含む。3mm以下焼土やや多く、3mm以下ローム粒少し含む。10mm大ロームブロック、15mm大焼土ブロックわずかに含む
2. 赤灰色土 埴り強、粘性有。灰色粘土ベースに焼土分含む。赤味等びる。2mm以下焼土・ローム粒やや多く含む
3. 褐灰色土 埴り強、粘性有。5～20mmロームブロック多く、5～10mm焼土やや多く含む
4. 赤褐色土 埴り強、粘性有。焼土主体 上面は硬化している
5. 黒褐色土 埴り強い。粘性有。3mm以下ローム粒少し含む。3mm以下焼土わずかに含む

カマド B-B'

1. 褐灰色土 埴り強、粘性有、灰色粘土主体、1～5mm焼土少し含む。焼土と20mm大ロームブロックをわずかに伴う。黒褐色土（直徑50mm）は根層見
2. 暗褐色土 埴り強、粘性有、しみ状の灰色粘土含む。1～5mm焼土やや多く含む
3. 暗褐色土 埴り強、粘性やや弱、硬化したローム土多く含む。黄色味がかる。最大30mm、平均3mm以下焼土少し含む
4. 暗褐色土 埴り強、粘性やや弱、黒褐色土混じりローム土主体、15mm大ロームブロック少し含む。粘床構築土

H59号住居跡 A-A'

- 1a. 暗褐色土 埴り強、粘性有。ローム土多く含む素土
- 1b. 暗褐色土 埴り強、粘性有。ロームブロック・灰色粘土・硬な含む素土及び瓦片
2. 暗褐色土 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒少し、10mm大ロームブロック・ローム粒・焼土わずかに含む。下部にしみ状の黒褐色土含む
3. 黒褐色土 埴り強、粘性有。ローム土を下部にやや多く含む。色調明るい。2mm以下ローム粒・15mm大焼土少し含む
4. 黒褐色土 埴り強、粘性有。5mm以下ローム粒やや多、灰色味がある
5. 黒褐色土 埴り強、粘性有。3mm以下ローム粒・5～10mmロームブロック少し、5mm大焼土わずかに含む
6. 黒褐色土 埴り強、粘性有。しみ状の灰色粘土少し含む。色調暗め。2mm以下ローム粒少し、10mm大ロームブロック・5mm大焼土少し含む
7. 暗褐色土 埴り強、粘性有。粘土混じりローム土含む。黄灰色味あり。5mm以下ローム粒・焼土やや多く含む
8. 暗褐色土 埴り強、粘性有。粘土混じりローム土・5mm以下焼土多く含む
9. 黒褐色土 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒やや多。1～3mm焼土少し含む
10. 黒褐色土 埴り強、粘性有。3mm以下ローム粒やや多く含む。周溝層土か?
11. 黒褐色土 埴り強、粘性有。5mm以下ローム粒多く含む

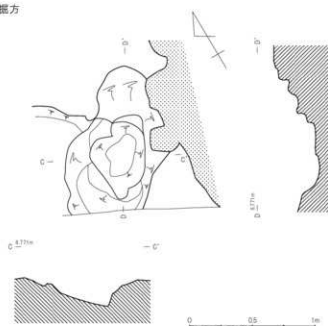
H59号住居跡 A-A' 同

10. 褐灰色土 埴り強、粘性有。しみ状の灰色粘土多く含む。2mm以下ローム粒やや多。2～10mm焼土少し含む

H59号住居跡 B-B' 同

11. 黒褐色土 埴り強、粘性やや弱。20mm大、もしくは3mm以下で硬質・硬化したローム土多く含む
12. 暗褐色土ベース 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒主体
13. 暗褐色土 埴り強、粘性有。ローム混じりの黒褐色土。5mm大ロームブロックやや多く含む。ロームブロック主体の粘床に裏入るようにならざる
14. 黒褐色土ベース 埴り強い。粘性有。ローム混じりの黒褐色土ベースに20mm以下ロームブロック主体。5mm以下焼土少し含む。粘床構築土

掘方



B-B'

1. 暗褐色土 素土 埴り強、ロームブロック少し。3mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒均一に少し含む。10～15mmロームブロック少し。1～10mm焼土わずかに含む
3. 暗褐色土 埴り強、粘性有。5mm以下ローム粒多く、10mm大ロームブロックわずかに含む
4. 黒褐色土ベース 埴り強、粘性有。ロームブロック主体。ローム粒を伴う黒褐色土がすきまを埋める。粘床の土
5. 黒褐色土 埴り強、粘性有。5～10mmロームブロック・2mm以下ローム粒やや多く含む
6. 黒褐色土 埴り強、粘性有。1～10mm焼土・2mm以下ローム粒やや多。20mm大灰色粘土少し含む
7. 褐灰色土ベース 埴り強、粘性有。25mm以下ロームブロック・5mm以下焼土・しみ状の灰色粘土やや多く含む
8. 暗褐色土 埴り強、粘性有。30mm以下ロームブロック主体。ベースの土はロームを多く含む。黄色味強い。2～3mm焼土少し含む
9. 黒褐色土 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒・焼土を均一に少し含む。10～15mmロームブロック・5mm大粘土・土師片をわずかに含む
10. 黒褐色土 埴り強、粘性有。ピット状のおち込み。2mm以下ローム粒多く。5mm大ロームブロック少し含む
11. 黒褐色土ベース 埴り強、粘性有。5～10mmロームブロック・焼土やや多く含む点で6層に似るが、粘土を伴わない

C-C'

1. 黒褐色土 埴り強、粘性有。2mm以下ローム粒やや多。5～10mmロームブロック少し。3mm以下焼土少し。土師片含む（様子は住居跡理上）
2. 黒褐色土ベース 埴り強、粘性有。灰色粘土多く含む
3. 暗褐色土 埴り強、粘性有。5～10mm褐色味強い。ロームブロックを多く。5mm以下黄色土やや多く含む
4. 暗褐色土 埴り強、粘性有。黒褐色土混じりの粘土主体。5～10mmロームブロック多く含む
5. 暗褐色土ベース 埴り強、粘性やや弱。15mm以下ロームブロック粒主体
6. 黒褐色土 埴り強、粘性有。5mm大ロームブロック・2mm以下ローム粒少し。1mm焼土わずかに含む。1層より埴り強い
7. 黄褐色土 埴り強、粘性有。10mm以下のロームブロック多く含む。ロームの粒並な準層。10～15mm粘土混じり黒褐色土ブロック少し含む
8. 黒褐色土 埴り強、粘性有。10～20mmロームブロックやや多。3mm以下ローム粒少し。焼土わずかに含む
9. 暗褐色土 埴り強、粘性有。5mm以下ローム粒多く含む。ローム混じりの黒褐色土ベース（他遺構でも周溝層土に似る）
10. 黒褐色土ベース 埴り強、粘性有。20mm以下ロームブロック・ローム土多く含む

D-D'

1. 褐灰色土 埴り強、粘性有。灰色粘土主体。黒褐色土・ロームブロック混じり。2mm以下焼土少し含む。ピット状の陥凹あり
2. 褐灰色土 埴り強、粘性有。10～30mmロームブロック・5mm以下ローム粒多く含む。5mm以下焼土少し。上面に3～10mm焼土多く含む

E-E'

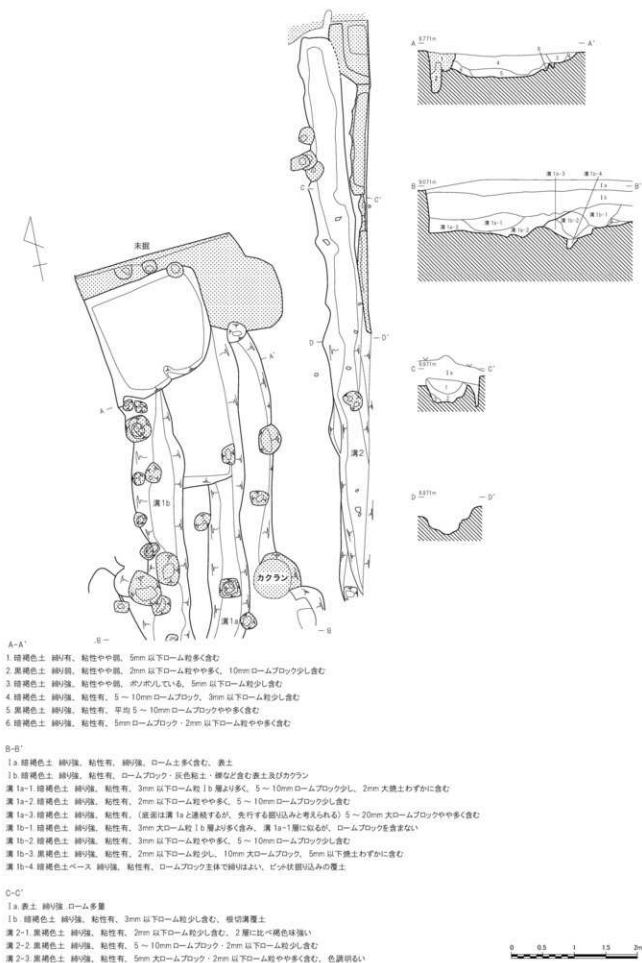
1. 褐灰色土 埴り強、粘性有。しみ状の灰色粘土含む。黄灰色味あり。10mm大焼土・3mm以下焼土粒多く。2mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 埴り強、粘性有。3mm以下ローム粒やや多。10mm大焼土・3mm以下焼土粒少し含む

第34図 川崎遺跡第29・30地点 H59号住居跡 (1/30)

掘方



第35図 川崎遺跡第29・30地点H59号住居跡掘方・遺物出土状況図(1/60)



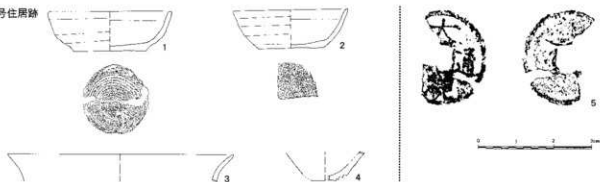
第36図 川崎遺跡第29地点溝1・2 (1/60)



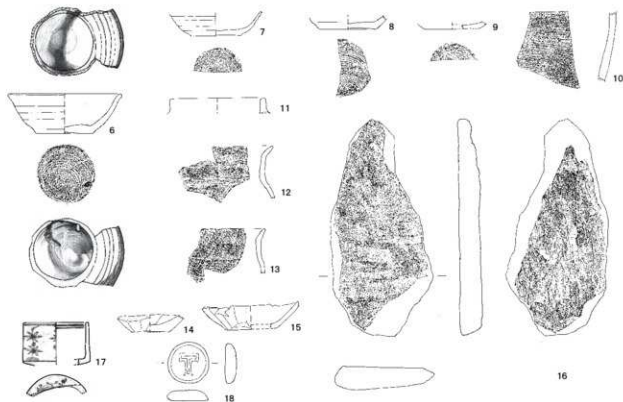
第17表 川崎遺跡第29地点出土遺物観察表 (単位:cm)

図版 番号	図版 番号	遺物名	種類・部類	口径・ 長さ	底径・ 幅	器高・ 厚	技法/文様/その他	石材/ 産定生産地	推定年代・時期	残存/備考
	1	H58号住居跡	須恵器・灰	(13.1)	7.6	4.2	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/灰黄色/砂粒(～0.5mm)多量含む/注№15、17(旧H33号住)	東金子	9C前半	1/2以上残存
	2	H58号住居跡	須恵器・灰	(12.2)	6.8	4.1	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/灰黄色/砂粒(～1mm)多量含む/注№6、11(旧H33号住)	南比奈	9C前半	1/4以上残存
	3	H58号住居跡	土師器・甕	(21.0)	—	—	粘土結核上。口縁部横溝で/褐色/砂粒(～1mm)多量。脚石含む/注№1(旧H33号住)	—	9C	隣接結合部
	4	H58号住居跡	土師器・ 台付蓋	—	—	—	粘土結核上。内外面磨り/にぶい赤褐色/砂粒(～1mm)多量。脚石含む/脚部に灰付着/注№H1(旧H33号住)	—	9C	隣接結合部
	5	H58号住居跡	瓦葺・調査	外径 2.55	厚径 0.69	0.16	重1.18g。跡造(大甕通)貫。小平瓦/注№P1(旧H33号住)	—	1107年初頭	1/2以上残存
	6	H59号住居跡	須恵器・灰	(12.2)	6.8	4.1	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/灰黄色/砂粒(～1mm)多量含む/口縁部及び底部内外面の一部に灰付着/注№4、H1(旧H36号住)	東金子	9C前半	1/4以上残存
	7	H59号住居跡	須恵器・灰	—	(5.2)	—	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/灰色/砂粒(～1mm)多量含む/注№28(旧H34号住)	南比奈	9C前半	底部
	8	H59号住居跡	須恵器・灰	—	(6.0)	—	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/にぶい黄褐色/砂粒(～1mm)多量含む/注№H1(旧H36号住)	東金子	9C前半	底部
	9	H59号住居跡	須恵器・灰	—	(5.6)	—	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/灰色/砂粒(～1mm)多量含む/注№49(旧H34号住)	東金子	9C前半	底部
	10	H59号住居跡	須恵器・甕	—	—	—	粘土結核上。外面磨り締め/灰黄色/砂粒(～3mm)多量含む/注№カマド№1(旧H36号住)	南比奈	奈良・平安	脚部片
	11	H59号住居跡	須恵器・ 短箱蓋	(10.2)	—	—	轆轤調整/灰色/砂粒(～1mm)多量含む/注№カクラン2(旧H34号住)	南比奈	9C	脚部片
	12	H59号住居跡	土師器・甕	—	—	—	粘土結核上。口縁部横溝で。脚部外面縦方向のへう割り/褐色/砂粒(～1mm)多量含む/注№30、40(旧H34号住)	東金子	9C	口縁部片
	13	H59号住居跡	土師器・甕	—	—	—	粘土結核上。口縁部横溝で。脚部外面縦方向のへう割り/明赤褐色/砂粒(～1mm)多量含む/注№24、59(旧H34号住)	—	9C	口縁部片
	14	H59号住居跡	土師器・甕	—	4.0	—	粘土結核上。内外面縦方向のへう割り/褐色/砂粒(～1mm)多量/注№H3(旧H36号住)	—	9C	底部片
	15	H59号住居跡	土師器・甕	—	5.2	—	粘土結核上。内面縦方向、外面縦方向のへう割り/褐色/砂粒(～1mm)多量/注№3(旧H36号住)	—	9C	底部片
	16	H59号住居跡	石製品・瓶蓋	(22.7)	(9.6)	2.0	重807g/裏面に横方向の工具痕(幅1.4cm)/注№H3(旧H36号住)	—	中世	—
	17	H59号住居跡	磁器・貝茶碗	(7.0)	—	—	轆轤成形/染付け。外面草花文。口縁内面二重凹線/注№カクラン(旧H34号住)	肥前	1810～ 1840年代	1/4以下残存
	18	H59号住居跡	ガラス製品・ 石磨り	4.4	4.4	1.2	型押成形/緑色半透明/丁字の型押文様/注№H2(旧H36号住)	—	1910～ 1930年代	完形
	19	溝1	土師器・甕	—	(4.0)	—	粘土結核上。内外面縦方向のへう割り/明赤褐色/砂粒(～1mm)多量/注№1M1	—	9C～10C	底部片
	20	溝1	須恵器・志野皿	(13.0)	—	2.7	轆轤成形/長石釉/灰黄色/注№1Mベルト	瀬戸・光道	16C末～17C代	1/4以下残存
	21	溝1	磁器・雙連杯	—	(5.7)	—	轆轤成形/コバルト染付け/注№1M1	肥前	1870年代～	底部片
	22	溝2	縄文土器・鉢	—	—	—	1区 縄文を模倣に施文/胎土に食物繊維含む/注№2M2	縄文前期・羽衣 縄文系	—	脚部片
	23	溝2	縄文土器・鉢	—	—	—	1区 縄文を模倣に施文/胎土に食物繊維含む/注№2M2	縄文前期・羽衣 縄文系	—	脚部片
	24	溝2	須恵器・甕	—	6.8	—	轆轤成形。底部右回転糸切後、高台部分/内外面磨り口詰め保存着/胎灰黄色/注№2M№10	不明	9C後半～10C	底部片
	25	遺構外	須恵器・皿	(17.0)	—	—	轆轤成形。底部右回転糸切後未調整/にぶい黄褐色/砂粒(～5mm)多量含む/注№粗切り溝	不明	9C～10C	1/4以下残存
	26	遺構外	陶器・土器	—	5.8	—	轆轤成形/灰釉/底部灰付着/灰黄色/注№H8	—	近代	底部片
	27	遺構外	磁器・急須蓋	(6.0)	—	—	轆轤成形/コバルト染付け。裏面文様/注№H2	—	1870年代～	1/2以下残存
	28	遺構外	磁器・小鉢	(6.6)	(3.0)	4.0	轆轤成形/タロコ青釉/明緑灰色/注№H2	—	1890年代～	1/2以下残存
	29	遺構外	磁器・小鉢	(7.6)	(3.8)	3.5	轆轤成形/銅緑色染付け。緑色/注№1D	—	1890年代～	1/2以下残存
	30	遺構外	陶器・皿	—	(8.8)	—	轆轤成形。浅高台/高台内側磨き灰釉(黄褐色)。内面磨り。外面沈線/灰黄色/注№H3	瀬戸・光道	17C後半～ 18C前半	底部片
	31	遺構外	磁器・皿	—	(8.8)	—	轆轤空打成形。菊花、龍/目四角高台/染付け。内面模陶山水文/沈線。高台内に模陶「お」有/注№H1	肥前	1780～ 1860年代	底部片
	32	遺構外	土器・鉢	—	(30.0)	—	轆轤成形/褐色/赤色斜子(～1mm)、赤色網(～0.5mm)多量/注№1D	—	近世	口縁部片
	33	遺構外	土器・短筒	—	—	—	轆轤空打成形。底部縮縮。口縁は内嵌する/にぶい褐色/脚石(～0.5mm)多量/外面灰付着/注№1D	—	18C後半	口縁部片

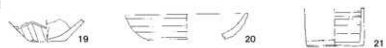
H58 号住居跡



H59 号住居跡



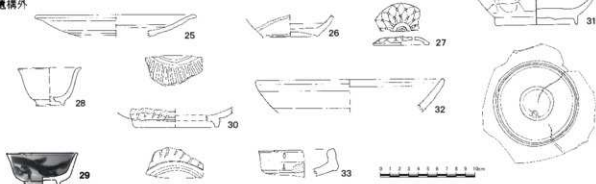
溝 1



溝 2



遺構外



第 37 図 川崎遺跡第 29 地点 H58・H59 号住居跡・溝・遺構外出土遺物 (1/1・1/4)

## VII 川崎遺跡第30地点

## (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年7月4日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は台地の北端に近い平坦面に立地し、隣接地では古代の住居跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年7月17日に行なった。調査区を重機により表土除去後、人力による表面精査を行ったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2008年7月18日から同年9月5日まで行なった。調査の結果、奈良・平安時代の住居跡4軒、溝5条、井戸3基、土坑、ピットを検出し、写真撮影・全測図作成・平板および遺り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① H 60号住居跡 (旧H 35号住居跡)

【位置】調査区の西側に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。住居跡の西側はブロック塀の下に入り南側も近世土坑で壊される。7.0m北側にH58号住居跡、4.3m南側にH61号住居跡、8.0m東側にH62号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-104°-E、東壁中央に竈を備える。平面形態は長方形を呈する。規模は主軸方位の東西が2.94m、南北2.32m、確認面からの深さ0.26mである。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られているが、奥壁から煙道部は掘られて壊される。右側の袖部に僅かに粘土が残る。袖からの奥行き1.41m、幅0.88m。竈内部の幅0.55m、深さ0.52m。

竈の手前に窪みがある。また、竈右手前の床は薄く粘土が広がり、硬化している。

【周溝】竈の右側の東壁を除き壁際に溝が巡る。幅15～22cm、深さ10cm。

【床・壁】竈手前部分の床面は硬化する。貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は周囲が深くなる。

【出土遺物】竈内とその手前部分から多量に出土した。

須恵器環・蓋・高台付碗、土師器甕・台付甕等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から9世紀前半と推定される。

## ② H 61号住居跡 (旧H 37号住居跡)

【位置】調査区の南側から26地点にかけて位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。住居跡中央をまたぐブロック塀の下は未調査である。2.6m東側にH53号住居跡、3m西側にH54号住居跡がある。

【形状】主軸方位はN-16°-E、北壁中央やや東寄りに竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸方位の南北4.15m、東西4.14m、確認面からの深さ0.21mである。覆土はローム粒を多量に含む黒褐色土。

【竈】燃焼部は壁外に張り出して掘られている。右側の袖部に粘土が残る。左壁の一部が焼けて赤化する。袖からの奥行き0.88m、幅1.40m。竈内部の幅0.95m、深さ0.29m。

燃焼部の中央に支脚が直立状態で出土した。

竈の手前に窪みがある。

【焼土】竈の左手前に100×58cmの楕円形範囲で床面が焼け、赤化している。

【周溝】竈のある北壁と南壁を除き壁際に浅い溝が巡る。幅15～32cm、深さ4cm。

【床・壁】竈手前の床面が硬化する。貼床の土層はローム主体、暗褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、北西部や竈手前に深い掘りこみがある。

【出土遺物】竈内とその手前に集中する。須恵器環・高台付碗・甕、土師器甕・台付甕等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から9世紀代と推定される。

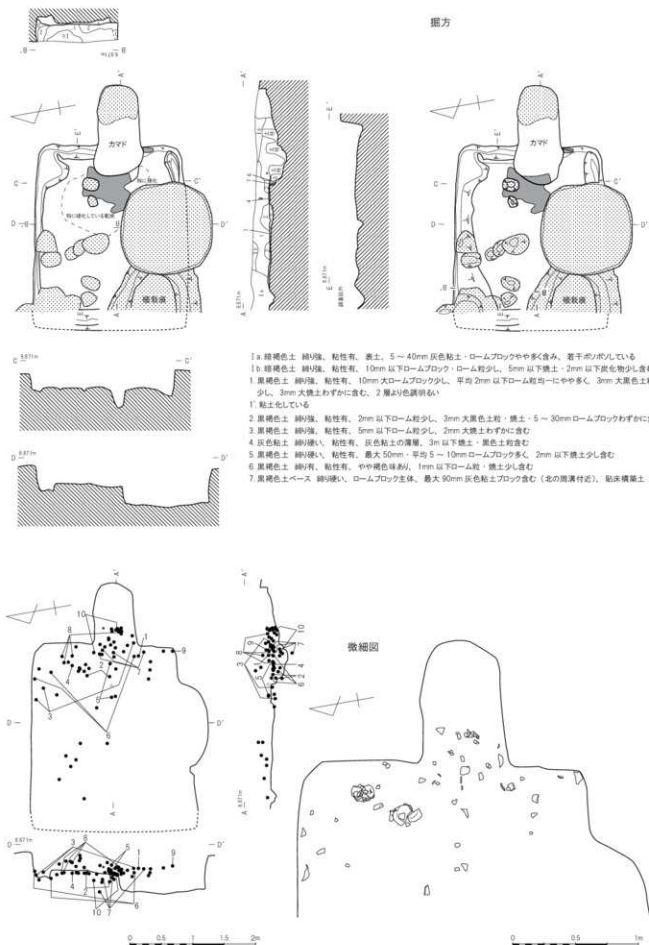
## ③ H 62号住居跡 (旧H 38号住居跡)

【位置】調査区の東側に位置し、遺跡全体の分布では中央部に位置する。溝3や井戸2によって壊されている。また、住居跡の東側は調査区域外で範囲の確認はできなかった。8.0m西側にH60号住居跡、3.5m南側にH53号住居跡がある。

【形状】西壁の方位はN-5°-Eである。平面形態は方形か長方形を呈する。規模は南北3.75m、東西1.05m以上、確認面からの深さ0.17mである。覆土はローム粒含む黒褐色土。

【周溝】北壁から西壁、南壁にかけて壁際に溝が巡る。幅18～25cm、深さ10cm。

【床・壁】床面の残りは攪乱のため良くない。貼床の土層はローム主体、黒褐色土が混じる。壁は垂直に立ち上がる。掘り方は、凹凸がある。



第38図 川崎遺跡第30地点 H60 号住居跡・掘方・遺物出土状況図 (1/60)、微細図 (1/30)

【出土遺物】遺物の出土は少ない。須恵器環、土師器甕等が出土した。

【時期】出土土器の特徴から9世紀前半と推定される。

#### ④井戸

いずれの井戸も完掘していない。井戸2は溝3・4より古い。井戸3の埋土を観察すると、東側からの流れ込みが多く、西側に礫・砂が集中して堆積している。

#### ⑤土坑

土坑1は調査区北東隅にある。周溝らしき窪みが廻るため、住居跡の可能性もある。

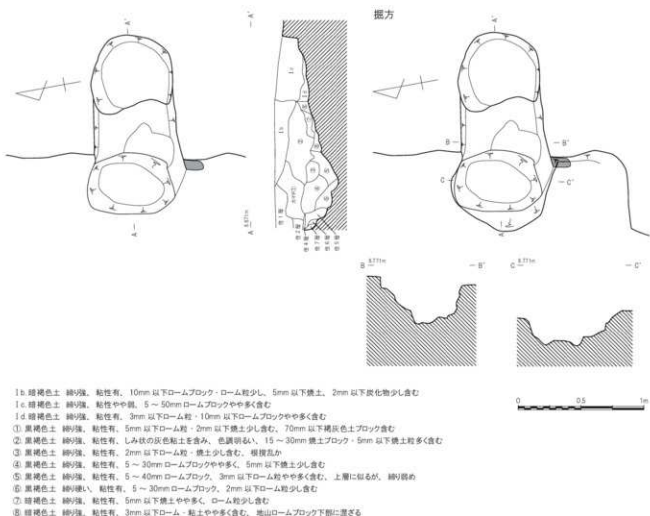
土坑2は縄文時代の土坑。壁は垂直で、足掛け穴らしき横穴もある。貯蔵穴の可能性もある。

土坑3は南壁の土層中で確認した。平面形は不明である。

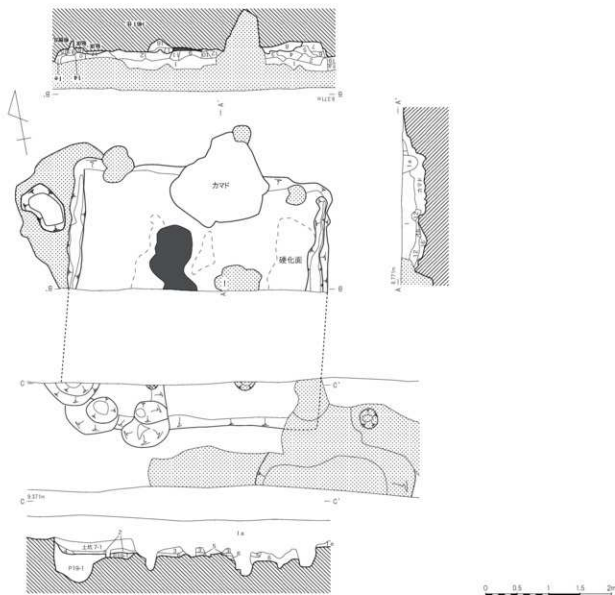
土坑4は掘乱の下から検出した。26地点の土坑4、6とあわせて掘立柱跡の可能性もある。

#### ⑥溝

溝1、4、5は南北方向、溝3は東西方向に配置する。溝3は井戸2より新しく、井戸3から東へ向かう。溝4は溝3と井戸2より新しく、井戸2から南へ向かう。



第39図 川崎遺跡第30地点H60号住居跡(1/30)



## A-A', B-B'

1a 1層より締り固、ピット状の掘込み。焼土ブロックやカマド3・5層と同様な5mm以下焼土粒多く含む。焼土を伴う1層土ブロック含む

1e 黒褐色土 西側の地山（新移層土）と同じ土をブロック状に含む。北の掘込みの層土

1o ベースはH61住1層土。締り強。5～10mm炭化物含む。北の掘込みの層土

2a 黒褐色土 灰色味有り硬いブロックを多く。2mm以下ローム粒少し含む

1 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒・焼土やや多く。5～10mm炭化物少し含む  
2・12層より色調明る。締り強い

1' 黒褐色土 1層より締り固。Pit状の掘込み。焼土ブロックやカマド3・5層と同じ様な5mm以下焼土粒を多く含む

2 黒褐色土 締り有。粘性有。1層より色調暗い。3mm以下ローム粒・5mm以下焼土やや多く含む（20mm大ロームブロックわず）

3 黒褐色土 締り有。粘性有。色調は2層に似るがローム粒少ない。5mm以下焼土少し含む

4 黒褐色土 締り有。粘性有。2層より灰色味強い。5mm以下焼土多く。炭化物少し含む

5 黒灰色土 締り有。粘性有。硬化している。5～20mmロームブロック。扁平な灰色粘土ブロック含む。掘込みで再層化した粘土床の土

6 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒・焼土少し含む

7 黒褐色土 締り固。粘性有。10mm大ロームブロック・3mm以下ローム粒少し含む

8 黒褐色土 締り有。粘性有。上面は硬化している。5～10mmロームブロックやや多く。5mm大粘土ブロック・2～10mm焼土少し含む

9 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒少し。5mm大炭化物・2mm大焼土少し含む

10 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下焼土やや多く含む

11 黒褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く。2mm以下焼土少し含む

12 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く。3mm以下焼土少し。炭化物やや多く。2mm以下焼土わずかに含む

13 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く。2mm以下焼土わずかに含む。周溝層土。ただし掘込みで締り固

14 暗褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く含む。周溝層土

15 黒褐色土 締り有。粘性有。灰色味あり。2mm以下ローム粒少し含む

16 暗褐色土 締り有。粘性有。硬化している。ローム混じりの黒褐色土で色調明るい。

20mm以下ロームブロック含むが。粒形不明瞭。粘土床の土

16' 黒褐色土ベース 締り強い粘土床の横断。最大60mmロームブロック多く含む。ベースの黒褐色土中に3mm以下ローム粒少し含む

17 暗褐色土 締り有。粘性有。硬化している。ローム土主体。黄灰色味あり。ロームブロックが混ざり固状を呈する

18 暗褐色土 締り有。粘性有。硬化している。ローム土主体。黄灰色味あり。ロームブロック多く含む

19 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒多く。1mm以下炭化物少し含む

## C-C'

1e 暗褐色土 締り有。粘性有。5～10mmロームブロックやや多く。3mm以下ローム粒少し。焼土わずかに含む。表土

1 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く。3mm以下焼土少し含む

2 暗褐色土 締り硬化。粘性有。2mm以下ローム粒多く。2mm以下焼土やや多く含む。3mm以下炭化物少し含む

3 暗褐色土 締り硬化。粘性有。2mm以下焼土多く。3mm以下ロームやや多く含む

4 暗褐色土 締り強。粘性有。3mm以下ローム粒やや多く含む

5 暗褐色土 締り強。粘性有。色調明るい。ローム土。5mm以下ローム粒多く含む

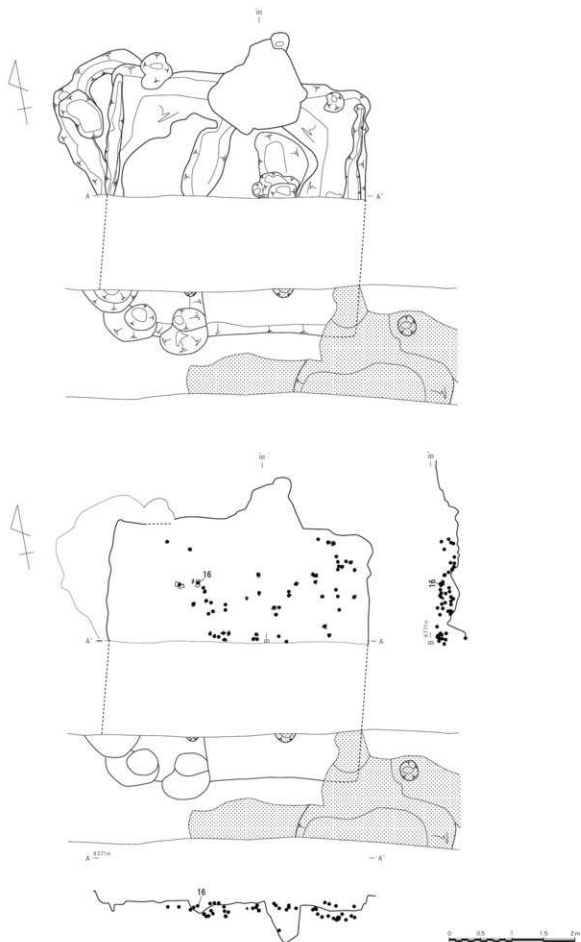
6 黒褐色土 締り強。粘性有。10mm以下ロームブロック・粒を多く含む。2mm以下焼土少し含む。若干ボロボロしている

## ピット 10

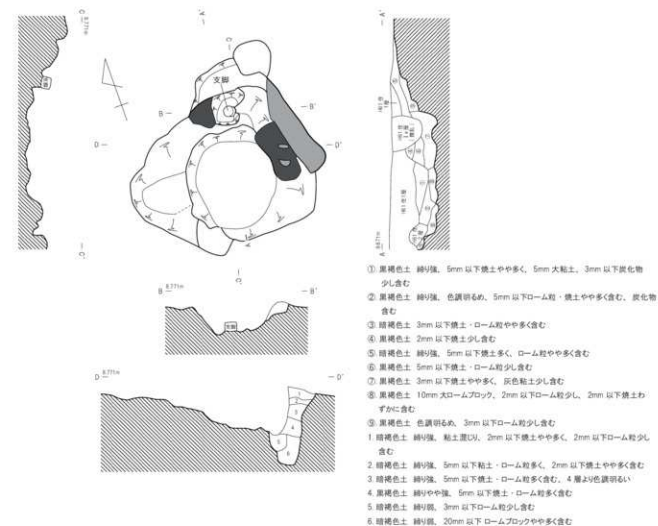
1 黒褐色土 締り強。粘性有。30mm以下ロームブロック。5mm以下ローム粒やや多く含む

第40図 川崎遺跡第30地点H61号住居跡(1/60)

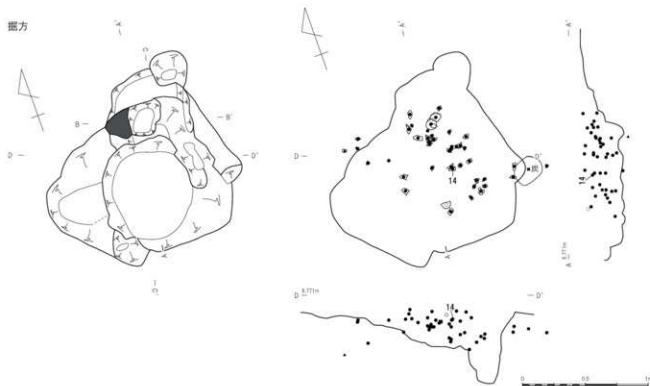
掘方



第41図 川崎遺跡第30地点H61号住居跡掘方・遺物出土状況図(1/60)



掘方



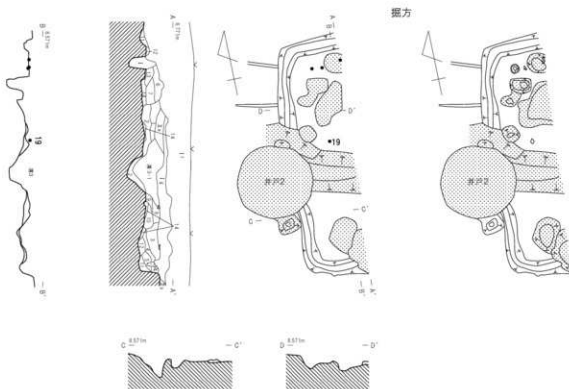
第42図 川崎遺跡第30地点 H61号住居跡竈 (1/30)



第18表 川崎遺跡第30地点遺構一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
井戸1	円形	128 × 120	88 × 87	(90)	未完掘。溝34より上
井戸2	円形	124 × 122	107 × 114	(110)	未完掘。溝34より上 H8より上新
井戸3	円形	218 × 245	157 × 164	(90)	未完掘。東側から ロームの流れ込み有
土坑1	(楕円形)	(142) × (43)	(135) × (40)	26	周溝有
土坑2	隅丸方形	131 × 117	76 × 70	122	型に模六有。縄文 時代
土坑3		130 × -	120 × -	28	南壁の土砂中に出土
土坑4	楕円形	18 × 53	56 × 31	63	崩壊下より検出

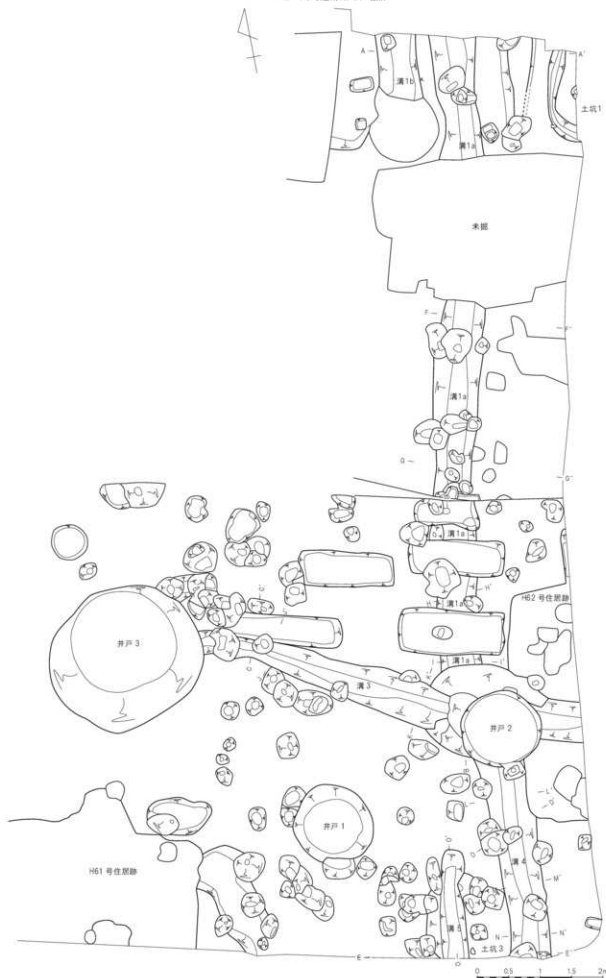
No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝3	東西6m以上の直線。断面「V」字形	55 ~ 65	13 ~ 25	20 ~ 36	東側低い。溝4より上。井戸2、溝1、H38住より新
溝4	南北3.2m以上の直線。断面緩やかな「V」字形	60 ~	24 ~	13 ~ 22	井戸2、溝3より新
溝5	南北5.2m以上の直線。断面「U」字形	53 ~	20 ~	40	H29号住居跡より新



- 黒褐色土 締り有。粘性有。焼土を多く含む。色調異なる
- 暗褐色土 締り有。粘性有。灰色味あり。2mm以下焼土粒多く含む。炭化物わずかに含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒 - 焼土少し含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒 - 焼土やや多く含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ローム粒やや多く。焼土多く含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く。焼土少し含む。下層(7)より灰色味強い
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く。焼土少し含む。6層よりローム粒僅小あり
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒多く含む。下層9-10より灰色味あり
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く含む。炭化物わずかに含む。若干灰色味あり
- 黒褐色土 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く含む。粒徑小。炭化物わずかに含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。3 ~ 5mmローム粒やや多く含む(周溝の覆土)
- 黒褐色土 ベース 締り有。粘性有。5 ~ 30mmロームブロックやや多く。2mm以下ローム粒多く含む(粘土の土)
- 黒褐色土 ベース 締り有。粘性有。硬化している。20mm以下ロームブロック多く含む。ベースの土は灰色粘土層の黒褐色土(粘土の土)
- 黒褐色土 締り有。粘性有。5 ~ 20mmロームブロック。3mm以下ローム粒やや多く含む
- 暗褐色土 締り有。粘性有。灰色味あり。10mm以下ロームブロック - 粒 - 粘土ブロック少し含む
- 暗褐色土 締り有。粘性有。灰色味あり。3mm以下ローム粒少し含む。粒 - 焼土わずかに含む
- 黒褐色土 締り有。粘性有。灰色味ある硬いブロック多く。2mm以下ローム粒少し含む

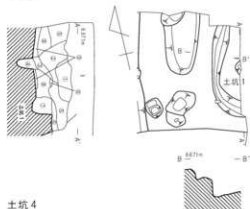
0 0.5 1 1.5 2m

第43図 川崎遺跡第30地点H62号住居跡・掘方(1/60)

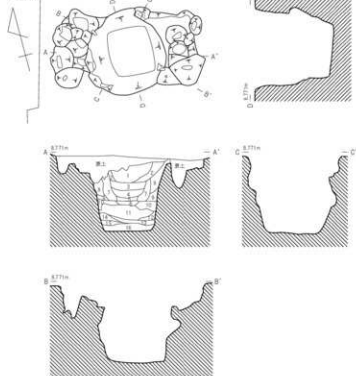


第44図 川崎遺跡第30地点溝・土坑・ピット (1/60)

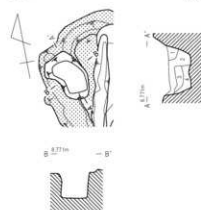
土坑1



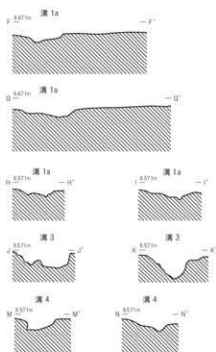
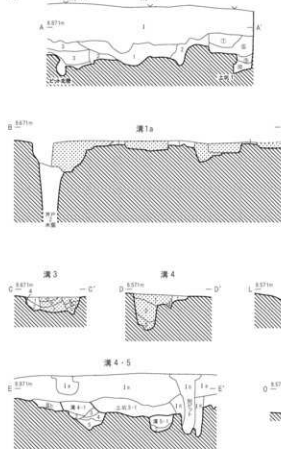
土坑2



土坑4



溝



第45図 川崎遺跡第30地点土坑 (1/60)

## 土坑 1

- ①黒褐色土 締り強、粘性有。2mm 以下ローム粒少し含む
- ②黒褐色土 締り強、粘性有。5mm 以下ローム粒やや多く、10 ～ 30mm ロームブロック、80mm 大塊少し含む
- ③黒褐色土 締り強、粘性有。2mm 以下ローム粒少し、40mm 厚ローム主層を中層に挟む
- ④黒褐色土 締り強、粘性有。10mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒少し（流より少）ソフトロームブロック含む
- ⑤黒褐色土 締り強、粘性有。2mm 以下ローム粒を均一にやや多く、5mm 大ロームブロック少し含む
- ⑥暗褐色土 締り強、粘性有。2mm 以下ローム粒をやや多く、黒色土粒少し含む
- ⑦暗褐色土ベース 締り強い、粘性有。最大 100mm、10 ～ 30mm ロームブロック多く含む、黒褐色土少し含む
- ⑧暗褐色土ベース 締り強い、粘性有。60mm 以下ロームブロック主層、ベースの土は黄灰色みがある
- ⑨暗褐色土 締り強い、粘性有。黒褐色土混じりで色調暗め。2mm 以下ローム粒少し（ムラがある）、5 ～ 10mm 以下黒色土少し、下部に 10 ～ 20mm ロームブロックやや多く含む

## 土坑 2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。縄文時代の土質、2mm 以下ローム粒少し、炭化物わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有。3mm 以下ローム粒やや多く、炭化物少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有。上層より 3mm 以下ローム粒多く、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有。5mm 以下ローム粒やや多く含む
5. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有。5 ～ 10mm ロームブロック主層
6. 黒褐色土 締り強、粘性有。ローム土、3mm 以下ローム粒多く含む、色調明るい
7. 暗褐色土 締り強、粘性有。3mm 以下ローム粒多く含む
8. 暗黄褐色土 締り強、粘性有。ローム土ベース、3mm 以下ローム粒多く含む
9. 黄褐色土 締り強、粘性有。ローム土ベース、20mm 以下ロームブロック主層。締り強い
10. 暗褐色土 締り強、粘性有。包含物少ない、15mm 以下ロームブロック少し含む
11. 黄褐色土 締り強、粘性有。ローム土主層。非常に締り強い、5mm 以下黒色土粒やや多く含む
12. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有。40mm 以下ロームブロック主層
13. 黒褐色土 締り強、粘性有。5mm 以下ローム粒含む
14. 黄褐色土 締り強、粘性有。ローム土ベース、15mm 以下ロームブロック多く含む
15. 黒褐色土 締り強、粘性有。しみ状のローム土やや多く含む
16. 暗褐色土 締り強、粘性有。ローム分多く含む。色調明るい、下部は黒色み強い

## 土坑 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有。3mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有。最大 70mm・平均 5 ～ 10mm ロームブロック、5mm 以下ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有。5 ～ 25mm ロームブロックやや多く、3mm 以下ローム粒少し含む。全体にローム分込み、色調明るい
4. 暗褐色土 締り有、粘性有。10 ～ 30mm ロームブロックを部分的に集中して含む。5mm 以下ローム粒少し含む

## ピット

1. 暗褐色土 締り強。5 ～ 10mm ロームブロックやや多く含む
2. 暗褐色土 締り強。5 ～ 10mm ロームブロック少し含む。1 層より色調暗く、締り弱め
3. 暗褐色土 粘性やや弱。5 ～ 20mm ロームブロック多く含む。2 層より色調明るい

## 溝 4

1. 黒褐色土 平均 1mm 以下ローム粒やや多く、3 ～ 10mm ロームブロック少し含む

## 溝 1a・1b

1. 暗褐色土 締り有、粘性有。5 ～ 10mm ロームブロック・粒均一に少し含む。色調暗め
2. 暗褐色土ベース 締り有、粘性やや弱。溝 1a に切られる、ピット状もしくは土坑状の掘り込み覆土。最大 80mm ロームブロック、5mm 以下ローム粒多く、ソフトローム土多く含む
3. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有。色調暗め。5mm 以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有。5 ～ 10mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒少し含む

## 溝 4・5

- I a. ローム土主層、30 ～ 60mm 硬含む。建物基礎
- I b. 黒褐色土 締り有、粘性有。5 ～ 10mm ロームブロック多く含む
- I c. 灰色粘土多く含む
- I k. 黒褐色土 締り強、粘性有。5 ～ 10mm ロームブロックやや多く、3mm 以下機土少し含む
- II b. 暗褐色土 締り強、粘性有。3mm 以下ローム粒少し含む。縄文時代の土

## 溝 4

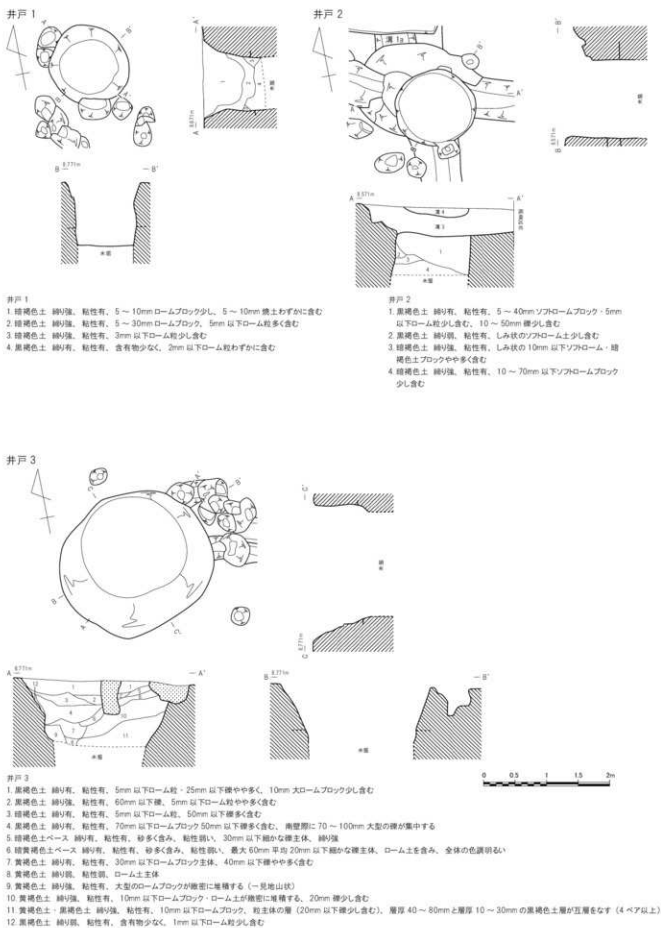
1. 黒褐色土 5 ～ 10mm ロームブロック、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 5mm 以下ローム粒やや多く含む。1 層より色調明るい
3. 暗褐色土 10 ～ 20mm ロームブロック多く含む
4. 黒褐色土 最大 50mm 平均 10mm 以下ロームブロック少し含む
5. 黒褐色土ベース 締り強、60mm 以下ロームブロック主層

## 溝 5

1. 黒褐色土 2mm 以下ローム粒少し、機土わずかに含む（土坑 3 に比べ色調黒み強い）
2. 黒褐色土 5 ～ 20mm ロームブロック少し含む。1 層より色調暗い

## 土坑 3

1. 黒褐色土 5mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下機土少し含む

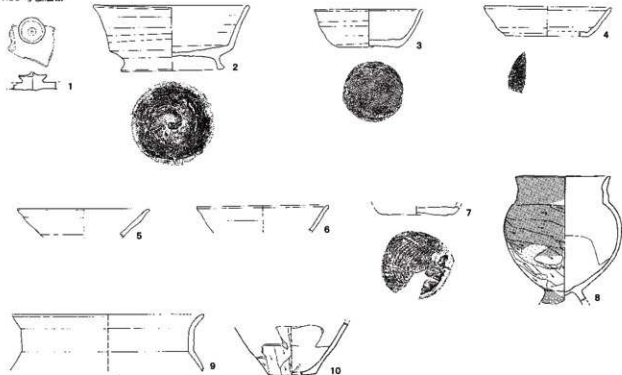


第46図 川崎遺跡第30地点井戸（1/60）

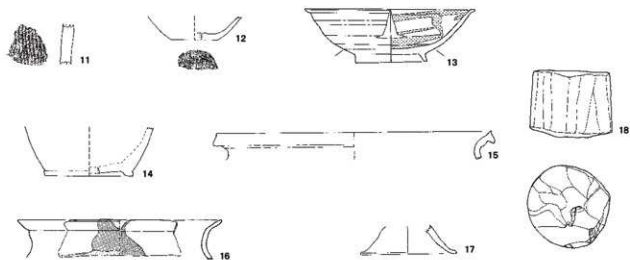
第19表 川崎遺跡第30地点出土遺物観察表 (単位:cm)

図版番号	図版番号	遺物名	種類・部類	口徑・長さ	底径・幅	高さ・厚	技法/文様/その他	石材/鑑定	推定年代・時期	現存/備考
19 図	1	H60号住居跡	須恵器・甕	—	つまみ径30	—	轆轤成形。天井部本切後、1周に渡り、つまみ取り付け/灰色/砂粒(〜1mm)少量含む。	南比企	8C後半	つまみ部分
	2	H60号住居跡	須恵器・甕	16.8	11.0	7.0	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り付後で調整。/灰黄色/砂粒(〜3mm)多量含む/注36、39(旧H35号住居)	南比企	8C後半〜9C前半	3/4以下残存
	3	H60号住居跡	須恵器・甕	11.5	6.6	4.0	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜3mm)少量含む、海面内針多量含む/注36、9、10、25(旧H35号住居)	南比企	9C前半〜中葉	完形
	4	H60号住居跡	須恵器・甕	(13.5)	(8.8)	3.1	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜5mm)少量含む、海面内針多量含む/注36、10(旧H35号住居)	南比企	9C	1/4以下残存
	5	H60号住居跡	須恵器・甕	(14.0)	—	—	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜5mm)少量含む、海面内針多量含む/注36、29、B区(旧H35号住居)	南比企	9C	口縁部片
	6	H60号住居跡	須恵器・甕	(14.0)	—	—	轆轤成形/灰黄色/砂粒(〜5mm)少量、海面内針多量含む/注36、11、12、24、C区(旧H35号住居)	南比企	9C	口縁部片
	7	H60号住居跡	須恵器・甕	—	7.6	—	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜1mm)少量含む/注36、22、31、60、65、カマド一括(旧H35号住居)	南比企	9C	底部片
	8	H60号住居跡	土師器・付付器	10.2	—	—	粘土組織上、器部横腹で、胴部外面針付のへう割り。胴部内面縦方向の溝で/色/砂粒(〜1mm)多量、海面内針多量含む/注36、51、55、56	南比企	9C	口縁部・胴部
	9	H60号住居跡	土師器・甕	(22.0)	—	—	粘土組織上、口縁部横腹で、胴部外面針付のへう割り。胴部内面縦方向の溝で/色/砂粒(〜1mm)多量、海面内針多量含む/注36、20(旧H35号住居)	南比企	9C	口縁部片
	10	H60号住居跡	土師器・甕	—	(5.0)	—	粘土組織上、外面縦方向のへう割り。内面縦方向の溝で/色/砂粒(〜1mm)多量/外面皮付着/注36、42、63(旧H35号住居)	南比企	9C	底部片
	11	H61号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	条紋文/注36、H3(旧H37号住居)	縄文早期	胴部片	
	12	H61号住居跡	須恵器・甕	—	(5.0)	—	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜3mm)少量含む/注36、B区カマド4(旧H37号住居)	南比企	9C	底部片
	13	H61号住居跡	須恵器・甕	(17.8)	7.5	5.7	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り付後で調整/内面5mm5mm内針を右腕部に付着/内面縦方向の溝で/灰黄色/砂粒(〜3mm)多量含む/注36、H3、B区カマド(旧H37号住居)	9C中葉〜9C末	1/2以下残存/底面片	
	14	H61号住居跡	須恵器・甕	—	7.5	5.7	轆轤成形/灰黄色/砂粒(〜3mm)多量含む/注36、カマド11、B区カマド(旧H37号住居)	8C〜9C	1/2以下残存	
	15	H61号住居跡	須恵器・甕	(29.0)	—	—	轆轤成形。口縁部より遊される/灰黄色/砂粒(〜1mm)少量含む/注36、H5(旧H37号住居)	南比企	8C〜9C	口縁部片
	16	H61号住居跡	土師器・甕	(21.5)	—	—	粘土組織上、口縁部横腹で/色/砂粒(〜1mm)多量、海面内針多量含む/注36、H1(旧H37号住居)	南比企	9C	口縁部片
	17	H61号住居跡	土師器・付付器	—	(10.1)	—	粘土組織上、内外面横腹で/灰黄色/砂粒(〜1mm)多量含む/注36、H3(旧H37号住居)	南比企	9C	底部片
	18	H61号住居跡	土師器・甕	—	(8.8)	—	断面縦方向のへう割り。底面がへう割り/色/注36、カマド3(旧H37号住居)	奈良・平安	上部欠損	
	19	H62号住居跡	須恵器・甕	12.3	6.3	3.8	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜5mm)多量含む/見込みに「用」の意書有。/注36、4(旧H38号住居)	南比企	9C前半	完形
20 図	20	土坑1	須恵器・甕	(12.1)	—	—	轆轤成形/灰黄色/砂粒(〜3mm)少量、海面内針多量含む/注36、11	南比企	9C	口縁部片
	21	土坑1	土師器・付付器	—	—	—	粘土組織上、内外面横腹で/色/砂粒(〜1mm)多量、海面内針多量含む/注36、5	南比企	9C	胴部片
	22	土坑1	土師器・甕	(29.0)	—	—	粘土組織上、口縁部横腹で、胴部外面縦方向のへう割り。胴部内面縦方向の溝で/色/砂粒(〜1mm)多量、海面内針多量含む/注36、9、10	南比企	9C	口縁部片
	23	土坑1	須恵器・甕	(31.2)	—	—	轆轤調整。口縁部より遊される/灰黄色/砂粒(〜3mm)少量含む/注36、1、2、H9	南比企	8C〜9C	口縁部片
	24	土坑3	陶器・鉄鉢	(11.8)	(7.2)	2.7	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り付後で調整。見込みに重む取有。口縁は外反し、胴部が立ち上がる/口縁内面に灰粒。見込みに鉄粒/灰黄色/内面に重む。タール付着/注36、3D	瀬戸・美濃	17C後半〜18C前半	1/4以下残存
	25	土坑3	陶器・土野皿	(12.0)	(7.0)	2.1	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り出し/高台の一部を除き、長軸/灰白色/注36、3D	瀬戸・美濃	17C後半	1/2以下残存
	26	土坑3	土師器・天目茶碗	—	(4.4)	—	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り出し/高台を除き、鉄鉢/灰色/注36、3D	瀬戸・美濃	17C	底部片
	27	溝1	土師器・甕	—	(11.2)	—	粘土組織上、内外面横腹で/色/砂粒(〜1mm)多量含む、内面皮付着/注36、3M	瀬戸・美濃	9C	底部片
	28	溝3	須恵器・甕	—	(7.0)	—	轆轤成形。右腕部転車切後調整/灰黄色/砂粒(〜1mm)少量含む/注36、2M、B区	南比企	8C後半〜9C前半	底部片
	29	溝3	須恵器・甕	—	(3.6)	—	轆轤成形/染付。外面丸に梅文。見込みに二重線彫と五弁花(クワ)注36、3M	肥前	1600〜1780年代	底部片
	30	溝3	須恵器・甕	(30.0)	—	—	轆轤調整。口縁部より遊される/口縁部外面4本の磨耗工具による痕あり。外面に自然釉/灰白色/砂粒(〜5mm)多量含む/注36、5M、B区	南比企	8C〜9C	口縁部片
	31	遺構外	陶器・土野皿	(8.4)	—	—	轆轤成形/灰粒。口縁部に鉄粒の流し掛け。貫入有/注36、H5-6	京都・信楽	1780〜1890年代	1/2以下残存
	32	遺構外	陶器・輪切茶碗	(11.5)	(4.2)	4.4	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り出し。口縁は外反する/口縁外面から内面に灰粒。輪切されたい/浅黄色/注36、H3	瀬戸・美濃	17C後半	1/4以下残存
	33	遺構外	陶器・天目茶碗	—	(4.3)	—	轆轤成形。底面が転車切後、高台取り出し/高台を除き、鉄鉢/灰黄色/注36、H3	瀬戸・美濃	17C	底部片
	34	遺構外	須恵器・甕	—	(4.0)	—	轆轤成形/いりゆるくくらんかんす。発付は無駄/注36、H11	肥前	1600〜1800年代	底部片
	35	遺構外	須恵器・甕	—	(3.0)	—	轆轤成形/高台付き灰粒/浅黄色/注36、H10	京都・信楽	1780〜1890年代	底部片
	36	遺構外	須恵器・甕	—	—	—	粘土組織上。轆轤調整/胴部に耳がかり。二耳部がやや厚い/灰色/注36、H12	瀬戸・美濃	中世	胴部片
	37	遺構外	須恵器・甕	—	—	—	粘土組織上。轆轤調整。方口部分を除き、注口を底面付着/底面皮付着を除き、内外面横腹で/明灰黄色/注36、H3	瀬戸・美濃	18C後半〜19C前半	1/4以下残存
	38	遺構外	右腕・土師器・土野皿	2.40	1.32	1.02	重量 2.54g/注36、H8	瀬戸・美濃	9C	底部片
	39	遺構外	右腕・土師器・土野皿	9.10	5.30	2.25	重量 116.2g。内面縦行技法/注36、H5	瀬戸・美濃	9C	底部片
	40	遺構外	瓦・灰土野皿	7.9	3.0	1.2	平瓦を転用。瓦の表面を模し、残り3部を底面として利用/注36、H5	瀬戸・美濃	9C	底部片
	41	遺構外	瓦・灰土野皿	2.50	0.74	0.17	重量 3.73g 跡遺/注36、H5	瀬戸・美濃	9C	底部片
	42	遺構外	右腕・土師器・土野皿	10.8	7.3	2.9	重量 368.57g/注36、H3	瀬戸・美濃	9C	底部片

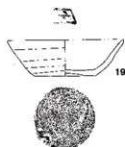
## H60 号住居跡



## H61 号住居跡

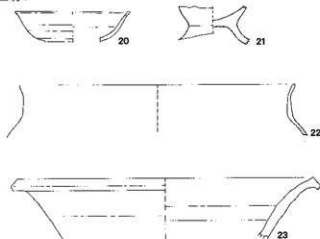


## H62 号住居跡

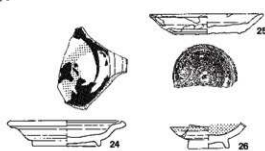


第47図 川崎遺跡第30地点 H60・H61・H62号住居跡出土遺物 (1/4)

土坑1



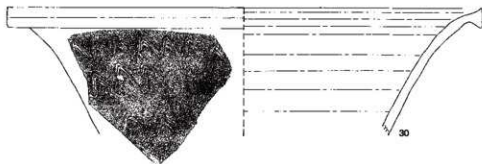
土坑3



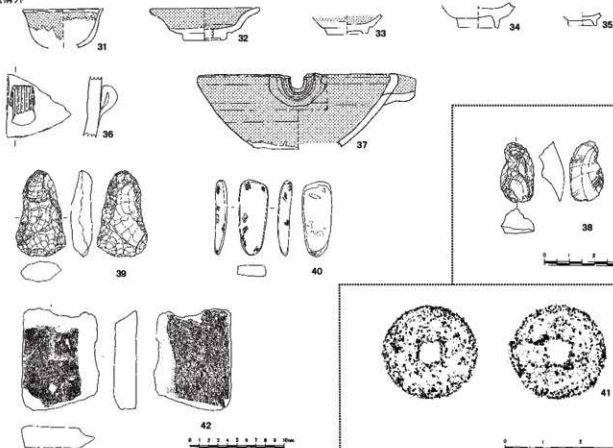
溝3



溝5



遺構外



第48図 川崎遺跡第30地点土坑・溝・遺構外出土遺物 (1/4・2/3・1/1)



## 第3章 ハケ遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎川の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が北から入る。標高は14～16mを測る。遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

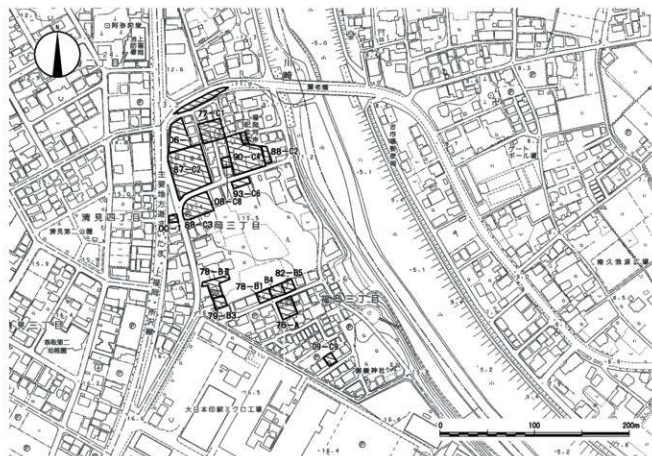
1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、以来13ヶ所で調査が行なわれている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）である。なお、本遺跡は便宜上東西に走る道路によって3区分され、南側からA区、B区、C区と呼称されている。

### II ハケ遺跡C区第8地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅の建替えに伴うもので、原因者より2009年1月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北端の台地上に立地し、南側と東側の隣接地で住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年3月17日に行なった。幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった。調査の結果、調査区全面でコンクリート片等の建築資材やローム土で盛土されていたが、さらに地山を確認するため掘り進めた結果、住居跡らしき遺構覆土を検出したので、一部掘り下げたところ、縄文時代中期の遺構跡1、奈良・平安時代の溝等を確認した。70～150cm厚の盛土があり、建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第49図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 20 表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1 次	大字中福岡字遠見 1228-2021	1976.9.11 ~ 16	306	個人住宅建設	古墳住居跡 1、祭穴遺構 3、縄文土器	上福岡市遺跡調査報告書
C-1 次	大字中福岡字清見 1480 番地	1977.8.2 ~ 27	1,794	宅地造成	縄文住居跡 5、奈良平安住居跡 2、祭穴遺構、土坑、歩跡	ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡 C 地区
B-1 次	中福岡 1228-40	1978.8.28 ~ 9.10	165	個人住宅建設	遺構無し、縄文中期土器片	縄文文化財の調査 (Ⅰ)
B-2 次	中福岡 1181-2	1978.9.11 ~ 25	360	倉庫建設	土坑 4、中略 1、土器	縄文文化財の調査 (Ⅰ)
B-3 次	中福岡 1228-37	1979.7.20 ~ 31	166		土坑 3、縄文土器	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
B-5 次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10 ~ 17	165		溝 1、縄文中期土器	縄文文化財の調査 (Ⅴ)
C-2 次	福岡 3-2008 の 1.2	1987.4.16 ~ 5.29	1,900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡 11、奈良平安住居跡 4、掘立 1	縄文文化財の調査 (Ⅹ)
C-3 次	福岡 2-2-1	1988.8.15 ~ 20	627	駐車場設置	縄文中期住居跡 4、平安住居跡 2	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
C-3 次	福岡 3-4-2	1988.10.24 ~ 28	60	築造改修工事	縄文中期住居跡 1	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
C-4 次	旧田原屋敷地内	1990.6.20 ~ 9.6	500	河原記念館	旧福岡国柱礎石、跡の屋敷跡、(礎石・火竈 3・物置跡・粘土製 りつけ円形小竈穴)・江戸前期~中奈良方形土坑 12・溝 1・平安住 居跡 3・縄文中期住居跡 2、縄文後・晩期住居跡 3	2 年度教育情報 市史資料編
C-6 次	福岡 3-1189.2056-2	1993.5.6 ~ 18	141	個人住宅建設	縄文中期土坑 6	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
C-4 次	福岡 3-2069-1 の一部	1994.6.10 ~ 1.31	54	河原記念館管理 棟・組合造成工事	縄文中期住居跡 5、土坑 30	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
C-7 次	福岡 3-1184-8	2000.1.26	100	個人住宅建設	なし	縄文文化財の調査 (Ⅱ)
C-7 次	福岡 3-2	(2006.7.10 ~ 22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内遺跡部 3
C-8 次	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅建設	住居跡確認	市内遺跡部 6
C-9 次	福岡 3-1257.7.1259-1	(2010.2.2 ~ 4)	120	個人住宅建設	土坑 1、風船木 1	本報告

第 21 表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( ) は推定	規模	敷 地		掘 溝	土 坑	主軸 方位	時期	備考	文献
						東	西						
1	1977	C 地区 1 号住	1/4	(円形)	600 ×						加賀利 E II		ハケ遺跡 C 地区
2	"	C 地区 4 号住	完掘	楕円形	660	○					加賀利 E I		"
3	"	C 地区 5 号住	完掘	(方形)	800 × 500	○					溝		"
4	"	C 地区 6 号住	(完掘)								加賀利 E II	7 住と重複	"
5	"	C 地区 7 号住									加賀利 E II		"
6	1987	C 地区 2 号 1 号住	1/3								加賀利 E I		縄文文化財の調査 X
7	"	C 地区 2 号 2 号住	西 1/2	楕円台形							加賀利 E II	溝矢文出土品	"
8	"	C 地区 2 号 3 号住	完掘	楕円形	720 × 600						加賀利 E II	溝矢文、資料系多い	"
9	"	C 地区 2 号 4 号住	北 1/2								加賀利 E II		"
10	"	C 地区 2 号 5 号住	ほぼ完掘	円形	620	○					加賀利 E II		"
11	"	C 地区 2 号 7 号住	完掘	円形	700						加賀利 E II		"
12	"	C 地区 2 号 8 号住	完掘	円形							加賀利 E I	2 軒の住居の重複	"
13	"	C 地区 2 号 9 号住	完掘	方形	720 ×						加賀利 E II	10 住と重複	"
14	"	C 地区 2 号 11 号住	完掘	円形	450 × 400	○					加賀利 E II		"
15	"	C 地区 2 号 14 号住	完掘	円形	660 × 660						加賀利 E II	3 度建替	"
16	"	C 地区 2 号 16 号住	完掘	楕円台形	670 × 650	○					加賀利 E II		"
17	1988	C 地区 3 号 18 号住	完掘	円形	650						加賀利 E II	17 住と重複	"
18	"	C 地区 3 号 19 号住	西 2/3	円形	800 × 500						加賀利 E II	2 軒の住居の重複	"
19	"	C 地区 3 号 21 号住	完掘	円形	460 ~ 480						加賀利 E I	遺石製巻物	"
20	"	C 地区 3 号 22 号住	西 4/5	不整円形	700						加賀利 E II		"
21	1990	C 地区 4 号 23 号住	1/4	(方形)							加賀利 E II	安行 1	市史資料編
22	"	C 地区 4 号 24 号住	西側未調査	楕円形							加賀利 E II	庭園から土器	市史資料編
23	"	C 地区 4 号 25 号住	南東隅 1/4	(円形)	500						加賀利 E II		"
24	"	C 地区 4 号 26 号住	北東隅 1/4	(楕円形)	600						加賀利 E II		"
25	"	C 地区 4 号 28 号住									加賀利 E II	土器片多数出土のため住居とした	"
26	"	C 地区 4 号 29 号住									加賀利 E II		"
27	"	C 地区 4 号 30 号住									加賀利 E II	名称不詳・堀之内 土器片多数出土のため住居とした	"
28	"	C 地区 4 号 31 号住									堀之内		"
29	"	C 地区 4 号 34 号住	一部	楕円形	560						加賀利 E I		"
30	"	C 地区 4 号 35 号住	一部	(円形)	880 × 700	○					加賀利 E II		"

第 22 表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( ) は 推定	規模	カマド 位置		掘 溝	主軸 方位	時期	備考	文献
						カマド 下	設置 壁					
1	1976	A 地区 1301	1/2	楕円方形	440 ×	K	北	○		縄文		上福岡市遺跡調査報告書
2	"	C 地区 3 号住	完掘	長方形	470 × 480	K	北	○		8C 3 西平期		"
3	"	C 地区 8 号住	完掘	長方形	560 × 388 × 44	K	北	○		8C 4 西平期		"
4	"	C 地区 2 号 6 号住	完掘	方形	300 × 280	K	北	○		国分		"
5	"	C 地区 2 号 10 号住	完掘	長方形	450 × 300	K	北	○		8C 末		"
6	"	C 地区 2 号 12 号住	完掘	長方形	400 × 340	K	南東	○		9C 後半		"
7	"	C 地区 2 号 15 号住	南東 1/4							9C 後半		"
8	"	C 地区 2 号 17 号住	南行 4 間 × 築造土器		870 × 470					8C 中葉		"
9	1988	C 地区 3 号 17 号住	完掘	長方形	350 × 290	K	北東	○		10C 初期		縄文文化財の調査 (Ⅱ) と市史資料編
10	"	C 地区 3 号 20 号住	南東 1/6							8C 3 西平期		"
11	1990	C 地区 4 号 27 号住	完掘	方形	400 × 380	北東	○			10C 初期		"
12	"	C 地区 4 号 32 号住								10C 初期	カマドの輪郭が確認されたため 住居とした	"
13	"	C 地区 4 号 33 号住	ほぼ完掘	方形	320 × 340					8C 3 西平期	カタイ余炭出土	"



## (2) 遺構と遺物

【住居跡】調査区北東部に位置する。元の表土は削平されたうえ、盛土されており、覆土も削平を受ける。現地表面下120cmで検出した。東西北方向へ覆土範囲は延長しており、南側も溝状遺構で削平される。トレンチ内では70×150cmの範囲に覆土を確認した。

縄文時代中期の土器片を検出しており、覆土の様相

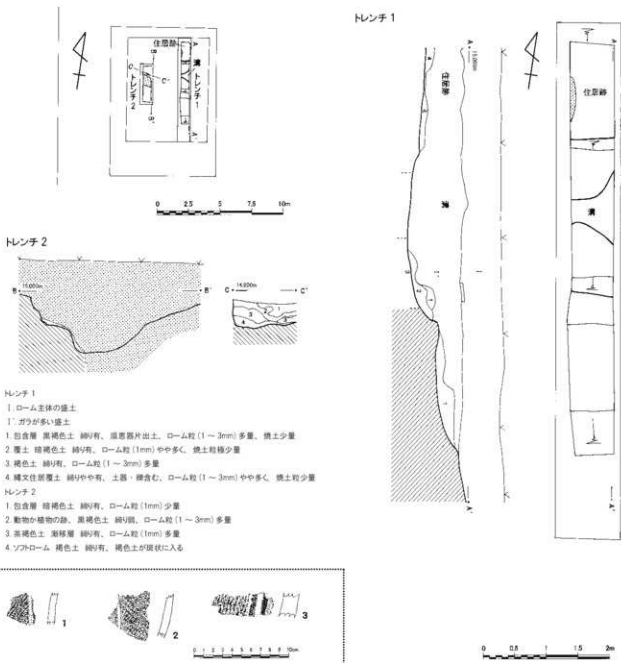
も縄文時代を示す。遺構プラン等は不明である。

【溝状遺構】調査区東部に位置する。元の表土は削平されたうえ、盛土されており、覆土も削平を受ける。現地表面下105cmで検出した。南側では立ち上がりをもつ。

奈良・平安時代の土器片を検出しており、覆土の様相も同時期を示す。遺構プラン等は不明である。

第23表 ハケ遺跡C区第8地点出土遺物観察表 (単位:cm)

図版 番号	図版 番号	遺構名	種類・器種	口径・長さ	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	石材/ 推定生産地	推定年代・ 時期	残存/備考
51 図	1	住居跡	縄文土器/鉢	—	—	—	RLR 縄文を縦位に施文後、沈線/砂粒含む/注No1トレンチ		縄文中期・ 加勢利土	胴部破片
	2	住居跡	縄文土器/鉢	—	—	—	RL 縄文を縦位に施文後、沈線部を磨消す/砂粒含む/注No1トレンチ		縄文中期・ 加勢利土	胴部破片
	3	住居跡	縄文土器/鉢	—	—	—	RLR 縄文を縦位に施文後、2本組線部を磨け付け/砂粒多量含む/注No1トレンチ		縄文中期・ 加勢利土	胴部破片



第51図 ハケ遺跡C区第8地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/60)、出土遺物(1/4)

## 第4章 権現山遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎市の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は16～18 mを測る。遺跡の範囲は南北300 m、東西300 m以上ある。

周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝道跡がある。

権現山遺跡は大正6年に安部立郎氏により「権現山」という円形古墳（安部1917）として紹介された。その後、1937年（昭和12年）に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに3群6基の古墳が記述されている。（山内1937）戦後は『埼玉縣史』（1951）、『古墳調査報告書—人間地区—』（1961）等に古墳の記載がある。しかし、1965年に行なわれた通称「厄病塚」（権現山北古墳群2 M・3 M）の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」（権現山古墳群2 M）は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963年に市指定文化財（上福岡市）に指定された。資料上の初見は元禄12（1699）年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現 社地」の記載があり、塚の上には天保11（1840）年2月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

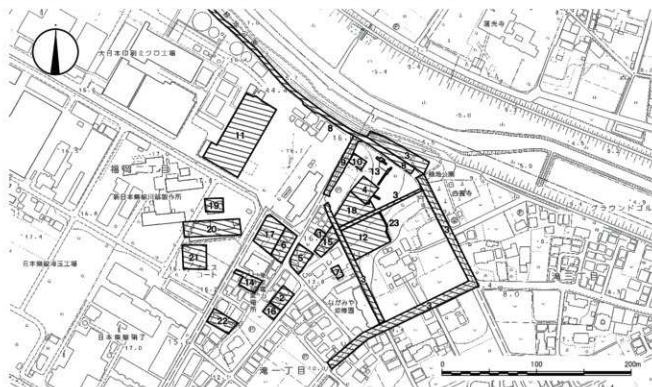
その後1982年～1993年までの6次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群（11基）が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002年3月22日県指定文化財に指定された。

1982年以来23ヶ所で調査が行なわれている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝道跡の第3・5・9・10次調査および、1995年と2002年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡1、2、5～7、14、17地点へ変更した。

### 文献

安部立郎 1917 川越町付近に於ける石器時代の遺跡分布 『人類学雑誌』32巻2号

山内清男 1937 「福岡横内石器時代遺跡発掘調査報告 付 関野克 住居址略報告」



第52図 権現山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第24表 権現山遺跡調査一覧表

地点番号	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	収録報告書
1	遺1-4-15	1980.6.27～7.3	76	個人住宅	古墳住居跡1、竈(Ⅱ遺3次)	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)
2	遺1-3-21	1980.7.20～7.31	330		遺構無し、中世以降陶器片(Ⅱ遺5次)	埋蔵文化財の調査(Ⅲ)
3	遺3-4-7	1982.1.20～2.6	50	自転車置場設置(公共事業)	古墳方形周溝墓、直形土器、縄文中期住居跡1、縄文土器多数	56年度教育要覧
	遺1-5-4	1982.12.8～28	200	範囲確認調査	古墳方形周溝墓6、古墳住居跡1	埋蔵文化財の調査(V)/上福岡市史資料編1
4	遺1-5-4	1983.5.18～6.28	100	範囲確認調査	古墳住居跡1、方形周溝墓1	埋蔵文化財の調査(VI)
5	遺1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	溝2(Ⅱ遺9次)	埋蔵文化財の調査(VII)/上福岡市史資料編1
6	遺1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	古墳住居跡1、溝4、土坑3(Ⅱ遺10次)	埋蔵文化財の調査(VIII)/上福岡市史資料編1
7	遺1-4-2	1984.6.28～30	33	物置建設	集石2、土坑2(Ⅱ遺11次)	埋蔵文化財の調査(VII)/上福岡市史資料編1
8	大字福岡1500	1985.1.20～2.25		市道舗装工事	方形周溝墓2、古墳3、須恵器・甕形土器	59年度教育要覧/上福岡市史資料編1
9	遺1-4-8	1985.8.9～9.9	430	範囲確認調査	古墳住居跡2、平安住居跡2	埋蔵文化財の調査(VII)
10	遺1-9-10	1986.2.10～22	202	範囲確認調査	第2周溝墓の前方部の調査	埋蔵文化財の調査(VII)
11	福岡3-1187-4	1988.6.7～6.14	3,200	工増増築	古墳1、奈良・平安住居跡4	
12	遺1-6-7	1989.2.20～3.6	2,000	農地改善工事	古墳住居跡3、方形周溝4、古墳溝跡1、中世大溝跡1、時期不明溝跡1	埋蔵文化財の調査(III)/上福岡市史資料編1
13	遺1-6-1	1989.5.8～	1,724	農地改善工事	方形周溝4	H1年度教育要覧
14	遺1-5-4	1993.7～8		範囲確認調査	2号墳、11号墳のトレンチ調査	上福岡市史資料編1
15	遺1-3-13	1995.11.27～30	462	共同住宅	遺構・遺物無し(Ⅱ遺試掘)	埋蔵文化財の調査(Ⅷ)
16	遺1-4-3	1996.4.15～5.7	396	個人住宅	古墳住居跡1、溝1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(Ⅸ)
17	遺1-3-49	2002.5.29～30	165	個人住宅	遺構・遺物無し(Ⅱ遺試掘)	埋蔵文化財の調査(Ⅸ)
18	遺1-3-16	2004.5.17～27	856	範囲確認調査	奈良製六住居跡2(16、17号)【調査済み】	埋蔵文化財の調査(Ⅸ)
19	遺1-5-4	2006.4.25～27		古墳保存整備工事		
20	字福岡2-1500-23(工場内)			工増増築		
21	字福岡2-1500-23(工場内)			工増増築		
22	字福岡2-1500-23(工場内)			工増増築		
23	遺1-3-58～60			住宅建設		
24	遺1-6-7	2008.10.23～29	1,576	古墳保存整備工事	遺構・遺物無し	

## Ⅱ 権現山遺跡第23地点

## (1) 調査の概要

調査は古墳整備事業に伴うもので、ふじみ野市長より2008年10月1日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は古墳群の中にあるため、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年10月23日から同月29日まで行なった。幅約0.5mのトレンチ1本を設定し、人力で表土除去後、表面精査を行なった。調査の結果、遺構覆土を検出したので、一部掘り下げたところ、中世以降の土坑3基、集石1基を確認した。調査地は南向きの斜面地で、南側の低地へ向かうにつれ、地山の傾斜が強くなり、南側トレンチでは地山を確認していない。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。なお、旧石器時代の確認

調査はしていない。

## (2) 遺構と遺物

【土坑1】トレンチ北側で端部を検出。覆土は軟質な茶褐色土。

【土坑2】トレンチやや北寄りに一部を検出。覆土は軟質な黒褐色土。

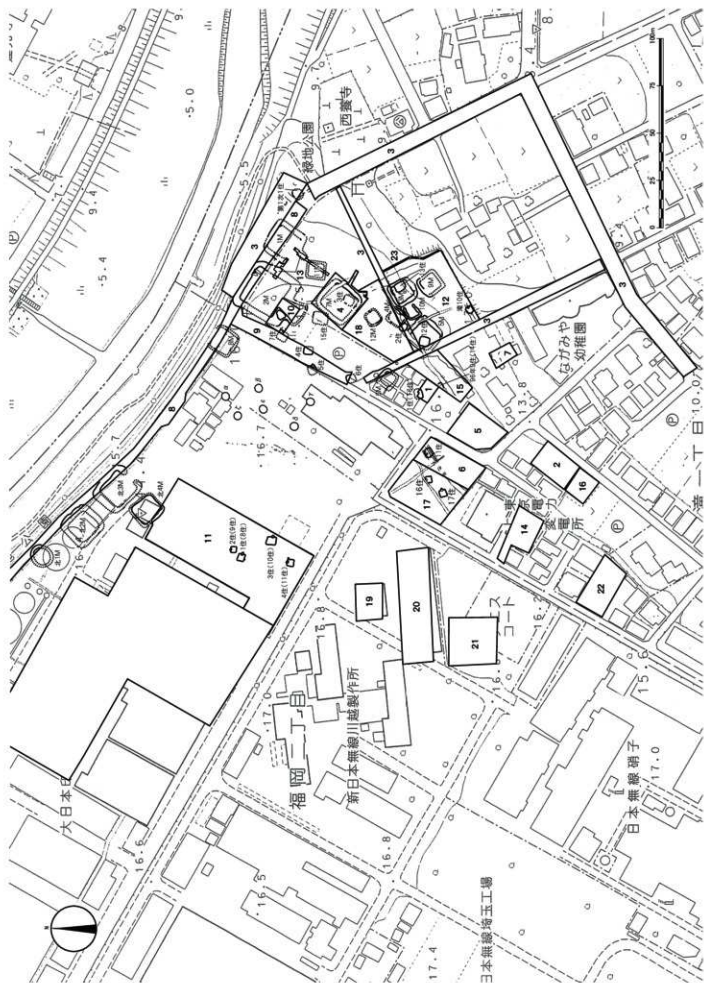
【土坑3】トレンチ中央に検出。覆土は軟質な黒褐色土。

【集石】トレンチ中央で検出、径1～5cmの礫が隙間なく埋る。中世以降。

第25表 権現山遺跡第23地点遺構一覧表 (単位:cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	(95) × (20)				東側へ伸びる、底は未掘
土坑2	(95) × (40)	(75) ×	58		東西側へ伸びる
土坑3	(268) × (40)				東西側へ伸びる、集石より古
集石	(90) × (40)				土坑3より新

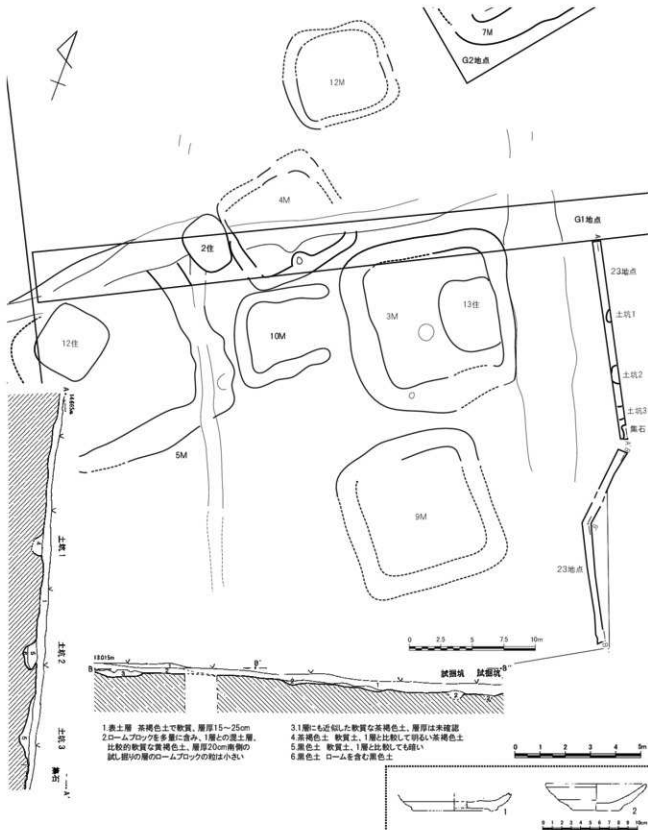




第53図 権現山道跡遺構分布図 (1/2,000)

第26表 権現山遺跡第23地点出土遺物観察表 (単位cm)

図記番号	記載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法・文様・その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
54 図	1	北側トレンチ	須恵器・碗	—	(9.0)	—	輪轆成形。底部の転糸切後高台附付け / 黄灰色 / 砂粒 (~1mm) 少量 / 注記北側トレンチ2		9C	底部
	2	北側トレンチ	土器・ガラク	(10.8)	(5.0)	2.8	輪轆成形。底部の転糸切後未調整 / 赤い黄褐色 / 砂粒 (~0.5mm)、赤色粒子 (~0.5mm) 少量 / 注記北側トレンチ1		16C	1/4以下残存



第54図 権現山遺跡第23地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)



## 第5章 亀居遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高25～26mで現谷底との比高差は5mを測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南道の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

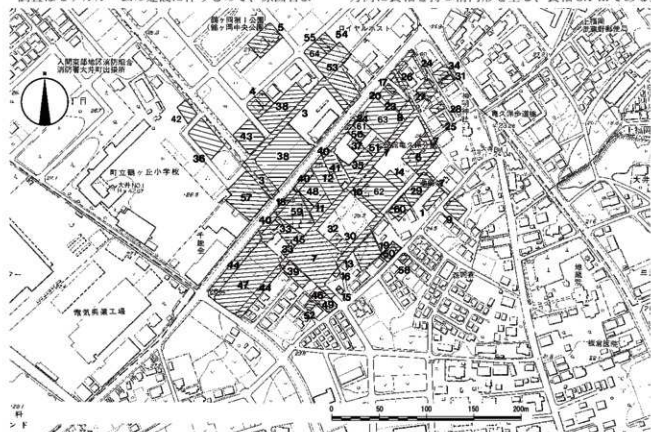
1977年の最初の調査から2010年3月現在まで64地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡16軒、屋外埋蔵2基、集石土坑99基、土坑、ピット多数が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

### II 亀居遺跡第63地点

#### (1) 調査の概要

調査はモデルルームの建設に伴うもので、原因者よ



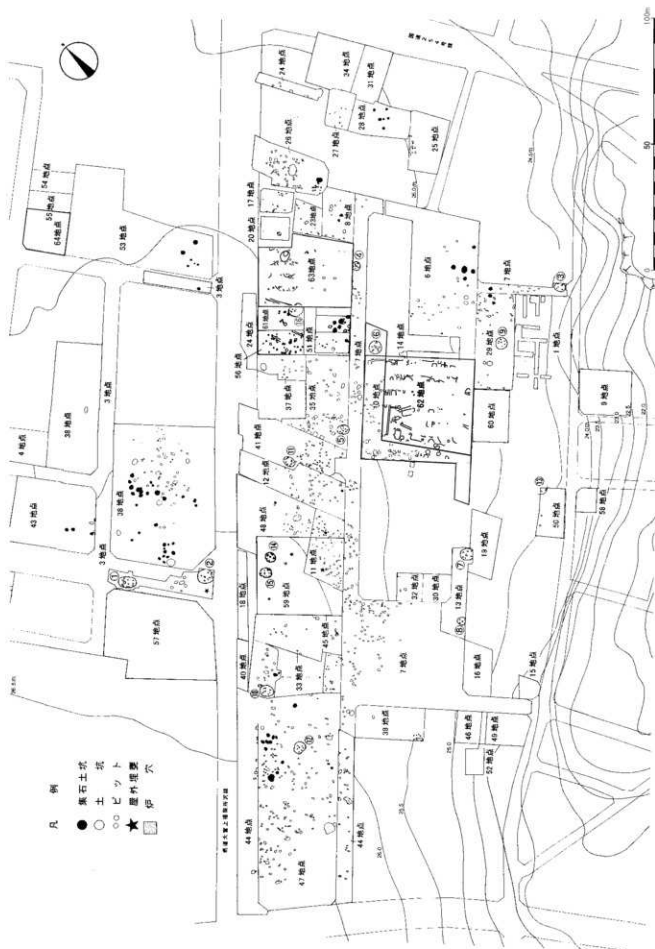
第55図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

り2008年7月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置し、隣接地からは縄文時代の住居跡、集石等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年9月17日から同年10月3日及び10月14、15日に行なった。幅約2mのトレンチ5本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、住居跡、土坑等を確認した。確認面まで40～60cmを測るが、建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図や遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。調査の結果検出した遺構は縄文時代中期の住居跡2軒、土坑3基、ピット29、溝1条である。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない、重機で埋め戻し調査を終了した。

#### (2) 遺構と遺物

【16号住居跡】西側に隣接する第61地点で検出した第16号住居跡の続きを検出した。全体の形状は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈し、長軸5.1mである。



第56図 亀居遺跡遺構分布図 (1/1,500)

第 27 表 亀居遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( ) は試掘調査	面積 (㎡)	調査範囲	遺構と遺物					所収報告書
					目録 有	土 器	土 器 片	ビ ット	石 器	
1	亀久保 1001	1972	155	跡地利用						町定資料編 1 調査会報告 8 集
2	亀久保 1005	1973	350	跡地利用						
3	鶴ヶ岡 161-1	1979.11 ~ 12	750	瓦葺屋根	2	1	6		1	東市道跡群 1, 調査会報告 8 集
4	鶴ヶ岡 2-2	(1984)		瓦葺屋根						遺構なし
5	鶴ヶ岡 2-4-3	(1984)		瓦葺屋根				1		
6	亀久保 1000	1985	914	瓦葺屋根	7	4	30			東市道跡群 VI
7	亀久保 999	1986.8	2,740	瓦葺屋根	2	7	84	138		調査会報告 8 集
8	亀久保 1003	1986.8	181	個人住宅	2	3	11			東市道跡群 VII
9	亀久保 989-1	(1986.9)		住宅建設						遺構なし
10	亀久保 1010-1	1986.10	650	瓦葺屋根	1		20	17		調査会報告 8 集
11	亀久保 1011-3	1987.10.13 ~ 11.13	380	個人住宅	2		73			東市道跡群 VII
12	亀久保 1011-1	1987.11.16 ~ 12.16	387	個人住宅	1		48	1		東市道跡群 VII
13	亀久保 1007-3	1988.8	242	瓦葺屋根	2					調査会報告 8 集
14	亀久保 999-4	(1988.7.22 ~ 8.3)	165	個人住宅						東市道跡群 VII
15	亀久保 1007	(1989.2)		個人住宅						東市道跡群 VII
16	亀久保 1007	(1989.2)	45	個人住宅						東市道跡群 VII
17	亀居 995-3	1989.9.14 ~ 18	112	個人住宅			3	8		東市道跡群 VII
18	坂道遺構	1990.3	210	瓦葺屋根						東市道跡群 VII
19	亀居 1007	1990.3.12 ~ 26	613	個人住宅						東市道跡群 VII
20	亀久保 1001-3	1990.5.21 ~ 25	118	個人住宅			1			東市道跡群 VII
21	亀久保 1001-14.15	1990.9.3 ~ 10	160	個人住宅				10		東市道跡群 VII
22	亀久保 995-4	1990.12	1,324	瓦葺屋根			1	3		調査会報告 8 集
23	亀久保 995-7	1991.3.12 ~ 16	162	個人住宅						町内道跡群 1
24	亀久保 1001-14	1992.4.24 ~ 31	259	個人住宅	2		60			町内道跡群 1
25	亀久保 995-2	1991.5	249	個人住宅			5			町内道跡群 1
26	亀久保 995-6	1991.12.4 ~ 21	475	個人住宅	6					東市道跡群 VII
27	亀久保 992-2	1991.7	925	集合住宅	1	2	36			調査会報告 3 集
28	亀久保 1007- 3.1008.3	1991.7	116	個人住宅						町内道跡群 1
29	亀久保 995-2.7	1991.9	197	個人住宅						町内道跡群 1
30	亀久保 1008-1	1991.12.3 ~ 9	115	個人住宅			6			町内道跡群 1
31	亀久保 1011-7	1991.12 ~ 1992.4	998	個人住宅	1	3	42			町内道跡群 II
32	亀久保 995-2	(1992.2.13)	634	個人住宅						町内道跡群 1
33	亀久保 1012-7	1993.9.28 ~ 11.5	470	個人住宅	1	2	7	56		町内道跡群 III
34	鶴ヶ岡 1-2-2	(1994.2.17 ~ 18)	798	瓦葺屋根			1		1	町内道跡群 III

地点	所在地	調査期間( ) は試掘調査	面積 (㎡)	調査範囲	遺構と遺物					所収報告書
					目録 有	土 器	土 器 片	ビ ット	石 器	
37	亀久保 1003-2B 跡	1994.2.18 ~ 25	566	瓦葺屋根 住宅			1	13		町内道跡群 III
38	鶴ヶ岡 2-1-2.2-1	(1994.8.22 ~ 30 1994.9)	3,162	店舗			37	21	29	調査会報告 8 集
39	亀久保 1008-5	(1994.8.26 ~ 29)	342	駐車場 跡			1	5	1	町内道跡群 IV
40	亀久保 1012-5 跡	1995.5	380	道路跡						調査会報告 8 集
41	亀久保 995-23.24	1995.5.31 ~ 8.4	530	道路跡	1			66		調査会報告 8 集
42	鶴ヶ岡 1-3-14	(1995.7.11 ~ 18)	196	事務所跡 跡						町内道跡群 V
43	鶴ヶ岡 2-3-4	(1995.8.9 ~ 30)	818	店舗跡 跡			4	2		町内道跡群 V
44	亀久保 1013-1	1995.10.22 ~ 12.4	1,030	道路跡			7	29	1	調査会報告 8 集
45	亀久保 1008- 5.1011.5	(1995.5.15 ~ 17)	619	瓦葺屋根				5	1	町内道跡群 VI
46	亀久保 1007-17	(1996.4.24 ~ 25)	192	分譲住宅						町内道跡群 VI
47	亀久保 1013-4 跡	(1996.9.1 ~ 9.17 1996.10.1 ~ 11.1)	2,741	瓦葺屋根 住宅	1	14	4	174		調査会報告 8 集
48	亀久保 995-19	(1997.1.20 ~ 29)	858	プレハブ 事務所 跡			1		1	町内道跡群 VI
49	亀久保 1007-14	(1997.11.6 ~ 10)	214	瓦葺屋根 住宅						町内道跡群 VII
50	亀久保 1007-5	1998.2.29 ~ (1998.26)	197	個人住宅	1		1			町内道跡群 VII
51	亀久保 2 地区 4 地区	1998.15 ~ 7.29	222	個人住宅			6	4	11	町内道跡群 VII
52	亀久保 7 地区 14 地区	2000.2.1 ~ 2.20	121	個人住宅						町内道跡群 VII
53	鶴ヶ岡 2-28-1	(2000.10.30 ~ 2001.1.18)	1,422	店舗			7			町内道跡群 VII
54	鶴ヶ岡 2-28-17	(2001.4.24 ~ 27)	148	個人住宅						町内道跡群 VII
55	鶴ヶ岡 2-28-16	(2001.11.15 ~ 16)	148	個人住宅						町内道跡群 VII
56	亀久保 2-13-14	2002.11.5 ~ 21	172	個人住宅				38		町内道跡群 VII
57	鶴ヶ岡 1-1-1	2003.4.28 ~ 28	1,356	店舗						町内道跡群 VII
58	亀久保 2975.19.24	(2005.4.18 ~ 2005.5.16)	79	個人住宅						市内道跡群 2
59	亀久保 2-10-5	(2005.8.3 ~ 20 2005.9.1 ~ 16)	1,073	瓦葺屋根	2	1	1			調査会報告 18 集
60	亀久保 2-17-7	(2005.9.16 ~ 2006.10.10 ~ 13)	293	個人住宅			1	2	1	市内道跡群 2
61	亀久保 2-12-3	(2007.11.12 ~ 26)	1,284	瓦葺屋根			28	28		市内道跡群 4
62	亀久保 2-13-5	2008.9.17 ~ 10.15	998	瓦葺屋根	1					市内道跡群 6
63	鶴ヶ岡 2-28-19	2008.9.12	907	分譲住宅						市内道跡群 6

第 28 表 亀居遺跡住居跡一覧表 (単位:cm)

住居 番号	調査 率	平面形 ( ) は推定	規模 ( ) は残存値	部					備考	時期	文献
				地 床	理 石	礎 石	煙 突	壁 土			
1 号	完備	櫛形	680 × 445 × 40	○	○	○	有		テラス状入口有	阿玉台 I b 古	東市道跡群 I 調査会報告 8 集
2 号	95%	櫛形	650 × 530 × 40	○	○	○	有		南東端未掘	阿玉台 II 古	調査会報告 8 集
3 号	90%	櫛形	478 × 410 × 25	○	○	○			北東部一部未掘	阿玉台 II 新	調査会報告 8 集
4 号	95%	櫛形	415 × 362 × 30	○	○	○			北端部区域外	阿玉台 II 新	調査会報告 8 集
5 号	完備	櫛形	415 × 360 × 30	○	○	○			テラス状入口有	阿玉台 I b 古	町内道跡群 III
6 号	完備	門形	446 × 425 × 20	○	○	○	有		テラス状入口有	勝飯 II 新	調査会報告 8 集
7 号	98%	櫛形	(520 × 470)	○	○	○			床面全面的に削平	阿玉台 I b 新	調査会報告 8 集
8 号	完備	櫛形	(440 × 350)	○	○	○			床面北削平	阿玉台 I b 新	調査会報告 8 集
9 号	完備	不規則形	480 × 470 × 30	○	○	○			柱 3 内埋没土器	阿玉台 II 古	調査会報告 8 集
10 号	完備	櫛形	520 × 445 × 32	○	○	○			テラス状入口有	阿玉台 I b 古	町内道跡群 III
11 号	完備	櫛形	482 × 338 × 30	○	○	○	有		テラス状入口有・脱臼	勝飯 II 古	調査会報告 8 集
12 号	完備	櫛形	463 × 390 × 25	○	○	○			覆土の土器量多い	阿玉台 II 古	調査会報告 8 集
13 号	30%	(門形)	(380 × 7 × 40)	○	○	○	未掘			勝飯 I 新	町内道跡群 VII
14 号	完備	櫛形	425 × 370 × 20	○	○	○	有			勝飯 I 新	調査会報告 18 集
15 号	完備	櫛形	486 × 400 × 30	○	○	○	有		床面中央部掘削	勝飯 II 新	調査会報告 18 集
16 号	25%	(櫛形)	510 × 7 × 50	○	○	○			埋没時に口縁はめ込む	阿玉台 II 古	市内道跡群 3、6

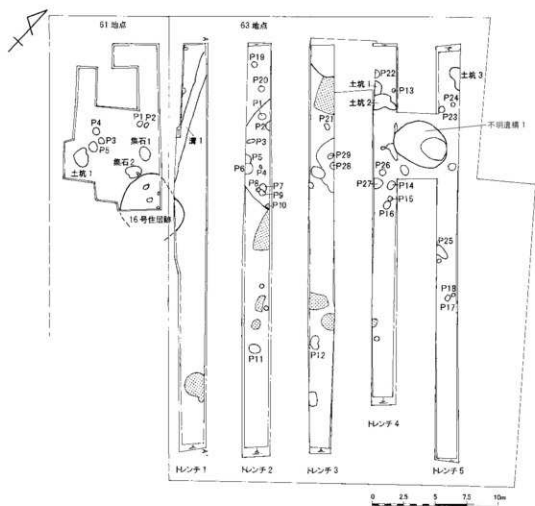
本地点で検出した部分は保護層が確保されるため未調査であるが、61地点の調査では炉体土器を検出しており、住居の時期は阿玉台Ⅱ式期である。(2008「埼玉ふじみ野市 市内遺跡群3」参照)

【不明遺構(住居跡)】調査区北側、トレンチ4と5の中間に位置する。16号住居跡と18m、南西の4号住居跡と25m 離れる。遺構プランを確認したうえで、深さを確認するため、牛蒡耕作の時に機械で掘ら

れたトレーチャー跡をサブトレンチとして掘り、調査した。全体の形状は東西方向に長軸を持つ楕円形を呈し、長軸4.1m、短軸推定3.2m、深さ16cmである。中期前半の土器破片を検出した。

【溝1】調査区北西、南北方向に位置する。区画整理前の土地境と平行しており、3m西側にある。

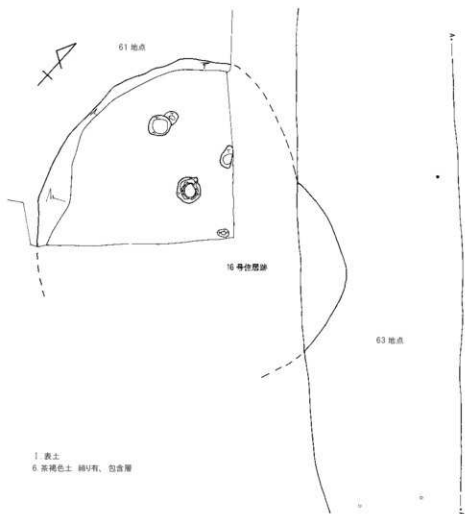
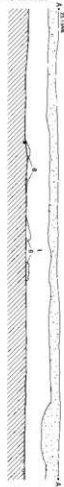
【土坑1】土坑2は焼土粒を少量含む。土坑3から土器出土。



1. 表土
2. 黒色土 緑V質、鉄、耕作土
3. 黒褐色土 緑V質、ローム粒(2~3mm)多量、ローム塊(10mm大)少量
4. 黒褐色土 緑V質、ローム粒(1~2mm)多量
5. 褐色土 緑V質、ソフロームに褐色土混入
6. 茶褐色土 緑V質、包含層
7. 褐色土 緑V質、ローム粒(2~3mm)極多量、ローム塊(10mm大)多量

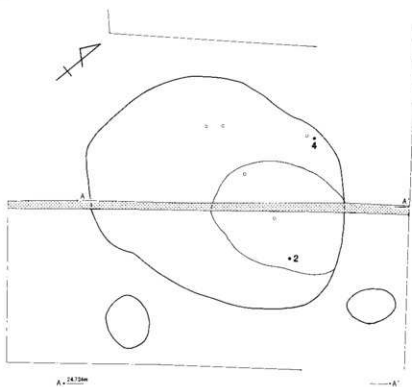
第57図 亀居遺跡第63地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

16号住居跡



1. 表土  
6. 茶褐色土 砂り有、包含層

不明遺構 1



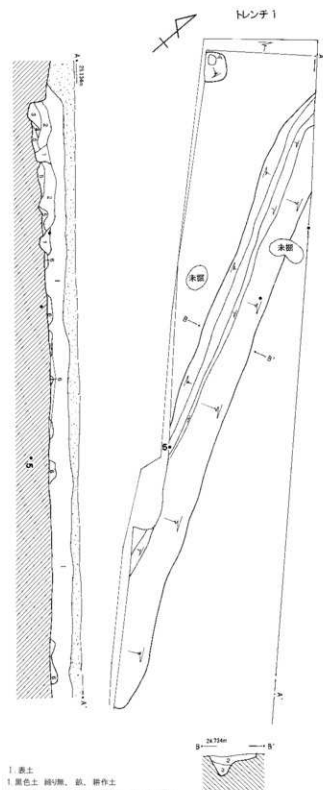
不明遺構 1

1. 表土  
1. 暗褐色土 砂り有、ローム粒 (1mm) 少量  
2. 暗褐色土 砂り有、ローム粒 (1mm) 少量、炭 (1mm) 極少量  
3. 暗褐色土 砂り有、ローム粒 (1mm) やや多量、炭 (1mm) 極少量、焼土粒 (1mm) 極少量  
4. 褐色土 砂り有、ソフトロームに斑状の褐色土が混入  
5. 黄褐色土 砂り有、ソフトロームに褐色土が少量混入

A = 24.73m



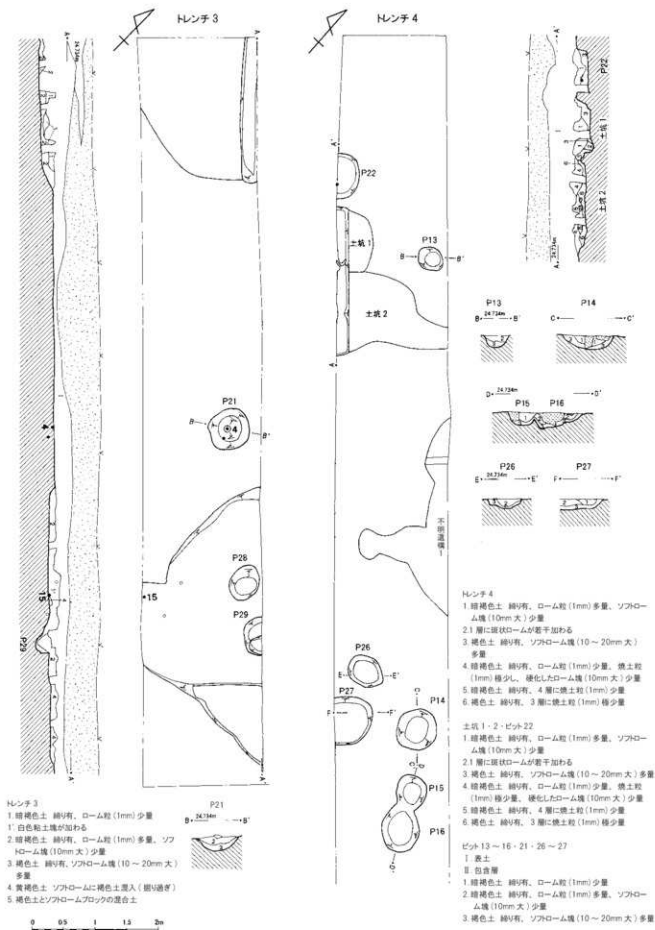
第58図 亀居遺跡第63地点16号住居跡・不明遺構 (1/60)



第 29 表 亀居遺跡第 63 地点遺構一覧表 (単位: cm)

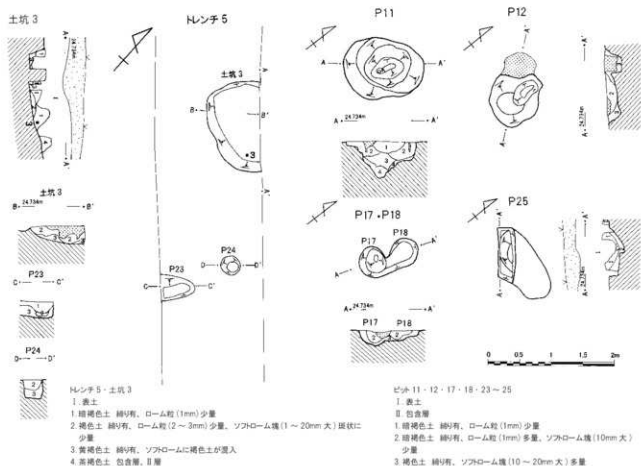
No.	平面形状	幅	長さ	深さ	備考
溝 1	南北 10.0 m 以上の直線、北側で東に曲がる、断面「V」字、東側は浅い、「片築削」	75 ~ 80	10 ~ 16	25 ~ 31	覆土下層ローム主体、土坑 1 より新
土坑 1	(楕円形)	(105) × (57)	80 ×	22	土坑 2 より古
土坑 2	不整形	(175) ×	135 ×	15	土坑 1 より新、焼土粒含む
土坑 3	(楕円形)	140 × (84)	122 × (74)	20	東へ傾く、土器出土
P1	楕円形	76 × 50	34 × 14	25	土器 1、2 トレ
P2	(楕円形)	(80) × (36)	(52) × (22)	22	横 1、2 トレ
P3	楕円形	65 × 42	8 × 8	17	2 トレ
P4	円形	38 × 35	12 × 12	21	土器 2、2 トレ
P5	隅丸方形	46 × 42	20 × 16	22	2 トレ
P6	楕円形	63 × 50	32 × 30	27	2 トレ
P7	楕円形	64 × 45	14 × 4	35	P8 と切合い、2 トレ
P8	楕円形	50 × 40	20 × 18	19	P 7 と切合い、2 トレ
P9	楕円形	36 × 25	5 × 5	23	2 トレ
P10	円形	38 × 38	25 × 6	19	2 トレ
P11	楕円形	127 × 96	32 × 8	63	2 トレ
P12	不整形	89 × 82	25 × 10	28	3 トレ
P13	隅丸方形	38 × 36	25 × 20	18	4 トレ
P14	円形	65 × 62	40 × 33	22	埋石 1
P15	円形	50 × 48	32 × 28	19	P16 より新
P16	楕円形	70 × 60	52 × 40	18	P15 より古
P17	円形	52 × 42	12 × 7	26	P18 と同時期
P18	楕円形	55 × 45	45 × 30	11	P17 と同時期
P19	円形	50 × 46	30 × 9	46	2 トレ
P20	円形	60 × 48	20 × 18	21	2 トレ
P21	円形	62 × 62	42 × 35	22	土器 2.3 トレ
P22	(楕円形) 半円	72 × (35)	56 × (30)	19	横 1、4 トレ
P23	(楕円形)	(52) × 42	(42) × 16	25	5 トレ
P24	円形	30 × 30	18 × 15	35	5 トレ
P25	楕円形	105 × 65	×	27	横 1、5 トレ
P26	楕円形	60 × 45	44 × 32	15	4 トレ
P27	(楕円形)	76 × (58)	63 × (52)	12	4 トレ
P28	楕円形	60 × 45	34 × 25	43	不明遺構内、3 トレ
P29	(楕円形) 有口	60 × (28)	18 × (18)	34	不明遺構内、3 トレ





第 61 図 亀居遺跡第 63 地点トレンチ 3・4 ピット (1/60)





不明遺構 1



土坑 3



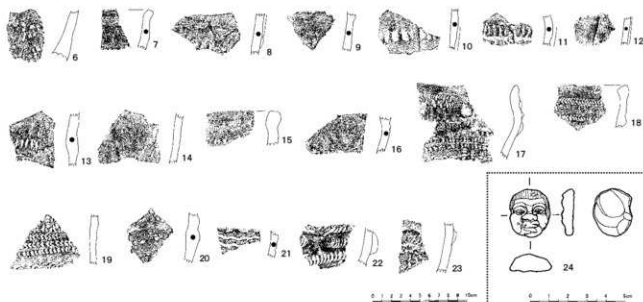
P21



溝



遺構外



第 62 図 亀居遺跡第 63 地点トレンチ 5 ピット (1/60)、不明遺構 1・土坑・ピット・溝・遺構外出土遺物 (1/4・1/2)

第 30 表 亀居遺跡第 63 地点出土土遺物観察表 (単位 cm)

図版 番号	図版 番号	遺構名	種別・器 種	目録 番号	表層 番号	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	現存 / 備考
62 図	1	不明遺構	縄文土器・鉢	—	—	輪組み成形 / 無文 / 砂粒多量 / 注 No. SX-2 No. 4		縄文中期	口縁部片
	2	不明遺構	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 長方形区画の半陰帯内側へ斜目を施す / 砂粒少量 / 注 No. SX-2 No. 1		縄文中期・勝坂 I	胴部片
	3	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 縦・横・竹筥による波状の角押文と直線の角押文。同一工具による交互刺突で作り出された蛇行文が平行に並ぶ / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 3D		縄文中期・勝坂 I	胴部片
	4	P21	縄文土器・深鉢	—	9.5	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線 / 砂粒、褐色粘土多量含む / 注 No. P-21 No. 1		縄文中期・阿玉台 I b	底部片
	5	溝	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分に幅広の斜目列を施文 / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. M No. 3		縄文中期・阿玉台 II	胴部片
	6	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 無文 / 砂粒多量 / 注 No. 2 トレ No. 21		縄文中期	胴部片
	7	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 先端斜めの半截竹管による連続押引き文で、半円文様を描く。口縁部下も押引文 / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 2 トレ 2		縄文中期・阿玉台 I b	口縁部片
	8	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線。断面三角形の陰帯を貼付ける / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 3 トレ 1		縄文中期・阿玉台 I b	胴部片
	9	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線。断面三角形の陰帯を貼付ける / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 3 トレ 1		縄文中期・阿玉台 I b	胴部片
	10	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線を強く施文。断面三角形の陰帯を貼付ける / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 2 トレ No. 26		縄文中期・阿玉台 I b	胴部片
	11	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線を強く施文。断面三角形の陰帯を貼付ける / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 2 トレ 2		縄文中期・阿玉台 I b	胴部片
	12	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分にヒタ状指頭直線。断面三角形の陰帯を貼付ける / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 1 トレカクラン		縄文中期・阿玉台 I b	胴部片
	13	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 輪組み部分に爪形の斜目列を施文 / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 3 トレ 3		縄文中期・阿玉台 II	胴部から口縁部片
	14	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 陰帯を貼り付ける / 砂粒多量含む / 注 No. 2 トレ 1		縄文中期・阿玉台	胴部片
	15	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 爪形の斜目列を施文 / 砂粒多量含む / 注 No. 3 トレー SX No. 3		縄文中期・阿玉台 II	胴部片
	16	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / ペン先形の半截竹管による角押文。2 列単位で三角形文様を描く。口縁部下も押引文 / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 2 トレ 2		縄文中期・阿玉台 I b	口縁部片
	17	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 波状口縁。陰帯による横門区画陰帯、矢羽状工具による三角押文で押さえる。区画内も縦列の三角押文で充填する。横門区画下は幅広押引き文と三角押文で押さえる。縦列の三角押文と波状角押文を施文 / 砂粒多量含む / 注 No. 2 トレ No. 4, 6		縄文中期・勝坂 I (新道)	口縁部片
	18	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 陰帯陰帯を、矢羽状工具による三角押文で押さえる。区画内も縦列の三角押文で充填する / 砂粒多量含む / 注 No. 5 トレ 2		縄文中期・勝坂 I (新道)	口縁部片
	19	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 矢羽状工具による三角押文や波状波線文を施す。縦列の三角押文で充填する / 砂粒多量含む / 注 No. 2 トレ No. 3		縄文中期・勝坂 I (新道)	胴部片
	20	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / やや複雑な押引文を波状に施す / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 1 トレカクラン		縄文中期・阿玉台 II	胴部から口縁部片
	21	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 波状の波線文を施す / 砂粒、雲母多量含む / 注 No. 3 トレ 1		縄文中期・阿玉台 II	胴部片
	22	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 陰帯区画内や陰帯陰帯を幅広の爪形連続刺突文で押さえる / 砂粒多量含む / 注 No. 3 トレ 2		縄文中期・勝坂 II (幕内)	胴部片
	23	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	輪組み成形 / 横門区画の陰帯陰帯を幅広の連続刺突文で押さえる。その内側も平行波線波線文 / 注 No. を施す。横門区画内は波状波線文を横列に施文 / 砂粒多量含む / 注 No. 1 トレカクラン		縄文中期・勝坂 II (幕内)	胴部片
	24	遺構外	土製品・肥面子	2.5	2.2	0.8	型押し成形 / 裏面に指頭直線 / 砂粒少量含む / 注 No. 5 トレ 1	1790 年代～1890 年代	完形

## Ⅲ 亀居遺跡第64地点

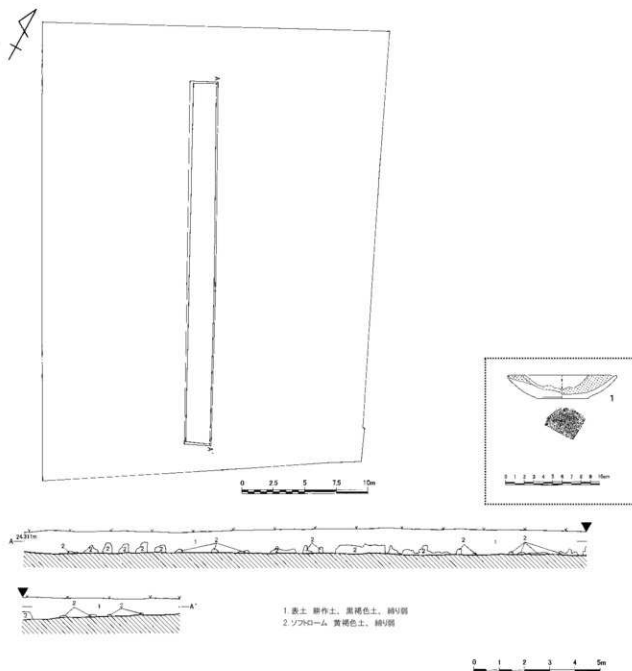
## (1) 調査の概要

調査は分譲住宅の宅地造成に伴うもので、原因者より2008年8月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北端に位置し、近隣地からは縄文時代の集石・土坑等遺構が多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年9月1、2日に行なった。幅約2mのトレンチ1本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで100cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

第31表 亀居遺跡第64地点出土遺物観察表 (単位cm)

図面 番号	図面 番号	遺構名	種類・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	石材/推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
63回	1	遺構外	陶器・皿	(11.8)	(5.6)	2.4	輪織成形/灰釉、外面無釉/淡黄色/注No1トレ	京都・信楽	19C	1/4



第63図 亀居遺跡第64地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)、出土遺物 (1/4)

## 第6章 松山遺跡の調査

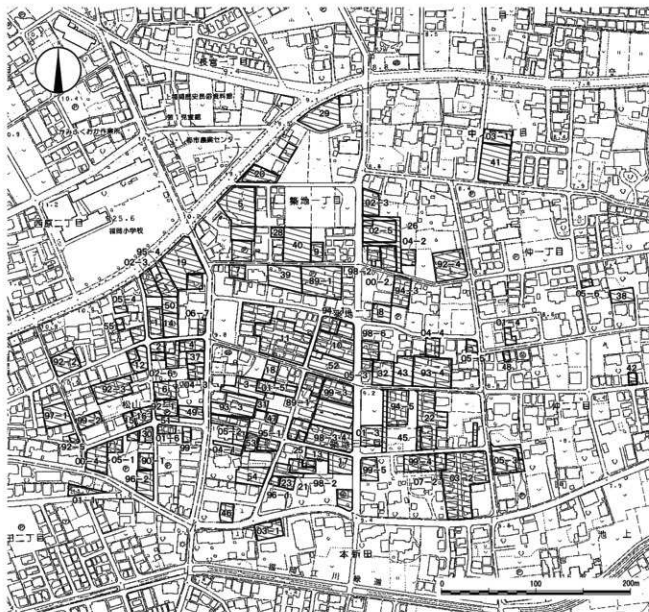
## I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧き水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上ある。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が接する。また、西方

350m前後に比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより105ヶ所で調査が行なわれている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行なった。

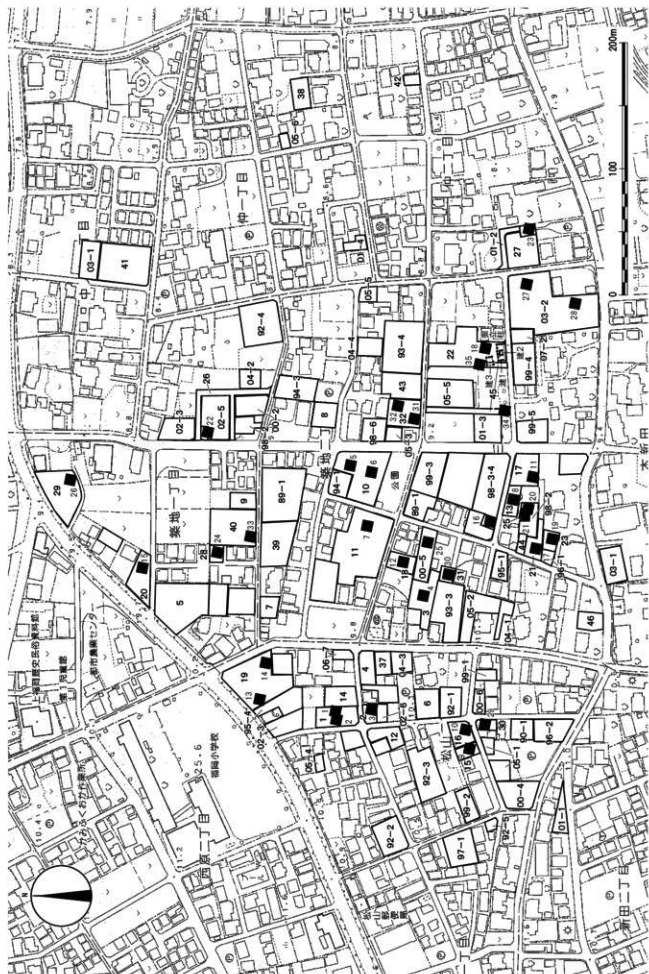


第64図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 32 表 松山道跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 (1) 1 月 1 日現在調査	面積 (㎡)	調査内容	確認された道跡と 遺構	所収報告書
1. 3	松山 2-5-4	1989.10.14 ~ 11.6	479	住宅跡	往後跡 2	松山道跡調査報告書(1)
2. 3	松山 2-6-7	1979.4.26 ~ 5.1	161	住宅跡 1, 土留	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
3. 3	松山 3-2-10	1979.8.7 ~ 16	733	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
4. 3	松山 2-7-11-6.9	1982.9.13 ~ 24	277	住宅跡	往後跡 2, 土留	松山道跡調査報告書(1)
5. 3	松山 1-7-11-1	1983.4.20 ~ 28	1,461	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
6. 3	松山 2-6-16	1984.8.19 ~ 28	330	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
7. 3	松山 2-3-19	1986.1.13 ~ 21	237	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
8. 3	松山 2-1-32	1986.7.1 ~ 8	319	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
9. 3	松山 1-4-60	1987.10.1 ~ 3	268	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(1)
1989 年度 調査(2)	松山 3-3-4	1989.9.19 ~ 10	370	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(2)
1990 年度 調査(3)	松山 2-3-11	1989.6.27 ~ 28	1,342	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(3)
1990 年度 調査(4)	松山 2-2-9	1990.9.7 ~ 12	304	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(4)
10. 3	松山 2-2-6	1991.10.14 ~ 18	430	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(4)
11. 3	松山 2-1-10	1991.10.18 ~ 21	2,029	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(4)
1992 年度 調査(5)	松山 2-6-22.23	1992.4.17 ~ 26	567	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(5)
1992 年度 調査(6)	松山 2-4-7	1992.5.6 ~ 11	571	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(6)
12. 3	松山 2-3-11	1992.5.12 ~ 20	303	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(6)
13. 3	松山 2-3-18	1992.5.18 ~ 30	234	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(6)
14. 3	松山 2-5-17	1992.5.31 ~ 30	978	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(6)
1993 年度 調査(7)	松山 2-3-31.3	1992.6.6 ~ 18	971	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(7)
1993 年度 調査(8)	松山 1-3-17	1992.6.23 ~ 11	998	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(8)
1993 年度 調査(9)	松山 1-4-32	1992.10.30	78	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(9)
1993 年度 調査(10)	松山 2-3-1	1993.3.4 ~ 16	509	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(10)
15. 3	松山 2-3-41	1993.4.19 ~ 28	148	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(10)
17. 3	松山 2-3-19	1993.5.10 ~ 24	597	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(10)
16. 3	松山 2-3-43.48	1993.7.2 ~ 15	157	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(10)
1993 年度 調査(11)	松山 3-1-7.31	1993.10.15	994	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(11)
1993 年度 調査(12)	松山 2-5-2 の 一 部	1993.10.22 ~ 28	1,246	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(12)
18. 3	松山 3-1-16	1993.12.1 ~ 7	2,90	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(13)
19. 3	松山 2-5-9	1994.1.17 ~ 23	1,531	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(13)
1994 年度 調査(14)	松山 2-2-3	1994.5.30	31	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(14)
20. 3	松山 1-2-4	1994.6.4 ~ 11	539	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(15)
1994 年度 調査(15)	松山 2-4-7	1994.8.3 ~ 12	532	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(15)
1994 年度 調査(16)	松山 3-2-10	1995.5.10 ~ 18	303	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(16)
1995 年度 調査(17)	松山 2-3-12	1995.5.22 ~ 6.18	542	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(17)
1995 年度 調査(18)	松山 3-2-23	1995.10.17 ~ 20	133	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(18)
21. 3	松山 3-2-23	1995.10.17 ~ 20	378	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(18)
1995 年度 調査(19)	松山 2-5-8.16	1995.12.22	413	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(19)
1996 年度 調査(20)	松山 2-2-1	1996.7.22 ~ 24	489	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(20)
1997 年度 調査(21)	松山 1-4-17	1997.3.31 ~ 38	391	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(21)
22. 3	松山 3-4-15.23	1997.12.15 ~ 24	419	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(22)
1998 年度 調査(22)	松山 3-2-12.24	1998.4.16	240	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(23)
1998 年度 調査(23)	松山 3-2-23 の 一 部	1998.4.17 ~ 20	430	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(23)
1998 年度 調査(24)	松山 3-3-1	1998.4.20 ~ 5.25	922	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(24)
23. 3	松山 3-2-26.6	1998.5.31 ~ 14	120	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(25)
1998 年度 調査(25)	松山 1-3-18	1998.7.1	167	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(25)
24. 3	松山 3-2-4.6	1998.8.26 ~ 21	50	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(26)
1998 年度 調査(26)	松山 2-6-6	1998.8.31 ~ 4	363	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(26)
25. 3	松山 3-2-22.7.9	1999.3.3 ~ 12	240	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(27)
1999 年度 調査(27)	松山 2-1-10	1999.4.4 ~ 6	166	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(27)
1999 年度 調査(28)	松山 3-3-3	1999.6.6 ~ 12	340	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(28)
1999 年度 調査(29)	松山 3-3-14.15	1999.6.22 ~ 24	778	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(29)
1999 年度 調査(30)	松山 3-3-15.15 の 一 部	1999.6.22 ~ 24	745	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(30)
1999 年度 調査(31)	松山 3-5-28	1999.6.26 ~ 31	331	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(31)
26. 3	松山 1-3-21	2000.3.15 ~ 22	627	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(32)
27. 3	松山 1-3-33.27.35	2000.3.27 ~ 29	687	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(33)
27. 3	松山 2-10-9	2000.6.12 ~ 7.3	912	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(34)
2000 年度 調査(34)	松山 2-2-5	2000.10.30	367	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(35)
28. 3	松山 1-1-28	2001.2.8 ~ 21	165	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(36)
2000 年度 調査(35)	松山 3-1-28	2001.2.2 ~ 10	614	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(37)
2000 年度 調査(36)	松山 2-4-8.17	2001.3.21	174	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(38)

地点	所在地	調査期間 (1) 1 月 1 日現在調査	面積 (㎡)	調査内容	確認された道跡と 遺構	所収報告書
2001 年度 調査(37)	松山 2-4-5.1	2001.4.12 ~ 13	254	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(39)
2001 年度 調査(38)	松山 2-1-10	2001.5.8.17.18	168	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(40)
2001 年度 調査(39)	松山 3-4-10	2001.5.10 ~ 15	434	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(41)
2001 年度 調査(40)	松山 1-1-23.34	2001.9.12	694	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(42)
2002 年度 調査(41)	松山 1-2-8	2002.5.20 ~ 23	978	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(43)
2002 年度 調査(42)	松山 5-5-35.36	2002.7.11	248	宅地造成 (土留付)	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(44)
2002 年度 調査(43)	松山 1-2-8 の 一 部	2002.7.2 ~ 6	363	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(45)
2002 年度 調査(44)	松山 2-5-7	2002.8.5	358	宅地造成 (土留付)	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(46)
2002 年度 調査(45)	松山 1-3-28	2002.8.20 ~ 21	479	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(47)
2002 年度 調査(46)	松山 1-3-22.25.30	2002.8.22 ~ 28	640	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(48)
2002 年度 調査(47)	松山 2-6-5	2002.9.9	147	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(49)
2003 年度 調査(48)	松山 1-1.23	2003.4.16 ~ 21	1,080	共同住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(50)
2003 年度 調査(49)	松山 2-3-3	2003.8.19 ~ 20	2,578	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(51)
2003 年度 調査(50)	松山 2-3-1	2003.10.1 ~ 10	142	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(52)
2004 年度 調査(51)	松山 3-1-16.32	2004.4.22 ~ 29	976	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(53)
2004 年度 調査(52)	松山 1-3-37	2004.4.26	165	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(54)
2004 年度 調査(53)	松山 2-6-11	2004.6.16	309	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(55)
2004 年度 調査(54)	松山 2-4-15.27	2004.8.5	280	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(56)
2004 年度 調査(55)	松山 3-4-12	2004.9.6 ~ 8	911	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(57)
2005 年度 調査(56)	松山 2-2-4 の 一 部	2005.4.6 ~ 7	313	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(58)
2005 年度 調査(57)	松山 1-1-23.4.3	2005.4.19 ~ 21	549	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(59)
2005 年度 調査(58)	松山 2-5-32	2005.4.28	132	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(60)
2005 年度 調査(59)	松山 2-5-3	2005.4.14 ~ 25	120	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(61)
2005 年度 調査(60)	松山 2-5-3	2005.4.19 ~ 13	567	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(62)
2005 年度 調査(61)	松山 2-5-3	2005.4.19 ~ 13	567	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(63)
2005 年度 調査(62)	松山 2-4-23	2005.10.20 ~ 21	161	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(64)
2005 年度 調査(63)	松山 2-5-21	2006.2.28	100	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(65)
2005 年度 調査(64)	松山 2-6-10.13	2006.4.12	228	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(66)
2005 年度 調査(65)	松山 1-4-19.12.13.24	2006.5.28	2,176	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(67)
2005 年度 調査(66)	松山 2-5-10	2007.1.10 ~ 20	937	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(68)
2005 年度 調査(67)	松山 1-1-5	2007.2.21 ~ 3	1,047	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(69)
2005 年度 調査(68)	松山 2-7-1	2007.2.21 ~ 3	1,281	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(70)
2005 年度 調査(69)	松山 3-2-25	2007.2.19	108	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(71)
2005 年度 調査(70)	松山 2-7-1	2007.4.11 ~ 24	668	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(72)
2005 年度 調査(71)	松山 3-2-10.14	2008.6.9 ~ 11	132	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(73)
2005 年度 調査(72)	松山 3-4-7 の 一 部	2008.10.1 ~ 23	390	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(74)
2005 年度 調査(73)	松山 3-4-7 の 一 部	2008.9.4 ~ 30	390	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(75)
2005 年度 調査(74)	松山 3-1-22 の 一 部	2009.2.21	309	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(76)
2005 年度 調査(75)	松山 3-1-52	2009.5.11.12	121	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(77)
2005 年度 調査(76)	松山 2-2-34	2009.7.1	67	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(78)
2005 年度 調査(77)	松山 2-6-14.22 の 一 部	2009.10.27 ~ 11	449	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(79)
2005 年度 調査(78)	松山 2-5-3.17	2010.11.27 ~ 12	797	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(80)
2005 年度 調査(79)	松山 2-6-22.23 の 一 部	2010.5.10 ~ 13	360	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(81)
2005 年度 調査(80)	松山 2-2-1	2010.8.26 ~ 30	694	住宅跡	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(82)
2005 年度 調査(81)	松山 3-1-11	2010.10.10 ~ 20	393	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(83)
2005 年度 調査(82)	松山 3-4-28	2010.9.4 ~ 13	540	宅地造成	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(84)
2005 年度 調査(83)	松山 2-4-24 の 一 部	2011.1.18 ~ 31	226	個人住宅	往後跡 1, 土留	松山道跡調査報告書(85)



第 65 図 松山道跡遺構分布図 (1/3,000)

第33表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位: cm)

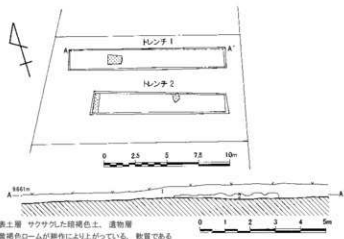
住居 番号	調査 年度	調査名	調査 率	平面形 ( ) は推定	規模	方位	設置 方法	カマド	竈	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東	110 × 75	○	南分前平	9C 2半期		埋蔵文化財の調査 1
2	"	第1次2号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東	120 × 85	○	南分前平	9C 2半期		埋蔵文化財の調査 1
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方)形	350 × 10	K	東		一部	南分後平	9C 2半期		埋蔵文化財の調査 2
4	"	第3次4号住居	完掘	方形	330 × 175	K	北	200 × 100	○	N-14-E	9C 2半期		埋蔵文化財の調査 14
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北-東		○	9C 2半期			"
6	"	第10次6号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○	9C 2半期			"
7	"	第11次7号住居	完掘	正方形	400 × 400		遺存状態悪い		○	8C 4半期			"
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方)形	400 ×					N-10-E	8C 3半期		埋蔵文化財の調査 15
9	1993	第15次9号住居	完掘	長方形 長方形 方形	440 × 350 420 × 310 260 × 300	K	東-北	210 × 210 210 × 210 80 × 65	○	9C 1半期	鉄鍋型銅器 出土		埋蔵文化財の調査 16
10	"	第16次10号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北	130 × 80	○	8C 4半期			"
11	"	第17次11号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○	7C 4半期	黒土層出土		"
12	"	第18次12号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北		(○)	8C 4半期			"と市史
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北		○	N-5-E	9C 1半期		松山遺跡第19次 調査概要
14	"	第19次14号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東-北		○	N-5-E	9C 1半期	土層出土	"
15	"	第20次15号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西	70 × 70	○	N-20-W	7C 4半期		松山遺跡第20次調査 未報告
16	1995	7年度試掘(2) 16号住	完掘	長方形	480 × 400	K	北		○	7C 4半期			埋蔵文化財の調査 19
17	"	第21次17号住	完掘	長方形	240 × 460	K	東	90 × 60	○	N-50-E	8C 末		埋蔵文化財の調査 20
18	1997	第22次1号掘立	部分	長方形	東西5間 南北3間						8C 末 ~ 9C 初		"
"	"	第22次2号掘立	部分	長方形	東西2間 南北2間						8C 末 ~ 9C 初		"
"	"	第22次3号掘立	部分	長方形	(東西2間) 南北3間						8C 末 ~ 9C 初		"
19	1998	第23次19号住	4/5	長方形	260 × 290				○	N-30-W	8C 後半	土層 6点出土	埋蔵文化財の調査 21
20	1999	第25次20号住									8C 初頭	黒土層出土	市史調査
21	"	第25次21号住									8C 初頭		未報告
22	2000	第26次22号住	完掘		360 ×	K	北		○	7C 後半	14年度試掘、 焼土層		埋蔵文化財の調査 23
23	"	第27次23号住	完掘	台形	600 × 720	K	北		○	8C 平ば			"
24	2001	第28次24号住	1/2		340 ×	K	北西		○	8C 中盤			埋蔵文化財の調査 24
25	2000	12年度試掘 5	2/3				遺存状態 悪い						埋蔵文化財の調査 25
26	2002	第29次26号住	完掘	長方形	420 × 360	K	北		○	7C 後半			埋蔵文化財の調査 25
27	2003	15年度試掘 27号住	一部	(焼土保存)								ブランクの検出	埋蔵文化財の調査 26
28	"	15年度試掘 28号住	1/2	(焼土保存)								ブランクの検出	"
29	"	第30次29号住	完掘	長方形	360 × 420	K	東		○	9C 前半			"
30	2005	第31次30号住	完掘	長方形	360 × 600	K	北		○	S-65-E	土層出土		市内道路跡 1
31	"	第32次31号住	完掘	長方形	380 × 330 ×	K	東		○	S-65-E	9C 中盤		"
32	"	第32次32号住	1/2	長方形	東西 4 m × 南北 3 m以上	K	東		○	S-85-E			"
33	2006	40 地点 H33号住	完掘	方形	455 × 420	K	北	98 × 154	○	N-5-E	8C 後半		市内道路跡 3
34	2008	45 地点 H34号住	完掘	方形	364 × 364	K	東	122 × 125	○	N-90-E			市内道路跡 6
35	2008	45 地点 H35号住	1/2	(方)形	504 × (222)				○			焼土層	市内道路跡 6

## II 松山遺跡第44地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年4月9日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南側に立地し、南側と東側の隣接地で奈良・平安時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年6月9日から同11日まで行なった。幅約2mのトレンチ2本を設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出なかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで40~60cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第66図 松山遺跡第44地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)

## Ⅲ 松山遺跡第 45 地点

## (1) 調査の概要

調査は道路築造及び上下水道敷設工事に伴うもので、ふじみ野市長より 2008 年 3 月 14 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、東側の隣接地で奈良・平安時代の掘立柱建物跡と住居跡を検出しているため、都市計画課と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 9 月 4 日から同 9 月 30 日まで行った。調査区は西側の道路予定地を 45 地点 A 区、東側の道路予定地を 45 地点 B 区とした。敷地内に残土置き場を確保しながら重機により表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、奈良・平安時代の遺構・遺物を確認した。また、表土より頁岩製の剥片を 1 点検出したので、旧石器時代の確認調査のため  $2 \times 2$  m のグリッドを 6 ヲ所設定し、調査を行なったが遺構・遺物の検出はなかった。確認面まで 50 cm を測る。写真撮影・平板による全測量図及び遺り方測量による遺構図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

【H 34 号住居跡】調査区 A の南端に位置し、遺跡全体の分布では南東部に位置する。溝状遺構(イモビツ)に北側部分を壊されている。

主軸方位は  $N-96^{\circ}-E$ 、東壁南寄りに竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸方位の東西が 3.61 m、南北 3.64 m、確認面からの深さ 0.43 m である。

竈は粘土を貼り付け、竈の左右両壁奥および底部、煙道の一部が焼けて赤化する。奥壁には煙道が径 12 cm の横穴として残っていた。竈覆土からは土師器甕が 1 個体分破片の状態出土した。

住居中央部には小ビットが 4 箇所集中し、北側壁際にも 1 箇所ある。

周溝は東壁の竈の北側を除き壁際に巡る。

床面は全体に硬化し平坦である。壁は垂直に立ち上がる。掘方は、四隅が深くなる以外ほぼ平坦に掘られている。

【H 35 号住居跡】調査区 B の北端に位置し、遺跡全体の分布では南東部に位置する。南側に 3 棟の掘立柱建物跡がある。

住居跡の南側半分の検出で、北側は道路崩壊の恐れがあり拡張できず、未調査である。竈も未検出である。

東西 5.04 m、確認面からの深さ 0.39 m である。東西の軸方位は  $N-95^{\circ}-E$  である。

床面直上に炭化材が多量に出土した。南西隅から中央に向けて出土した幅 10 cm 前後、長さ 2.2 m の炭化材は垂木か梁の部材と思われる。樹種同定の結果は「クリ」である。また、「イネ科」の炭化材も並列した塊の状態に検出した。屋根や壁の部材として使用されたと思われる。

住居南側の壁際に焼土が散在していた。特に南側中央には径 40 cm 前後、厚さ 8 cm の焼土塊を検出したが、床面は焼けておらず、炭化材の出土とあわせて、住居焼失時に伴うものと思われる。

周溝は壁際に巡る。

床面は全体に硬化し平坦である。壁は垂直に立ち上がる。掘方は、周辺が深くなるが、中央部にも一部窪みがある。

【1 号掘立柱建物跡】調査区 B の南端に位置し、遺跡全体の分布では南東部に位置する。平成 9 年度の 22 次調査で検出した 5 間  $\times$  3 間の 1 号掘立柱建物跡の西側柱穴列にあたる。今回検出した柱穴 3 基のうち、P 2、P 3 は前回調査済みで、P 1 のみ今回初検出である。

東西の軸方位は  $N-96^{\circ}-E$  である。東西 12.3 m、南北 5.8 m を測る。

暗褐色土とロームを交互に埋め版築されている。柱穴の芯心間は P 1-P 2 が 1.7 m、P 2-P 3 が 2.0 m である。

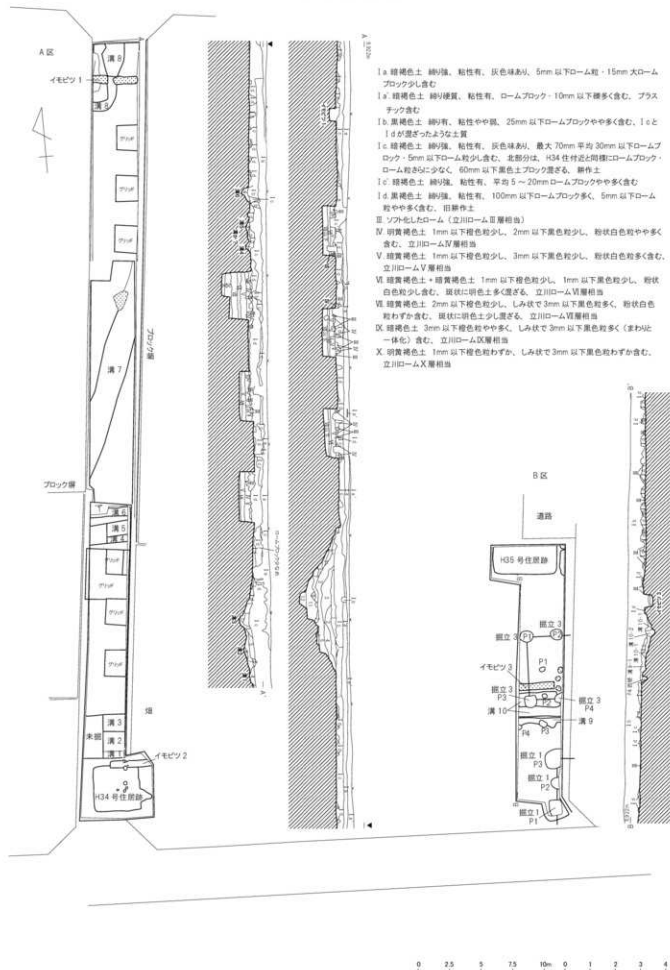
【3 号掘立柱建物跡】調査区 B の中央に位置し、遺跡全体の分布では南東部に位置する。平成 9 年度の 22 次調査で検出した 3 号掘立柱建物跡の西側柱穴列にあたる。今回検出した柱穴は、暗褐色土とロームを交互に埋め版築した中に径 20 ~ 32 cm の柱跡が残る。

東西の軸方位は  $N-96^{\circ}-E$  である。柱穴の芯心間は P 1-P 2 間と P 3-P 4 間がともに 2.45 m、南北方向は P 1-P 3 が 5.16 m、P 2-P 4 が 5.08 m である。

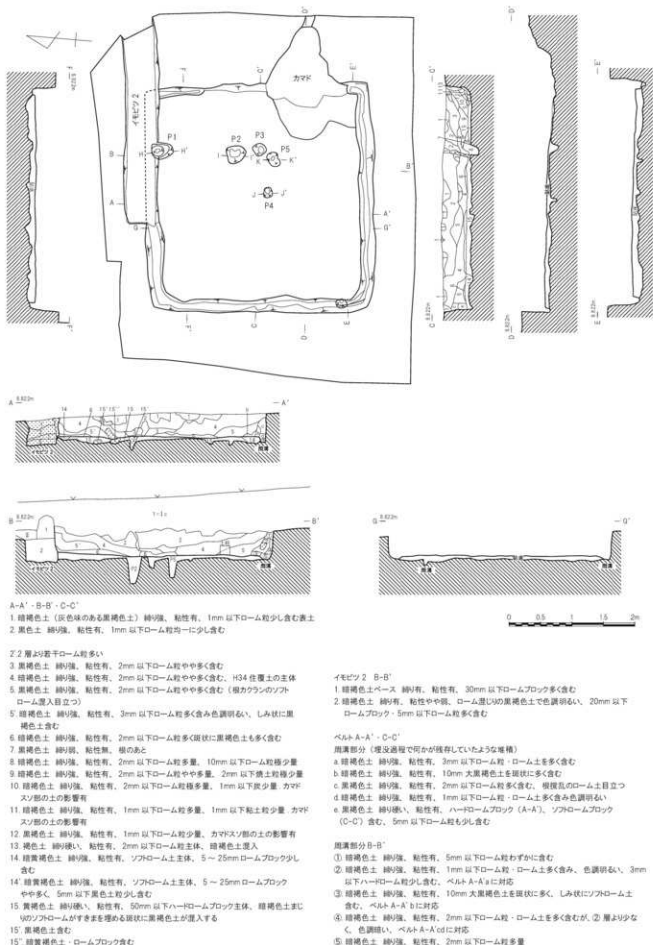
【溝】溝 1 ~ 3、4 ~ 6 は東西方向の溝で A 区検出。ほぼ併行関係にあり、溝 1 ~ 3 と 4 ~ 6 は 13.5 m 離れる。また、溝 8 ~ 9 も東西方向の溝で、溝 1 ~ 3 の 30 m 東の延長線上に位置する。

溝 7 は A 区で検出した南北方向の溝で幅 2 m 前後、深さ 1.4 m の深い葉研堀で一度埋没後に掘り返しが認められる。本調査区西の平成 13 年度調査 (3) や平



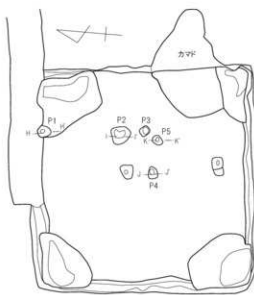


第67図 松山遺跡第45地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)



第 68 図 松山遺跡第 45 地点 H34 号住居跡 (1/60)

掘方



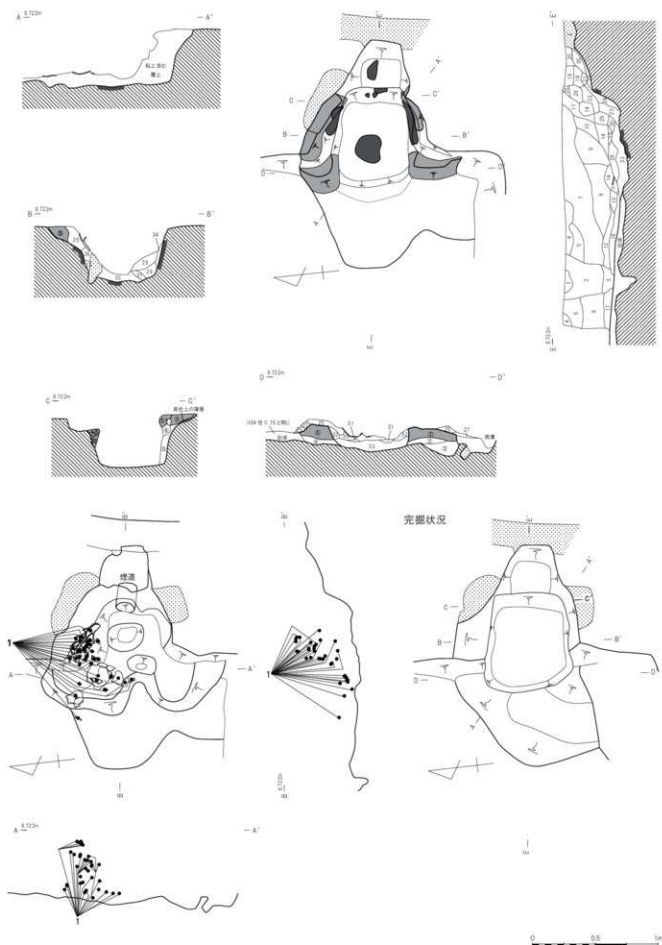
H34号住居跡内ピット

- 1 黒褐色土 締り硬。粘性有。1mm以下ローム粒少し含む
- 2 黒褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ソファローム粒少し含む
- 3 黒褐色土 締り有。粘性有。3mm以下ローム粒少し含む
- 4 暗褐色土 締り強。粘性有。黒褐色土含む。色調暗い。2mm以下ローム粒や多く含む
- 5 暗褐色土 締り硬。粘性有。平均3mm以下ローム粒多く含む
- 6 黒褐色土 締り強。粘性有。ソファ質のローム土や多く含む色調明るめ
- 7 暗褐色土 締り強。粘性有。ソファローム多く含む
- 8 黒褐色土 締り有。粘性有。15mm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒や多く含む

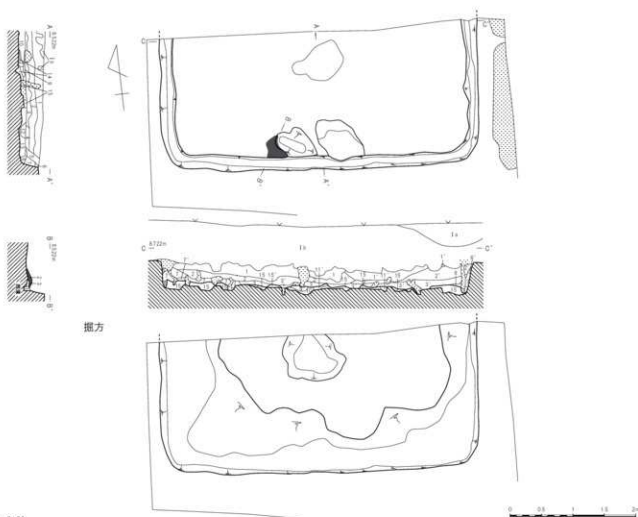


H34号住居跡カマド

- 1 黒褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ソファローム粒少し含む
- 2 黒褐色土 締り有。根のあと
- 3 黒褐色土 締り有。粘性有。1mm以下ローム粒少量
- 4 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒少量
- 5 暗褐色土 (灰色味のある黒褐色土) 締り強。粘性有。SPA・Bの1層
- 6 黒色土 締り強。粘性有。SPA・B・Cの4層
- 7 暗褐色土 締り強。粘性有。SPA・B・Cの4層
- 8 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒少量。1mm以下焼土粒極少量
- 9 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒や多量。1mm以下焼土粒極少量
- 10 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒多量。1mm以下焼土粒極少量
- 11 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒や多量。焼土粒少量
- 12 暗褐色土 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒少量。焼土粒や多量
- 13 暗褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒多量
- 14 暗褐色土 (弱) 締り強。粘性有。1mm以下ローム粒多量。焼土粒少量
- 15 黄灰褐色土 締り強。粘性強。粘土中に暗褐色土混入。焼土粒 (1mm以下) 少量。カマド粘土の溜け出したもの
- 16 黄灰褐色土 締り強。粘性強。14層に焼土粒 (2mm以下) 多量
- 17 褐色土 締り強。粘性有。2mm以下ローム粒多量。ローム塊 (1cm大) 少量
- 18 暗褐色土 締り強。粘性有。SPA・B・Cの6層
- 19 暗褐色土 締り有。粘性有。2mm以下焼土少し含む
- 20 黒褐色土 締り強。粘性有。2mm以下焼土少し。但 20mm大焼土ブロック含む
- 21 暗褐色土 締り強。粘性有。3mm以下ソファ粒の焼土を少し。5mm以下灰色粘土少し含む
- 22 暗褐色土 締り有。粘性有。ソファ粒の焼土を少し。1mm以下ローム粒少し含む
- 23 暗褐色土 締り強。粘性有。3mm焼土・2mm以下焼土粒をやや多く含む
- 24 黒褐色土 締りやや弱。粘性やや弱。5mm以下焼土・1mm以下粘土粒や多く含む
- 25 暗褐色土 締り強。粘性有。5～10mm焼土多く含む。2mm以下粘土粒・3mm以下炭化物少し含む
- 26 黒褐色土 締り有。粘性有。30mm以下白色粘土ブロック多量。10～50mmロームブロック少し。3mm以下焼土・炭化物少し含む
- 27 暗褐色土 締り有。粘性有。5mm以下焼土少し含む (粘土含まない)
- 28 暗褐色土 締り有。粘性有。20mm以下白色粘土が多く混ざり、白色味呈する。15～1mm焼土少し。2mm以下炭化物少し含む (白色粘土集中するが、基本的に25層の1部)
- 29 暗褐色土 締り強。粘性有。3mm以下焼土・炭化物や多く含む。白色粘土分多く含む。白色味あり。2mm以下粒状の粘土も多く含む
- 30 暗褐色土 締り強。粘性有。焼土混じりの粘土分を含む。赤灰色味がある。5mm以下焼土と粒状の白色粘土 (1～5mm) を多く含む
- 31 暗褐色土 締り強。粘性有。28層より粘土分少なく。色調暗い5mm以下焼土や多く含む
- 32 暗褐色土 締り強。粘性やや弱。5mm以下焼土多く含む。5mm以下ローム粒・炭化物少し含む
- 33 暗褐色土 締り強。粘性有。白色粘土分を含む。色調白色味あり。3mm以下粒状の粘土も多く含む。5mm以下焼土・2mm以下炭化物や多く含む
- 34 暗褐色土 締り強。粘性有。5mm以下焼土多く。3mm以下炭化物少し含む。粘土粒は少なく。1mm以下わずかに含む
- 35 赤褐色土 締り有。粘性余やや弱。粘土混じりの暗褐色ペーストに5mm以下焼土主体
- 36 暗褐色土 締り強い。粘性有。2mm以下焼土少し含む。茶褐色味強い (20mm以下焼土を伴う黒褐色土が入る)
- 37 暗褐色土 締り有。粘性有。焼土混じりの塊。ソファ粒で3mm以下ローム粒多量。焼土少し含む
- ① 灰色粘土 締り強。粘性強。5mm以下白色粘土粒や多く。2mm以下黒色土粒・5mm以下焼土少し。5mm以下ローム粒わずかに含む
- ② 白色粘土 締り強。粘性強。5mm以下焼土少し含む
- ③ 黒灰色土 締り強。粘性有。粘土を含む。灰色味が強い。10～30mmロームブロックや多く。2mm以下黒色土・1mm以下焼土わずかに含む
- ④ 黒褐色土 締り有。粘性有。ソファローム土がまじり。色調明るめ5～10mmロームブロック少し。2mm以下ローム粒や多く含む
- ⑤ 暗褐色土 締り強。粘性有。ソファローム主体。5～30mmロームブロックや多く含む。粘土14層 (SPC-C) と同じ
- ⑥ 暗褐色土 締り強。粘性有。ローム分を含む。黄褐色味がある。2mm以下白色粘土・黒色土粒少し含む。カマド構造物
- ⑦ 灰色粘土 締り有。粘性有。石灰に粘土を含む。硬褐色味がある。5層より白っぽい
- ⑧ 灰色粘土 締り有。粘性有。石灰と同質だが、粘土を含まない。5mm以下ローム粒わずかに含む。5層より白っぽい
- ⑨ 暗褐色土 締り強。粘性強。粘土を含む灰色味がある。石灰で焼褐色の焼土を多く。1mm以下黒色土粒少し含む
- ⑩ 黄褐色土 締り有。粘性有。ローム土主体で3mm以下焼土・白色粘土粒や多く含む。2mm以下黒色土少し含む



第 70 図 松山道跡第 45 地点 H34 号住居跡 (1/30)



掘方

A-A'・C-C'

- 1 a 暗褐色土 細砂強。粘性有。盛土、ローム土多く含む  
 1 b 暗褐色土 細砂強。粘性有。表土、盛土。灰色味がある。2mm以下ローム粒少し含む  
 1 黒褐色土 細砂強。粘性有。1mm以下ローム粒均一に少し。3mm以下焼土わずかに含む  
 1' 黒褐色土 細砂強。粘性有。1層より色調明るめ。2mm以下ローム粒少し。5～10mmロームブロック。3mm以下焼土。5mm炭化物物少し含む  
 2 黒褐色土 細砂強。粘性有。2mm以下ローム粒1層よりやや多く含む。ベースの土の色調は1層より暗い  
 2' 黒褐色土 細砂強。粘性有。1層より色調明るめ。1mm以下ローム粒やや多く。1mm以下焼土。1～10mm炭化物物少し含む  
 2'' 黒褐色土 細砂強。粘性有。2mmローム粒少し。2～5mm炭化物物少し含む  
 3 暗褐色土 細砂強。粘性有。ローム土度じりの黒褐色土。2mm以下細かなローム粒多く含む。炭化物。5mm以下焼土少し含む  
 3' 暗褐色土 細砂強。粘性有。しみ状にソフ質のロームブロック。5mm以下ハーフローム粒やや多く。5mm以下焼土。最大60mm。平均2～15mm炭化物物比較的多く含む  
 4 黒褐色土 細砂強。粘性有。5～10mmロームブロック少し。1mm以下ローム粒やや多く。炭化物。5mm以下焼土少し含む  
 5 暗褐色土 細砂強。粘性有。1mm以下細かなローム粒やや多く。1mm以下焼土少し含む  
 6 暗褐色土 細砂強。粘性有。2mm以下ローム粒多く含む  
 6' 暗褐色土 細砂強。粘性有。1mm以下ローム粒少し含む  
 7 暗褐色土 細砂強。粘性有。5～30mm破断したロームブロック。2mm以下ローム粒。2mm以下焼土やや多く含む  
 7' 暗褐色土 細砂強。粘性有。7層土ベース。しみ状に黒色土。最大10mm。平均2mm以下焼土多く含む  
 8 暗褐色土 細砂強。粘性有。ソフ質のローム土多く含む。色調明るめ。1mm以下ローム粒多く。1mm以下焼土少し含む  
 9 暗褐色土 細砂強。粘性有。灰色粘土層じり。5mm以下ローム粒やや多く。3mm以下焼土。炭化物物少し含む  
 9' 黄褐色土 細砂強。粘性有。灰色粘土を伴う10層を層うよに堆積。40mm以下ロームブロック。ローム土主体。しみ状の暗褐色土を含む  
 10 黄褐色土 細砂強。粘性有。50mm以下ロームブロック主体。20mm以下灰色粘土ブロックやや多く含む。3mm以下焼土少し含む  
 11 灰色土 細砂強。粘性有。灰色粘土主体。3mm以下ローム粒。炭化物物少し含む  
 11' 暗褐色土 細砂強。粘性有。1mm以下ローム粒多く含む色調明るめ。1mm以下炭化物。焼土少し含む  
 12 黄褐色土 細砂強。粘性有。ローム土多く含む  
 13 暗褐色土 細砂強。粘性有。ソフロームベースに50mm以下ロームブロック主体。南壁中央付近に特徴的に見られた  
 14 黄褐色土 細砂強。粘性有。しみ状の灰色粘土やや多く含む  
 15 黄褐色土 細砂強。粘性有。ソフロームベースにロームブロック多く含む  
 15' 黄褐色土 細砂強。粘性有。ローム土主体。しみ状の黒褐色土やや多く。2mm以下炭化物物少し含む

B-B'

- 1 暗褐色土 細砂強。粘性有。5mm以下ロームやや多  
 2 赤褐色土 細砂強。粘性有。20mm以下焼土ブロック主体。黄灰色土やや多く。黒褐色土少し含む  
 3 暗褐色土 細砂強。粘性有。黄灰色味があるローム土主体。3mm以下焼土やや多く含む

第71図 松山遺跡第45地点 H35号住居跡・掘方 (1/60)

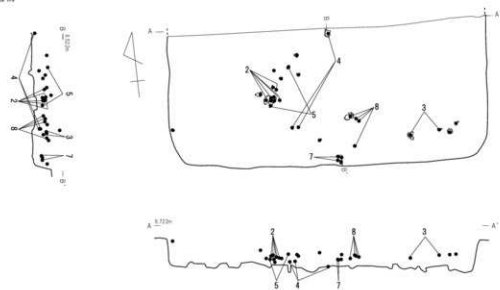
成 11 年度調査 (5) でも延長部分と思われる同様な溝が検出されている。

溝 8 は南北方向から東西方向へ L 字形に曲がる。

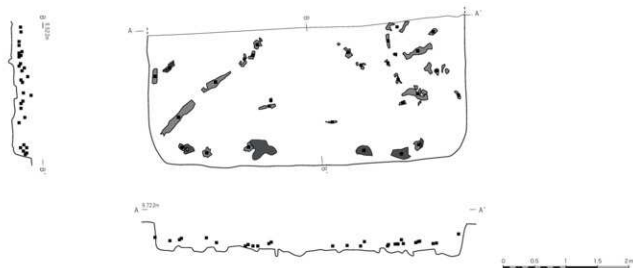
いずれの溝も出土遺物はなく、時期不明である。

【溝状遺構】調査区南端で、断面「L」の長方形土坑を検出した。いわゆるイモ類を貯蔵する「イモビツ」と思われる。

# 遺物

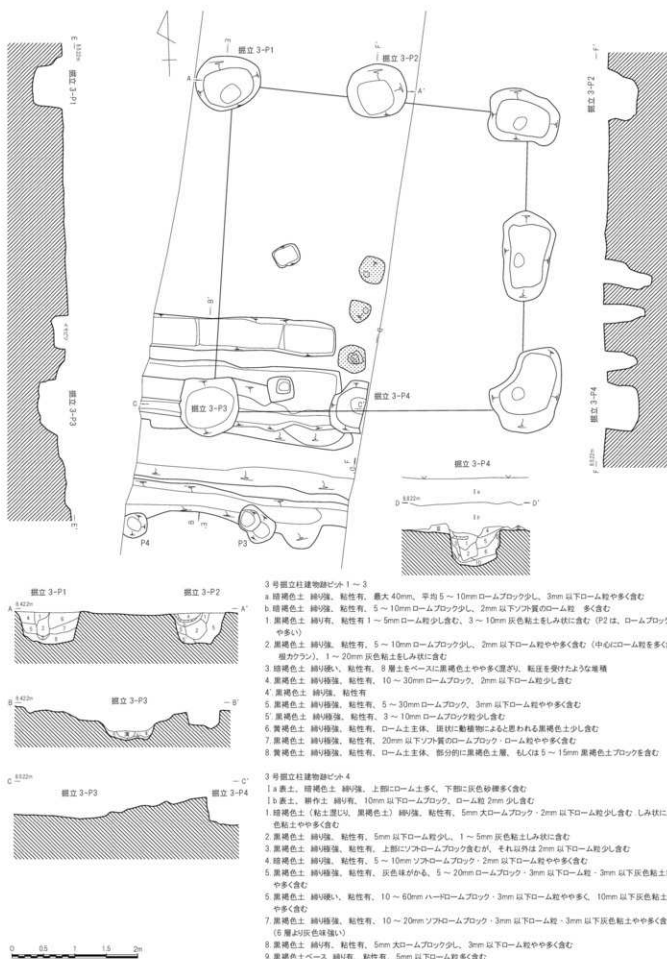


# 炭化物



第 72 図 松山遺跡第 45 地点 H35 号住居跡遺物・炭化物出土状況図 (1/60)

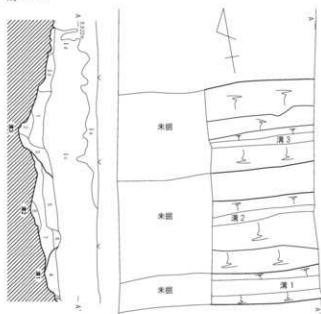




第74図 松山遺跡第45地点3号据立柱建物跡 (1/60)



## 溝1～3

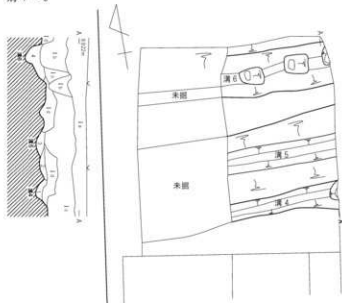


- 1a 暗褐色土 締り強。粘性有。灰色味あり。5mm以下ローム粒・15mm大ロームブロック少し含む  
 1b 黒褐色土 締り有。粘性やや弱。25mm以下ロームブロックやや多く含む。1cと1dが混ざったような土質  
 1c 暗褐色土 締り強。粘性有。灰色味あり。最大70mm、平均30mm以下ロームブロック・5mm以下ローム粒少し含む。北部分は、H31住付石と同様にロームブロック・ローム粒さらに少なく、60mm以下黒色土ブロック混ざる。耕作土  
 1d 黒褐色土 締り強。粘性有。100mm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む。旧耕作土

## 溝1～3

- 溝3 1 黄褐色土 締り有。粘性有。10mm以下ロームブロック・ローム粒少し含む (別図参照)  
 溝3 2 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。平均5～10mmロームブロック少し含む  
 溝3 3 暗褐色土 締り有。粘性やや弱。最大90mm、平均25mm以下ロームブロック・ローム粒やや多く含む。溝2層土より色濃しい  
 溝1 4 黄褐色土 締り有。粘性有。ソフトローム質で10mm以下のロームブロック・ローム粒やや多く含む  
 溝2 5 暗褐色土 締り有。粘性有。20mm大ロームブロック少し、5mm以下ローム粒多く含む  
 溝2 6 暗褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ソフトローム粒やや多く含む。黒褐色土含む  
 溝2 7 黄褐色土ベース 締り有。粘性有。5～25mmロームブロック、5mm以下ローム粒多く含む  
 溝2 8 黄褐色土ベース 締り有。粘性有。2mm以下ローム粒やや多く含む

## 溝4～6



## 溝4～6

- 溝4 1 黄褐色土 締り有。粘性有。10～50mmハードロームブロック多く含む  
 溝4 2 暗褐色土 締り有。粘性有。5～10mmロームブロックやや多く含む。ベースの土はローム土を含み、色濃明るめ。底面の起伏著しい  
 溝5 3 暗褐色土 締り有。粘性有。20～50mmロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒少し含む  
 溝6 4 黄褐色土 締り有。粘性有。5mm以下ローム粒少し含む。南北壁間にロームブロック混ざる

0 0.5 1 1.5 2m

第75図 松山遺跡第45地点溝1～6 (1/60)